



大会報告書
世界水泳選手権2023福岡大会・世界マスターズ水泳選手権2023九州大会



World Aquatics Championships-Fukuoka 2023
World Aquatics Masters Championships-Kyushu 2023

大会報告書

世界水泳選手権2023福岡大会
世界マスターズ水泳選手権2023九州大会

WATER MEETS THE FUTURE

世界水泳選手権2023福岡大会 世界マスターズ水泳選手権2023九州大会



(左から)大会開幕前日の記者会見に臨むBrent J. Nowicki 世界水泳連盟事務総長、Husain Al-Musallam 世界水泳連盟会長、鈴木大地福岡大会組織委員会会長、高島宗一郎福岡市長

世界水泳選手権2023福岡大会 オープニングプレスカンファレンス

2023年7月13日(木)
マリンメッセ福岡A館 メインプレスセンター



(左から)登壇する飛込の玉井陸斗選手(日本)とCHEN Yiwen選手(中国)、競泳・OWSのFlorian Wellbrock選手(ドイツ)、水球のFelipe Perrone選手(スペイン)とMargarita Plevritou選手(ギリシャ)、アーティスティックスイミングの乾友紀子選手(日本)



大会への意気込みを語る各競技の選手たち



世界水泳選手権2023福岡大会 開会式

2023年7月14日(金)
ボートレース福岡



秋篠宮皇嗣同妃両殿下 ご臨席



秋篠宮皇嗣殿下 開会宣言



世界水泳連盟会長挨拶



福岡大会組織委員会会長挨拶



福岡市長挨拶



ウォーターアトラクションとLED装飾ボート



式典終了後の市民向けアフターツアー

世界水泳選手権2023福岡大会

ハンドオーバーセレモニー(閉会式)

2023年7月30日(日)
マリンメッセ福岡A館



福岡2023大会からドーハ2024大会へ世界水泳連盟の旗が引き継がれた



世界水泳選手権2023福岡大会

競技会場

2023年7月14日(金) - 30日(日)
17日間



マリンメッセ福岡A館
・競泳 ・アーティスティックスイミング



シーサイド
ももち海浜公園
・ハイダイビング ・オープンウォータースイミング



福岡県立総合プール
・飛込



マリンメッセ福岡B館
・水球

男子400m個人メドレー金メダリスト レオン・マルシャン選手(フランス)と、プレゼンターとして登場した競泳レジェンド マイケル・フェルプス氏。マルシャン選手は、同種目におけるフェルプス氏の世界記録を15年ぶりに更新した。



男子200m平泳ぎ決勝で世界新記録を出した、中国の覃海洋(タン・カイヨウ)選手



女子4×100mメドレーリレー決勝で6位に入った日本



女子50m平泳ぎ及び100m平泳ぎ予選で自己ベストを更新し、決勝まで進出した福岡出身の鈴木聡美選手

世界水泳選手権2023福岡大会 競泳



単選手が優勝した男子100m平泳ぎでは、3人の選手が同着で銀メダルとなった。



女子最優秀選手と男子最優秀選手に輝いた、ケーリー・マキオン選手(オーストラリア)と、マルシャン選手



男子200mバタフライで銅メダルを獲得した本田灯選手

日本勢の活躍に熱い声援が送られた。



世界水泳 FUKUOKA 2023



最優秀チームに選ばれたアメリカ



女子50m自由形準決勝で世界新記録を出したサラ・シヨーストロム選手(スウェーデン)。50mバタフライでは、5連覇を達成した。



男子400m個人メドレーで銅メダルを獲得した瀬戸大也選手。今大会の日本勢メダル第1号となった。



6年ぶりに挑んだ世界水泳選手権で、50mバタフライで決勝進出を決めた池江璃花子選手

世界水泳選手権2023福岡大会
アーティスティックスイミング



世界選手権で初めて実施された男子ソロ



チームフリーとアクロバティックルーティンを制した中国



チームへの男子選手の参加も可能になった。



最優秀チームに選出された日本



競技後に実施されたガラエキシビジョン



チーム種目では、日本はフリーで銀メダル、アクロバティックルーティンで銅メダルを獲得した。



2大会連続でソロ(フリー・テクニカル)を制した乾友紀子選手



デュエットテクニカルで金、フリーで銅メダルを獲得した安永真白選手・比嘉もえ選手ペア



混合デュエットテクニカルで金メダルに輝いた佐藤友花選手・佐藤陽太郎選手の姉弟ペア。同種目では日本勢初の優勝となった。



金メダルを獲得したハンガリー男子チーム



金メダルに輝いたオランダ女子チーム



男女ともに決勝戦はペナルティシュートアウトまでもつれこんだ。



男子10m高飛込で決勝に進出した玉井陸斗選手



最優秀チームに選出された中国



女子10m高飛込で10点満点を出した中国の全紅嬋(ゼン・コウセン)選手



14位の日本女子チーム



11位の日本男子チーム



混合シンクロ10mで銅メダルを獲得した伊藤洸輝選手・板橋美波選手ペア(右から)



女子5kmで力泳する梶本一花選手。同種別で日本勢最高の14位でゴールした。



男子金メダルのコンスタンティン・ポポビッチ選手(ルーマニア)



混合6km(4×1500m)リレーは、イタリアが制した。

男子と女子の5km、10kmをともに制した、ドイツのフロリアン・ウェルブロック選手(左)とレオニー・ベック選手



最優秀チームに輝いたドイツ



日本人唯一の出場者、荒田恭平選手

大会3連覇を成し遂げた女子金メダルのリアナン・イフランド選手(オーストラリア)



世界水泳選手権2023福岡大会 ハイダイビング

世界水泳選手権2023福岡大会 オープンウォータースイミング

航空自衛隊のアクロバット飛行チーム・ブルーインパルス[®]の展示飛行。世界水泳福岡大会の開幕を記念して実施された。



世界マスターズ水泳選手権2023九州大会(3都市開催) 競技会場

2023年8月2日(水)–11日(金)
10日間



福岡市
マリンメッセ福岡A館
・競泳

福岡市

総合西市民プール
・競泳



福岡県立総合プール
・飛込



夜空を彩るドローンショー。
大会期間中に実施された。



シーサイドももち海浜公園
・オープンウォータースイミング



ユネスコ無形文化遺産に登録された博多祇園山笠の「昇き山笠」(通常の高さの1.5倍・6m、人形師:中村弘峰氏)。Fukuoka Ichibaに展示され、来場者のフォトスポットとなった。



熊本市総合屋内プール
(アクアドームくまもと) ・水球

熊本市



鹿児島市
鹿児島市鴨池公園水泳プール
・アーティスティックスイミング

世界マスターズ水泳選手権2023九州大会

競泳

マリメッセ福岡A館
総合西市民プール



世界マスターズ水泳選手権2023九州大会

飛込

福岡県立総合プール



マリメッセ福岡A館

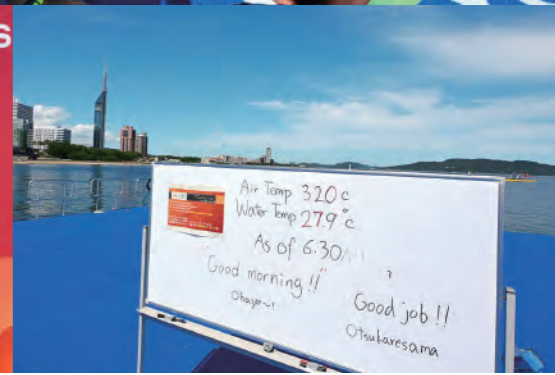


総合西市民プール



オープンウォータースイミング

シーサイドももち海浜公園



世界マスターズ水泳選手権2023九州大会
水球

| アクアドームくまもと

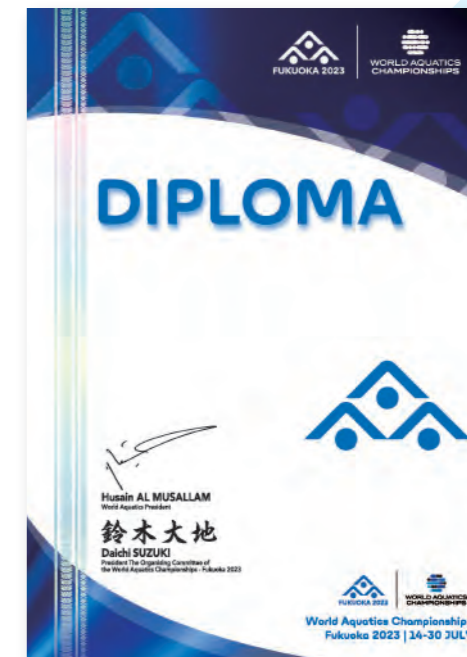


アーティスティックスイミング

鹿児島市鴨池公園水泳プール |



メダル・ディプロマ・トロフィー



世界水泳選手権2023福岡大会 ディプロマ



世界水泳選手権
2023福岡大会
メダル



世界水泳選手権2023福岡大会 チームトロフィー



世界マスターズ水泳選手権2023九州大会メダル・ディプロマ



世界水泳選手権2023福岡大会 個人トロフィー

エンブレム・マスコット



世界水泳選手権2023福岡大会エンブレム



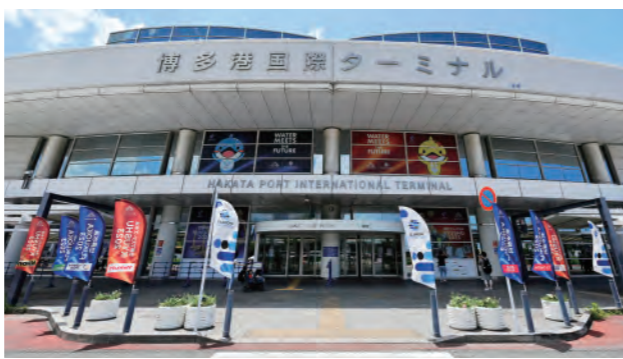
世界マスターズ水泳選手権2023九州大会エンブレム



福岡空港で大会参加者を出迎える大会マスコットのシーライ(左)とシャーニー



競技会場内のアスリートラウンジ



アクレディテーションセンターとユニフォームセンターが設置された博多港国際ターミナルの入口装飾



「一人一花運動」の一環で来場者をもてなすシーライとシャーニーの花オブジェ

広報物・装飾



世界水泳選手権2023福岡大会公式ポスター・プログラム



世界マスターズ水泳選手権2023九州大会公式ポスター・プログラム



大会の気運醸成のため、空港や主要駅、街路灯、路線バス等への装飾を行うシティドレッシングを実施した。



福岡空港



公式プログラムは、競技会場内のラウンジ等で配布を行った。



路線バス



天神エリア



JR博多駅

挨拶	24
大会に関する数字	28
Chapter1 はじめに	
1. 世界水泳選手権2023福岡大会および世界マスターズ水泳選手権2023九州大会の概要	32
2. 開催都市の紹介	36
Chapter2 計画	
1. 大会計画	40
2. 組織体制、組織委員会の沿革	42
Chapter3 国際連携	
1. 世界水泳連盟との連携	46
2. 世界水泳連盟公式イベントへのサポート	47
Chapter4 財政	
1. 大会予算の推移	50
2. 大会事業費の決算見込み	51
3. 大会のPR効果	52
4. 大会の経済波及効果	53
Chapter5 プロモーション	
1. ウェブサイト	56
2. ソーシャルメディア	57
3. オンラインプロモーション	58
4. 主要イベント	60
5. 市民参加イベント	63
6. PRブース	65
7. マスコットの運用	66
8. 応援リーダー・PRサポーター	67
9. シティドレッシング	69
10. 海外プロモーション	73
11. 関連プロジェクト	76
Chapter6 マーケティング	
1. スポンサー	80
2. Fukuoka Ichiba(ファンゾーン)	84
3. 公式グッズ	86
4. 寄付	89
Chapter7 会場設営	
1. 会場情報	94
2. 会場装飾	97
3. 備品	100
4. 物流	102
5. 清掃・ごみ	106

Chapter8 チャンピオンシップ

1. GMS	110	15. ラウンジ	147
2. AD	112	16. 情報・通信テクノロジー	152
3. 出入国支援	112	17. 放送	155
4. 宿泊	113	18. IBC	157
5. 輸送	116	19. RHB用レートカード	159
6. 観客交通	117	20. 報道	160
7. 通関	118	21. フォトグラファーの育成	163
8. 開閉会式	118	22. ユニフォームの制作	164
9. 競技	123	23. ユニフォームセンター	166
10. その他競技関係	131	24. レガシー	167
11. 医療サービス	136	25. 保険	168
12. ドーピングコントロール	140	26. アスリートへのおもてなし	169
13. セキュリティ	142	27. 観客サービス	170
14. チケット	144		

Chapter9 マスターズ

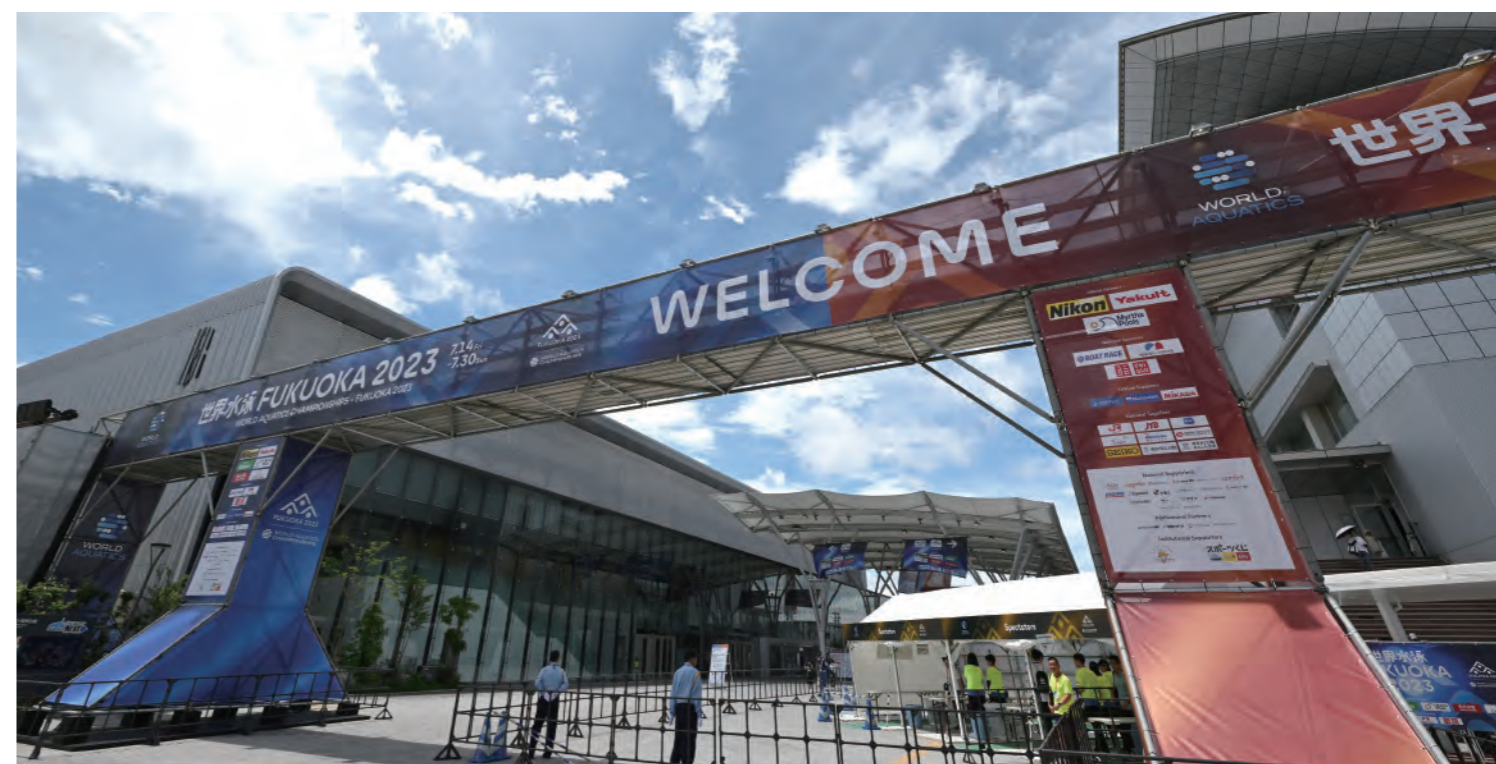
1. GMS	174
2. AD	176
3. 宿泊・輸送	177
4. 開閉会式	180
5. 競技	181
6. その他競技関係	185
7. 医療サービス	187
8. セキュリティ	191
9. 放送(YouTube)	191
10. 報道	192
11. 公式写真販売サービス	193
12. ファンゾーン	194
13. 台風6号による大会の延期	195
14. マスターズの成果	196

Chapter10 ボランティア

1. 募集と管理	200
2. 参加特典	203
3. ボランティアレガシー	203

付録

1. 競技スケジュール	
①チャンピオンシップ	207
②マスターズ	208
2. 競技結果	209
3. プレゼンターリスト	225
4. 競技会場図	232





世界水泳連盟会長
Captain Husain Al-Musallam



世界水泳選手権2023福岡大会はパンデミックの影響により二年遅れでの開催となったため、他に類を見ない多くの課題に直面しました。しかし開催都市である福岡市は忍耐強く、そして冷静沈着に一つ一つの課題に取り組み、長引いた準備期間が決して無駄ではなかったことを、今年7月に見事に証明されました。

2001年に開催された福岡大会での数々のすばらしい思い出はしっかりと心に刻まれています。2023年の福岡大会でも、17日間の大会期間中、世界新記録の樹立や劇的なゴール、熱いPK戦など、数多くの記憶に残るパフォーマンスを目の当たりにしました。

50年前の第1回大会から数えて20回目を迎えた本大会では、史上最多に並ぶ191か国から集まった2,361人の選手と世界水泳連盟難民チームが、選手こそがスターである理由を改めて示しました。連日繰り広げられる熱戦で、選手たちは目を見張る活躍を見せたのです。

競泳では、10の世界新記録という驚異的な数字が示す通り、かつてないほどハイレベルなレースが続きました。水球では競技史上稀にみる熾烈な争いがあり、オープンウォータースイミング、飛込、ハイダイビングでは、選手たちが並外れたパフォーマンスで見る者全てを魅了しました。アーティスティックスイミングでは初の男子ソロ種目において世界チャンピオンが誕生し、新たなページが開かれました。

2001年と同じように、選手たちは福岡で再び歴史に名を刻んだのです。

選手たちは大会の鼓動・顔ですが、舞台なくしてパフォーマンスは披露できません。その舞台としてすばらしい会場と環境を提供し、選手たちのためにご尽力くださった組織委員会、そして関係者の皆さまに感謝申し上げます。

最後に、パートナーの皆さまへ心からお礼を申し上げます。本大会に向けて温かく力強いご支援を賜り誠にありがとうございました。世界水泳連盟のスタッフ一同、そして全選手を代表して皆さまに多謝申し上げます。

福岡は、最も記憶に残る世界水泳選手権を開催した特別な場所です。ありがとう日本、ありがとう福岡。



世界水泳選手権2023福岡大会組織委員会
会長
鈴木 大地

鈴木大地

世界水泳連盟ファミリーをはじめ、水泳関係者、組織委員会、ボランティアスタッフの皆さまのご尽力により、世界水泳選手権2023福岡大会が無事開催できたことを大変誇りに思います。

世界中から参加された選手やチーム関係者、多大なご支援を頂きました国やスポンサー、大会のニュースを発信してくれた内外のメディアの皆さま、そして情熱的にサポートして下さった地元福岡の人々に敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

本大会は、結果として多くの参加選手と観客が集まり、『高い水準の大会運営スキル』と『成熟した国民性』を国内外に証明することになりました。

水泳は我が国におきまして、とてもメジャーなスポーツであり、生涯を通じて行うことができるスポーツです。今回の大会の成功が、『日本の水泳競技レベルの向上』と『水泳の裾野の拡大』に向けてポジティブな影響を与えてくれると確信しております。

さらに本大会のコンセプトである「WATER MEETS THE FUTURE」のとおり、水泳関係者を越えたより多くの人々が明るく健康的な未来へ向けた行動を広めていただければこの上ない幸せです。

終わりに、本大会の開催にご関係いただきました世界水泳連盟並びに関係者の皆さま、世界選手権に参加された皆さまの今後益々のご活躍を祈念いたします。

皆さまにまたどこかでお会いできることを楽しみにしております。



福岡市長 / 組織委員会副会長
高島 宗一郎

福岡市長の高島宗一郎(たかしまそういちろう)です。
アジア初の開催となった2001年大会から22年。再び福岡市において世界水泳選手権を開催できたことは大変光栄であり、フセイン会長と世界水泳連盟ファミリーメンバー、選手、関係者、観戦者の皆様に心から感謝いたします。

また、開催にご尽力いただきました、世界水泳連盟及び日本水泳連盟、日本政府、福岡県、関係者の皆様に敬意を表します。

7月14日の世界水泳選手権開幕から
8月11日に世界マスターズ水泳選手権が閉幕するまで、
世界中から、アスリート、関係者、メディアなどを含む多くの方々に福岡にお越しいただきました。
皆様にとって、福岡、九州での滞在が素晴らしいものになったのであれば大変うれしく思います。

本大会では、17日間の激戦の中で10個の世界新記録が誕生するなど、大変な盛り上がりを見せるとともに、競技会場、運営体制等において高い評価をいただきました。

これらの成功は、お力添えをいただいた多くのボランティアの皆様やスタッフによる献身的な活動と、福岡市民の皆様の深いおもてなしの心によるものです。

本大会のコンセプトである「WATER MEETS THE FUTURE」のとおり、多くの人々に気づきをもたらし、明るい未来に向けた行動を促す大会になったのではないかと思います。

本大会の成功を収めた実績は、福岡市の魅力を世界中に知っていただく契機となるとともに、持続的なプレゼンスの向上につながるでしょう。

この出来事を私たちの誇り高い歴史の一部として記憶し続けたいと思います。

改めて、大会成功のために力と知恵を結集した皆様へ深く感謝の意を表します。



来場者延べ人数

483,050人



ボランティア延べ人数

12,323人



参加国数、参加選手数

チャンピオンシップ
191 国・地域

2,361人

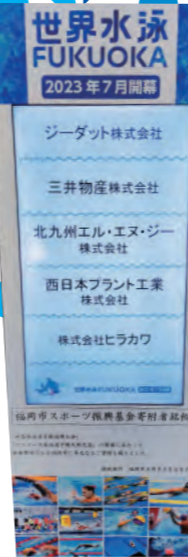


スポンサー数

39 団体



寄付企業数
185 団体



総視聴者数

19.4 億人



マスターズ
77 国・地域

7,512人

世界新記録

チャンピオンシップ

10 個

マスターズ

33 個



経済波及効果

全国 776 億円
福岡市内 433 億円



累計放送時間

4,900 時間

放送局、地域数

130 国・地域 58 局

事前キャンプの開催

20 自治体 35 国



Chapter 1



はじめに

Section1

世界水泳選手権2023福岡大会および 世界マスターズ水泳選手権2023九州大会の概要

はじめに

世界水泳選手権は世界水泳連盟が主催する大会で、通例2年に1度開催される。競泳・飛込・ハイダイビング・水球・アーティスティックスイミング・オープンウォータースイミングの6競技で世界を競う、水泳界においてオリンピックに次ぐ重要な国際大会である。

かつては2～5年間隔で不定期に行われてきたが、2001年の第9回福岡大会以降は夏季オリンピックの前年と翌年の奇数年に開催されるようになった。1973年の第1回ベオグラト大会以来、参加選手・参加国・放送国数ともに増加している。

世界水泳選手権2023福岡大会は2016年1月に行われた国際水泳連盟(現：世界水泳連盟)理事会において、福岡市で開催されることが決定した。福岡市での開催は、アジア初開催となった2001年大会から22年ぶり2回目である。

当初、2021年7月に開催予定であった本大会は新型コロナウイルスの感染拡大による2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催延期に伴い、2022年5月に大会日程が延期となった。(2020年5月13日に決定)

その後も、新型コロナウイルスの感染拡大が収束しなかったため、東京五輪と同様のバブル方式での大会準備を検討していたところ、2022年1月に国際水泳連盟から再延期の提案を受け、組織委員会と国際水泳連盟との間で交渉を行い、結果、2023年7月へ開催日程を再延期することとなった。(2022年2月1日に決定)

かつてない2度の大会延期を経て、世界水泳選手権2023福岡大会は2023年7月14日から7月30日までの17日間で盛大に開催され、10個の世界新記録が樹立された。

世界マスターズ水泳選手権は世界水泳連盟が主催する水泳のマスターズ大会であり、競泳・飛込・水球・アーティスティックスイミング・オープンウォータースイミングの5競技を通じて、健康・友情・相互理解を実現することを目的としている。25歳以上(水球競技は30歳以上)であれば、誰でも参加可能であり、世界中の元選手や水泳愛好家が多数参加する大会である。

世界マスターズ水泳選手権2023九州大会は、福岡・熊本・鹿児島県の3都市で開催した。

3都市開催により、「あらゆる世代への水泳の浸透を図る」「参加者と市民との交流を促進させる」「大会開催による都市力の向上につながる」といった大会開催による効果やレガシーを広く波及させることができた。

本大会は、どの会場も無料で観戦することができ、水泳の魅力を感じることができる素晴らしい大会となった。



1 基本情報

世界水泳選手権2023福岡大会

チャンピオンシップ

- (1) 主催 世界水泳連盟
- (2) 主管 日本水泳連盟、福岡市、
世界水泳選手権2023福岡大会組織委員会
- (3) 開催期間 2023年7月14日(金)～7月30日(日)
17日間
- (4) 参加人数 191か国・地域、2,361人
- (5) 来場者延べ人数 302,946人
- (6) 種別6種別 75種目
(競泳、飛込、ハイダイビング、水球、アーティスティックスイミング、オープンウォータースイミング)
- (7) 競技会場
マリンメッセ福岡A館
(競泳・アーティスティックスイミング)
福岡県立総合プール(飛込)
マリンメッセ福岡B館(水球)
シーサイドももち海浜公園
(ハイダイビング・オープンウォータースイミング)

世界マスターズ水泳選手権2023九州大会 マスターズ

- (1) 主催 世界水泳連盟
- (2) 主管 日本水泳連盟、福岡市、
世界水泳選手権2023福岡大会組織委員会
- (3) 開催期間 2023年8月2日(水)～8月11日(金)
10日間
- (4) 参加人数 77か国・地域、7,512人
- (5) 来場者延べ人数 180,104人
- (6) 種別 5種別
(競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミング、オープンウォータースイミング)
- (7) 競技会場
マリンメッセ福岡A館(競泳)
総合西市民プール(競泳)
福岡県立総合プール(飛込)
シーサイドももち海浜公園
(オープンウォータースイミング)
アクアドームくまもと(水球)
鴨池公園水泳プール
(アーティスティックスイミング)

2 大会コンセプト 「WATER MEETS THE FUTURE」

本大会の大会コンセプト「WATER MEETS THE FUTURE」には、この大会に参加するすべての人に、未来に出会ってほしいという思いが込められている。

革新的なテクノロジーによって「水泳の未来」をつくりだすことにくわえて、様々な人々との繋がりを通じて「地域の未来」もつくりだす大会を目指した。

選手や水泳ファンをこえて、より多くの人々に気づきを与え、明るく健康的な未来に向けた行動を促すことで、2001年から22年を経て、「魅せる大会から、人を動かす大会」へと進化させることを目標として大会開催の準備にあたった。

WATER MEETS THE FUTURE

ここで未来が待っている。

これまでで最も革新的でソーシャルな大会になる。
それは新しい水泳をつくりだす。
それは新しい福岡をつくりだす。
参加するすべての人が、未来に出会うことになる。



3 大会エンブレム

FukuokaのFと水泳競技を一体化した記号を元に、世界中のだれでもイメージしやすいピクトグラム方式を採用。頭と腕のフォルムは水泳6競技の動きを連想させ、世界最高峰を称える表彰台をイメージした形になっている。マスターズ大会は、腕の先を丸くし、少しゆったりしたオレンジ色の優しい印象になっている。



4 大会マスコット

海に開かれた福岡にちなみ、海の人気者で知られるイルカがモチーフ。人間味あふれるキャラクターが大会を盛り上げた。人気ゲームソフト「妖怪ウォッチ」を生み出した福岡市のゲームソフト会社「レベルファイブ」がデザインし名付けた。



< シーライ >

海の国「バブルカ」からやってきた男の子。泳ぐ速さは誰にも負けないと自信に満ち溢れ、人懐っこい性格だけど、実は競い合うことも好きな勝負師。人間の世界でもビッグになることを夢見ている。

【名前の由来】

「海(Sea)」と「光(Light)」

「海」は福岡が海に開かれていること、「光」は人々の未来を照らすことを意味している。



< シャーニー >

シーライとともにバブルカからやってきた女の子で、少しどんくさいところもあるけれど、努力して克服する頑張り屋。みんなと仲良くできる性格で、いつか仲間たちと一緒に世界一周の旅をするのが夢。

【名前の由来】

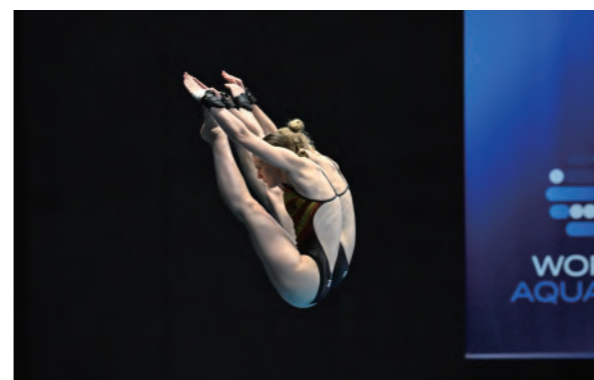
「輝き(Shine)」

「輝き」は大会に携わる全ての人々の明るい未来を意味している。

5 参加国と参加選手数

大会には、191か国・地域から、2,361人の選手が参加した。

競技別選手内訳			
競泳	189か国・地域	1,097人	
飛込	50か国・地域	263人	
ハイダイビング	19か国・地域	43人	
水球	19か国・地域	466人	
			アーティスティック スイミング
			オープンウォーター スイミング
			52か国・地域 340人
			53か国・地域 179人





→→→ Section2

開催都市の紹介

■ 福岡市

福岡市は、2000年にわたり大陸との交流窓口の役割を果たし、国際的な交流拠点都市として発展を遂げてきた。「アジアとの玄関口」として、日本有数の発着回数の福岡空港、韓国釜山との定期航路を有する博多港や九州の玄関口である博多駅など、国内屈指の交通アクセスを誇っている。

また、日本一の軒数を誇る屋台をはじめ、新鮮な魚介類、ラーメン、水炊き、もつ鍋など、福岡ならではの豊富な食文化に加え、博多、天神エリアを中心にショッピング施設が集積しており、充実した都市機能がコンパクトに凝縮している。

このほか、博多駅の近くに寺や神社が集まり、歴史的な祭りなどの文化の中心地である“博多旧市街”や大濠公園近くにある“福岡城・鴻臚館跡”といった歴史的な文化遺産に加え、志賀島や北崎・二見ヶ浦など、福岡市の東西に広がるフォトジェニックなシーサイドを身近に楽しむことができることも福岡市の魅力の1つである。

さらに、福岡市から新幹線や列車などを使えば気軽に九州各地へアプローチすることもできる。九州には温泉や雄大な大自然など、見どころ満載なスポットに加え、九州各地のソウルフードや地酒などさまざまな食を楽しむこともできる。

▶ 観光地・見どころ

博多旧市街、志賀島、北崎・二見ヶ浦、福岡タワー、大濠公園、福岡城・鴻臚館跡、福岡市博物館、福岡市美術館、福岡アジア美術館、パブリックアート、博多祇園山笠（約800年の歴史をもち、ユネスコ無形文化遺産にも登録。7月1日～7月15日）

▶ 食べ物

博多ラーメン、水炊き、もつ鍋、博多うどん、焼き鳥、辛子明太子

▶ 名産品

博多織、博多人形、博多曲物、高取焼



マスターズ九州大会の開催都市

■ 熊本市

熊本市は、清らかな地下水や豊かな緑などの自然環境に恵まれ、熊本城をはじめとする優れた歴史遺産と伝統文化を受け継ぐ九州の中央に位置した拠点都市である。

街の中心部にそびえる熊本城は、2016年の熊本地震により大きな被害を受けたが、段階的に復旧が進み、復興のシンボルとして市民・観光客に親しまれている。

地下水に恵まれており、74万市民の水産資源を100%天然地下水でまかなっている「日本一の地下水都市」である。また「森の都」と称される豊かな緑など自然環境に恵まれ、農水産物の生産が盛んで、多彩で優れた歴史遺産と伝統文化を受け継ぐ九州中央の拠点都市として発展を続けている。



■ 鹿児島市

鹿児島市は、九州の南端、鹿児島県本土のほぼ中心部に位置する。錦江湾に浮かぶ桜島は、鹿児島のシンボルであり、市街地から桜島を望む景観が、バスピオ火山を有するナポリ市に似ていることから「東洋のナポリ」と呼ばれ、同市と姉妹都市盟約を結んでいる。今現在も噴火を続けている活火山からわずか4キロの市街地に約60万人が住んでいる都市は世界的にも大変珍しく、桜島・錦江湾を中心とした豊かな自然・景観、まちなかで楽しめる天然温泉、郷土色豊かな薩摩料理など、多彩な魅力を有する観光都市である。



WORLD AQUATICS CHAMPIONSHIPS - FUKUOKA

世界水泳 FUKUOKA 2023



Chapter 2



計画

→→→ Section1 大会計画

1 開催実現までのスケジュールについて

世界水泳選手権2023福岡大会は、2016年1月にハンガリー・ブダペストで開催された国際水泳連盟(現：世界水泳連盟)の理事会において、投票の結果、2001年大会以来2度目となる福岡市での開催が決定した。

開催実現までの主な経緯は次のとおりである。

2016年 1月20日	福岡市が2021年大会の開催都市に立候補することを正式に表明
1月31日	ハンガリー・ブダペストで開催されたFINA理事会においてプレゼンテーションを実施 投票により福岡市での開催が決定
2017年 3月22日	第19回FINA世界水泳選手権2021福岡大会準備委員会発足
2018年 9月 4日	第19回FINA世界水泳選手権2021福岡大会組織委員会発足
2019年 5月22日	大会基本計画を発表 併せて世界マスターズ水泳選手権の福岡市・熊本市・鹿児島市の3都市開催を発表
7月 8日	大会エンブレム及びマスコットを発表
12月20日	世界マスターズ水泳選手権大会の名称変更(福岡大会→九州大会)
2020年 5月13日	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催延期に伴い、大会開催日程を2021年7月から、 2022年5月へ変更 併せて大会名称を第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会に変更
5月28日	大会延期に伴い、組織委員会名称を第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会組織委員会へ変更
2021年 10月28日	飛込会場を福岡国際センターから福岡県総合プールに変更
2022年 1月21日	新型コロナウイルス オミクロン株の感染拡大に伴い、国際水泳連盟の理事会で世界水泳選手権の再延期が 決定
2月 1日	再延期後の開催日程が2023年7月に決定
10月14日	世界マスターズ水泳選手権2023九州大会の競技日程決定
12月12日	FINAの名称がWorld Aquaticsへ変更
2023年 1月23日	World Aquaticsの組織名称変更に伴い、大会名称を「世界水泳選手権2023福岡大会」に、組織委員会名 称を「世界水泳選手権2023福岡大会組織委員会」へ変更
2月11日	観戦チケット販売開始
2月15日	GMS登録開始(選手権大会参加者)※登録の締切りは6月13日、スポーツエントリーの締切りは6月27日
3月 1日	GMS登録開始(マスターズ大会参加者)※締切りは6月28日
6月30日	各競技会場の設営完了
7月14日～30日	世界水泳選手権2023福岡大会 開催
8月2日～11日	世界マスターズ水泳選手権2023九州大会 開催

※ FINA：国際水泳連盟、World Aquatics：世界水泳連盟

2 組織委員会会議について

組織委員会は、大会運営にかかる重要事項の決定等のため、以下のとおり会議を実施した。

<委員会開催日>

■ 第1回組織委員会会議

日時：2018年9月4日

場所：グランドプリンスホテル高輪

議案：①組織委員会規約の制定
②組織委員会役員等の選任

③大会概要

④平成30年度事業計画及び収支予算

報告：大会招致経緯及び準備委員会の活動報告

■ 第2回組織委員会会議

日時：2019年5月22日

場所：ソラリア西鉄ホテル

議案：①2018年度事業報告及び収支決算

②大会基本計画

③プロモーションについて

報告：2019年度事業計画及び収支予算

■ 第3回組織委員会会議

日時：2020年5月28日

場所：オンライン会議

議案：①2019年度事業報告及び収支決算

※同時に2018年度収支決算の修正を実施

②2020年度事業計画及び収支予算の変更

③組織委員会規約の改定

報告：①大会の開催日程及び名称等の変更

②財務支援委員会について

■ 第4回組織委員会会議

日時：2021年3月29日

場所：オンライン会議

議案：2021年度事業計画及び収支予算

報告：①組織委員会規約の変更について

②2020年度収支予算の変更について

③大会予算及び大会開催の効果について

■ 第5回組織委員会会議

日時：2021年7月7日

場所：オンライン会議

議案：①副会長の選任について

②2020年度事業報告及び収支決算

報告：大会会場について

■ 第6回組織委員会会議

日時：2021年10月28日

場所：オンライン会議

議案：①大会会場について

②大会における新型コロナウイルス対策の検討
について

■ 第7回組織委員会会議

日時：2022年2月8日

場所：オンライン会議

議案：大会開催日程及び大会名称について

報告：コロナ対策検討会議の休会について

■ 第8回組織委員会会議

日時：2022年3月29日

場所：オンライン会議

議案：2022年度事業計画及び収支予算

報告：大会予算の現状について

■ 第9回組織委員会会議

日時：2023年1月23日

場所：オンライン会議

議案：①大会名称等の変更について

②組織委員会規約の改定について

報告：①大会予算等について

②主なスケジュールについて

③2021年度事業報告及び収支決算

■ 第10回組織委員会会議

日時：2023年3月27日

場所：オンライン会議

議案：2023年度事業計画及び収支予算

報告：①2022年度収支予算の変更

②ガバナンス指針について

■ 第11回組織委員会会議

日時：2024年3月6日

場所：オンライン会議

議案：①2023年度事業報告

②福岡市負担金の返納について

③残余財産の処分方針について

④組織委員会の解散手続きについて

報告：①2022年度事業報告及び収支決算並びに

2023年度収支予算の変更について

②2023年度収支決算見込み及び大会全体の

収支見込みについて

※その後、決算・残余財産の処分について書面決議を実施し、組織委員会は2023年度末に解散

Section2 組織体制、組織委員会の沿革

1 組織委員会の体制について

開催都市である福岡市と公益財団法人日本水泳連盟は、大会の成功に向けて大会の準備および運営に関する重要事項の決定を行うため、2018年9月4日、経済界、

スポーツ団体、行政等で構成する組織委員会を設立した。大会開催時点のメンバーは以下のとおりである。

(順不同・敬称略、2023年7月14日時点)

NO	役職	所属・役職	氏名
1	会長	公益財団法人日本水泳連盟会長	鈴木大地
2	副会長(開催都市市長)	福岡市長	高島宗一郎
3	副会長	福岡県知事	服部誠太郎
4	副会長	一般社団法人九州経済連合会会長	倉富純男
5	副会長	一般社団法人福岡県水泳連盟会長	山住哲生
6	事務総長	福岡市副市長	中村英一
7	事務総長代理	公益財団法人日本水泳連盟顧問	坂元要
8	事務総長代理	福岡市市民局理事	三宅宏治
9	委員	公益財団法人日本スポーツ協会副会長	泉正文
10	委員	公益財団法人日本オリンピック委員会専務理事	星野一朗
11	委員	公益財団法人日本水泳連盟顧問	上野広治
12	委員	公益財団法人日本水泳連盟顧問	村山よしみ
13	委員	公益財団法人日本水泳連盟副会長兼専務理事	金子日出澄
14	委員	公益財団法人日本水泳連盟参与	萩原智子
15	委員	公益財団法人日本水泳連盟会費	小谷実可子
16	委員	公益財団法人日本水泳連盟評議員	岩崎恭子
17	委員	公益財団法人日本水泳連盟顧問	安部喜方
18	委員	一般社団法人日本マスターズ水泳協会会長	高橋繁浩
19	委員	公益財団法人福岡県スポーツ協会理事長	住吉徳彦
20	委員	公益財団法人福岡市スポーツ協会会長	藤井一郎
21	委員	福岡市女性スポーツ活動団体連絡協議会会長	村上美知
22	委員	福岡商工会議所会頭	谷川浩道
23	委員	福岡経済同友会代表幹事	青柳俊彦
24	委員	一般社団法人福岡青年会議所理事長	前川裕貴
25	委員	一般社団法人福岡県バス協会会長	林田浩一
26	委員	一般社団法人福岡市タクシー協会会長	安川哲史
27	委員	九州旅客鉄道株式会社代表取締役社長執行役員	古宮洋二
28	委員	福岡海上保安部長	中嶋雅昭
29	委員	福岡県警察本部長	岡部正勝
30	委員	熊本市長	大西一史
31	委員	鹿児島市長	下鶴隆央
32	委員	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー会長	谷川浩道
33	委員	一般財団法人福岡コンベンションセンター理事長	高島収
34	委員	株式会社テレビ朝日代表取締役社長	篠塚浩
35	委員	株式会社電通取締役社長執行役員	樽谷典洋
36	委員	株式会社電通九州代表取締役社長執行役員	鈴木亨
37	監事	福岡商工会議所監事	柴戸隆成
38	監事	公益財団法人日本水泳連盟副会長	齋藤由紀
39	監事	福岡市会計管理者	小川明子

2 財務支援委員会

大会の財務支援を検討・実施することを目的として、2020年3月1日に組織委員会内に財務支援委員会を設立。

大会終了までの間に準備会議を含め5回開催し、大会の成功に向けて、委員である各団体・企業に対して、協賛や寄付、ボランティアの提供やPR活動など大会財務支援の検討・実施の支援依頼を行った。

<委員>

一般社団法人九州経済連合会、福岡商工会議所、福岡経済同友会、福岡県経営者協会、一般社団法人福岡青年会議所、九州電力株式会社、株式会社福岡銀行、西部ガスホールディングス株式会社、西日本鉄道株式会社、株式会社西日本シティ銀行、株式会社九電工、九州旅客鉄道株式会社、福岡市

<委員会開催日>

■ 財務支援委員会準備会議

日時：2020年2月19日

議事：大会準備状況と財務支援委員会の設置について

■ 第1回財務支援委員会

日時：2021年10月11日

議事：①大会概要とこれまでの準備状況について
②財務支援委員会について

■ 第2回財務支援委員会

日時：2022年3月18日

議事：①大会再延期の経緯及び開催日程について
②大会延期に伴う事業費への影響について
③協賛・寄付の進捗状況について
④財務支援委員会への協力依頼について

■ 第3回財務支援委員会

日時：2022年12月8日

議事：①世界水泳開催による効果について
②事業収支とこれまでの動きについて
③大会を盛り上げるための施策について

■ 第4回財務支援委員会

日時：2023年2月16日

議事：①大会名称等の変更について
②大会予算(見込)について
③プロモーションについて
④チケット販売について

3 実行委員会

大会の準備をより一層進めるため、組織委員会会長から委嘱された者で構成され、かつ組織委員会事務総長をトップとする実行委員会を2019年2月7日に設立。主に組織委員会委員の所属する組織の役職者で構成。

大会終了までの間に会議を4回開催し、進捗状況の報告や大会協力の依頼を行った。

<委員会開催日>

■ 第1回実行委員会

日時：2019年2月7日

場所：ソラリア西鉄ホテル

議案：①大会基本計画の策定

②大会エンブレム等の政策

報告：①大会の招致経緯及び開催概要

②組織委員会規約

③平成30年度事業計画及び収支予定

■ 第2回実行委員会

日時：2019年11月25日

場所：天神ビル会議室

議事：①事務局体制について

②大会準備状況について

③東京オリンピック・パラリンピック

競技大会組織委員会との連携について

④PR協力依頼について

⑤第19回FINA世界マスターズ水泳選手権大会

2021 福岡大会の名称について

■ 第3回実行委員会

日時：2021年7月29日

場所：オンライン会議

依頼事項：①関連プロジェクトの募集について

②大会ボランティアの募集について

■ 第4回実行委員会

日時：2022年9月30日

場所：オンライン会議

依頼事項：①大会ボランティアの追加募集について

②ガバメントクラウドファンディングの開始

について

(街路灯バナーによる大会の盛り上げ)



WORLD AQUATICS CONGRESS FUKUOKA, 25 JULY 2023

We are WORLD AQUATICS

We are WORLD AQUATICS



Chapter 3



國際連携

→→→ Section1 世界水泳連盟との連携

1 概要

国際的なスポーツ大会の成否は、国際競技団体とのコミュニケーションと協力関係にかかっていると一言では言い切れない。そのため、世界水泳選手権においては、世界水泳連盟との緊密な協力と連携が最も重要であった。

世界水泳選手権2023福岡大会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2度の延期という前例のない事態を迎えることとなったが、組織委員会は、競技、会場、査証、ボランティア、宿泊・輸送、交通、大会運営、放送、報道、プロモーション、マーケティングなど様々な分野において世界水泳連盟との協議や事前視察を重ね、大会の成功に向けて準備を整えた。

また、大会期間中には、大規模国際大会を今後開催する組織委員会(Future OC)に福岡大会に関する知見を引き継ぐためのオブザーバープログラムを実施した。世界水泳連盟との綿密な調整を行いながら、各競技会場及びADセンターにおける視察や協議を組み込んだこのプログラムには、世界水泳選手権の2024ドーハ大会及び2025シンガポール大会、2024パリオリンピックの組織委員会が参加した。なお、組織委員会も2019年光州大会及び2022ブダペスト大会においてFuture OCとして現地を視察した。

2 世界水泳連盟の視察実績

- | | |
|----------|--|
| 2021年11月 | 事務総長等
・チャンピオンシップ競技会場視察
・状況報告及び総合的な協議 |
| 2022年8月 | 事務総長等
・準備状況報告及び総合的な協議 |
| 2022年10月 | 会長等
・チャンピオンシップ競技会場視察 |
| 2023年2月 | マスターズ委員会委員長来福
・マスターズ会場の視察
・コンgres会場の視察 |

- | | |
|-----------|---|
| 2023年3月 | 理事等
・マスターズ会場の視察
・コンgres会場の視察及び協議
・VIP関係施設の視察及び協議 |
| 2023年4~6月 | 競泳委員会委員長等
・チャンピオンシップ競技会場視察 |

3 組織委員会の視察実績(過去大会)

- 世界水泳選手権 2019光州大会(韓国)
- | | |
|----------------------|---|
| 2019年7月
チャンピオンシップ | ・開閉会式、各競技会場、ADセンター、国際放送センター、メインプレスセンター、選手村、ホテル及び輸送関連等視察
・オブザーバープログラム(2回)参加
・公式会議にて福岡大会の進捗報告
・組織委員会によるPRブース出展
・閉会式にてハンドオーバーセレモニー参加及び福岡大会のPR動画上映
・世界水泳連盟、光州組織委員会との協議 |
| 2019年8月
マスターズ | ・開閉会式、各競技会場及び選手村視察 |

- 世界水泳選手権 2022ブダペスト大会(ハンガリー)
- | | |
|---------|---|
| 2022年6月 | ・開会式、各競技会場、ADセンター、IBC、ホテル及び輸送関連等視察
・オブザーバープログラム参加
・コンgres、チームリーダーズミーティング等の公式会議視察
・世界水泳連盟との協議 |
|---------|---|

4 福岡大会期間中のオブザーバープログラム



シンガポール組織委員会の視察(ハイダイビング会場)

- 2023年
- | | |
|------------|-------------------|
| 7月13日~19日 | 2025シンガポール組織委員会 |
| 7月22日~26日 | 2024ドーハ組織委員会 |
| 7月19日、26日等 | 2024パリオリンピック組織委員会 |

- 【主な内容】
- ・各競技会場、ADセンター、国際放送センター等視察
 - ・各競技観戦
 - ・各種協議(大会概要、会場整備、競技運営、宿泊・輸送、医療、人員体制、広報活動、競技運営等)

→→→ Section2 世界水泳連盟公式イベントへのサポート

1 概要

大会期間中には、世界水泳連盟が主催する会議や公式イベント(コンgres(総会)、ビューロミーティング(理事会)等)の開催にあたり、会場の手配及び必要物品の調達、通訳手配、装飾、人材派遣等を行い、円滑な運営を支援した。

コンgresでは、福岡市のプロモーション動画を放映するなどして、およそ180か国からの各国水泳連盟代表者やメディアら約600名の参加者に対し、福岡市の魅力をPRした。



第2回ビューロミーティング

2 公式イベント一覧

- ビューロミーティング

第1回	開催日：2023年7月14日 会場：グランドハイアット福岡
第2回	開催日：2023年7月24日 会場：福岡国際会議場
第3回	開催日：2023年7月29日 会場：博多港センタービル

- コンgres

開催日：2023年7月25日
参加者：約600名
会場：福岡国際会議場

- 【主な議題】
- ・世界水泳連盟会長選挙
 - ・活動報告
 - ・監査委員会報告
 - ・外部監査による決算報告
 - ・2023年及び2024年予算の承認
 - ・Future OC(ドーハ、ブダペスト、シンガポール)による進捗報告



kongress会場内の様子



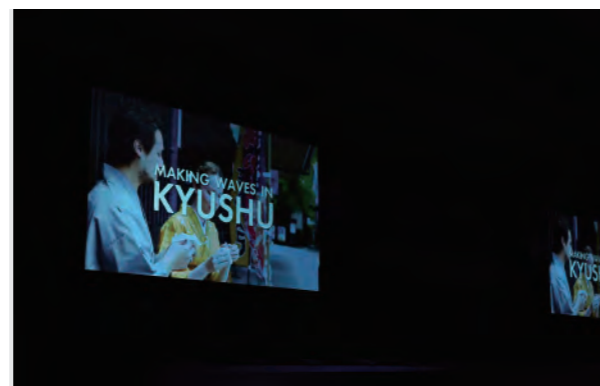
kongress会場前スペース



kongress受付



鈴木大地 大会組織委員会会長による挨拶



開催都市によるPR動画上映



Husain Al-Musallam世界水泳連盟会長による報告



各国水泳連盟による投票



Chapter 4

財政

→→→ Section1 大会予算の推移

大会予算は、2017年2月に、直近に開催された2015年カザン大会の予算をもとに90～100億円としていた。

2019年2月においては、世界水泳連盟など関係団体との協議が一定程度進展したに加え、大会参加人員や観客数を推計して試算した130～140億円程度を見込むに至った。

2021年2月には、大会に関する各種業務について、世界水泳連盟との協議等を通じて検討した詳細の仕様に基づいた見積りを積上げて算出した180～190億円とした。

収入については協賛・寄付等35～40億円、公的助成50～60億円の確保を目指し、福岡市の負担金は90～95億円(大会予算の半分程度)を見込んだ。

増額の理由としては、特に会場整備において、世界水泳連盟などの関係団体からの要求が高度化・明確化したことや開催時期が変更になったことにより、会場整備費の40～50億円の増を見込んだことにある。

また、同年12月には、ハイダイビング会場のプール築造工法等の変更等により約10億円を削減した170～180億円を見込んだ。

収入については協賛・寄付等35～40億円、公的助成50～60億円の確保を目指し、福岡市の負担金は大会予算の半分程度と想定していた。なお、これとは別に、コロナ対策としてバブル運営方式を採用した場合の費用が最大45億円程度かかることを想定していた。

2022年1月に大会の再延期経費が決定した後、徐々にコロナウイルス感染症の脅威はおさまり、バブル運営の必要性はなくなり、通常の有観客での大会運営を行うこととした。2023年2月には、再延期に伴う各種資材のリース期間の延長や工事着手していた施設の安全対策等の経費として45億円程度を見込み、大会予算を225億円程度とした。

大会事業費の削減に向けた世界水泳連盟との協議を実施し、大会関係者向けの輸送手段の見直し、マスターズ大会の開会式や閉会式の規模縮小、プレスセンターの統合、公式練習期間の短縮等について決定したほか、事業者との協議による調達コストの削減に取り組んだ。

収入については、公的助成や協賛・寄付・チケット収入等の確保に向けて取り組んだ。

公的助成については、スポーツ庁、福岡県、日本スポーツ振興センター及び全国宝くじ協議会から多大なるご支援を賜り、組織委員会を構成する日本水泳連盟からの負担金も加えた60～65億円の収入を見込んでいた。

また、協賛・寄付・チケット収入等については、39の団体との協賛の合意や、市内外180社以上からの寄付及び個人からの寄付、10万7千枚を売り上げたチケット収入及び世界マスターズ水泳選手権の開催市である熊本市及び鹿児島市からの負担金等で、35～40億円を見込んでおり、大会事業費の半分程度となる120～130億円が福岡市の負担になることを見込んでいた。

事業費については、継続的な削減に取り組んだことにより205億円程度で収まった。運用スタッフの最小化や事業者との交渉、世界水泳連盟の協力、さらには福岡市職員を中心とする事務局職員の努力が事業費の削減につながったものである。

→→→ Section2 大会事業費の決算見込み

(1)支出

(百万円)

項目	※1 (ア)予算	(イ)決算見込み	増減(イ-ア)	備考
(a)大会事業費(b+c+d)	22,500	20,469	▲ 2,033	
(b)会場整備費	11,400	10,695	▲ 705	仕様の見直しや備品数量の減等
(c)運営費	5,700	5,023	▲ 677	
運営	3,400	2,735	▲ 665	競技役員人件費の減等
選手権料	2,300	2,288	▲ 12	世界水泳連盟との交渉による減等
(d) 宿泊・輸送費等	5,400	4,749	▲ 651	
宿泊・輸送費	3,100	2,758	▲ 342	世界水泳連盟との交渉による減等
マスターズ大会経費	740	703	▲ 37	
広告・宣伝費	560	512	▲ 48	
その他	1,000	776	▲ 224	ボランティア関係経費の減等

(2)収入

(百万円)

項目	※1 (ア)予算	(イ)決算見込み	増減(イ-ア)	備考
(e)大会事業費(f+g+h)	22,500	22,483	▲ 17	
(f)公的助成	※2 6,000	6,209	+209	
国補助金		2,743		
toto(スポーツ振興くじ)		1,166		
県負担金	6,000	1,800	+209	
宝くじ		300		
日水連負担金		200		
(g)協賛・寄付・チケット収入等	※2 3,500	3,614	+114	
協賛金収入 ※3	2,500	1,081	▲3	
寄付金収入 ※4		1,416		
チケット収入 ※5		569		
マスターズ参加料	1,000	165	+117	チケット収入の減 備品レンタル収入の増等
その他		383		
(h)福岡市負担金 ※6	※2 13,000	12,660	▲340	

(3)収支差額

(百万円)

項目	(ア)予算	(イ)決算見込み	増減(イ-ア)	備考
(i)収支差額(e-a)	0	2,016	+2,016	

※1 2023年2月時点の見込み額

※2 公的助成は60～65億円程度、協賛・寄付・チケット収入等は35～40億円程度、福岡市負担金は120～130億円程度としていたもの

※3 協賛額(現金)から手数料を差し引いた額

※4 企業及び個人からの寄付の合計額

※5 チケット販売額から手数料を差し引いた額

※6 福岡市負担金は市を経由して組織委員会に拠出する宝くじ、toto、寄付を除いた実質の負担額

→→→ Section3 大会のPR効果

【放送】

テレビ放送、ラジオ放送、オンライン配信関連データ(提供元：世界水泳連盟)

項目	数値
放送国・地域数	130か国・地域
総放送局数	58局
来福放送局数	29局(従事スタッフ 約450名)
HBライブ映像時間	350時間
総放送時間	4,900時間
総視聴者数	19億4,000万人
総視聴時間	9億8,500万時間
メディアバリュー ※ ¹	5億2,800万ユーロ(約827億4,540万円 ※ ²)

※1 メディア露出による広告換算値(ただし、地上波テレビ放送のみで換算)

※2 1ユーロ=156円換算(R5.12.12時点)

【SNS】

SNS関連データ(提供元：世界水泳連盟)

項目	数値
世界水泳連盟公式SNS	①Facebook ②Instagram ③X ④TikTok ⑤YouTube
総フォロワー数	350万人
総投稿数	1,600投稿
総視聴者数	36億5,000万人
メディアバリュー ※ ³	4,870万ユーロ(約76億3,180万円 ※ ⁴)

※3 メディア露出による広告換算値

※4 1ユーロ=156円換算(R5.12.12時点)

→→→ Section4 大会の経済波及効果

(1) 算出結果

- ・福岡市内 433億円
- ・全 国 776億円

(参考)上記以外の世界水泳関連の経済波及効果

- ・各自治体で開催された事前キャンプ
全国6.4億円

(2) 算出方法

- ・算出機関：アジア都市研究所(URC)
- ・算出にあたり市から提供した数字
 - カテゴリ別の国内・海外の来場者実人数と宿泊数
 - 大会事業費の部門分類別支出額

提供した数字をもとに、国や市の産業連関表を用いて、本大会の開催による経済波及効果を直接効果、1次効果、2次効果の3段階で算出した。

【大会事業費と消費額】

(百万円)

大会事業費	17,435
国内移動費	4,182
都市内移動費	267
宿泊費	6,855
飲食費	3,477
土産買物費	1,721
観光・娯楽費	1,830
合計	18,331

【全国の経済波及効果】

(百万円)

直接効果	34,145
1次効果	25,973
2次効果	17,432
合計	77,550

【福岡市内の経済波及効果】

(百万円)

直接効果	27,527
1次効果	8,358
2次効果	7,441
合計	43,327

*選手、関係者、来場者らの消費による
需要増加額内訳



Chapter 5



プロモーション

Section1 ウェブサイト

1 2019年7月～2020年3月

参加選手・関係者・市民・来街者への大会情報の発信と大会開催気運の醸成を図るため、2019年7月8日に大会公式ウェブサイト(パソコン版・スマートフォン版)を開設し、世界水泳選手権及び世界マスターズ水泳選手権を周知した。

当初は競技種目や関連ニュースを中心に、日本語版と英語版の各ページを準備した。



2 2020年4月～2022年3月

2020年には更新頻度が高い大会ニュース、調達情報等のページのCMS化に着手し、2021年4月からその運用を始めた。

2021年10月には観光情報ページを設け、福岡市・熊本市・鹿児島市のみならず広く九州の魅力を紹介することで、全国からの観客の誘致に努めた。



大会公式ウェブサイトより

3 2022年4月～2023年8月

チケットの販売を開始した2023年2月にはチケットページを開設して適宜情報を提供したほか、同年7月にはマーケットストリート(Fukuoka Ichiba)ページを設け、観戦者向けの情報を充実させた。

また、2023年3月のマスターズエントリー開始に際して、参加者向けにGMSの登録方法やVISAガイド等の情報を掲載し、その後適宜、アクセス情報等を充実させていった。

世界水泳選手権開幕後は、その日の競技結果のハイライトをニュースページに投稿した。世界マスターズ水泳選手権のクロージングセレモニーの後、トップページに終了メッセージを掲載しウェブサイトの更新を終えた。

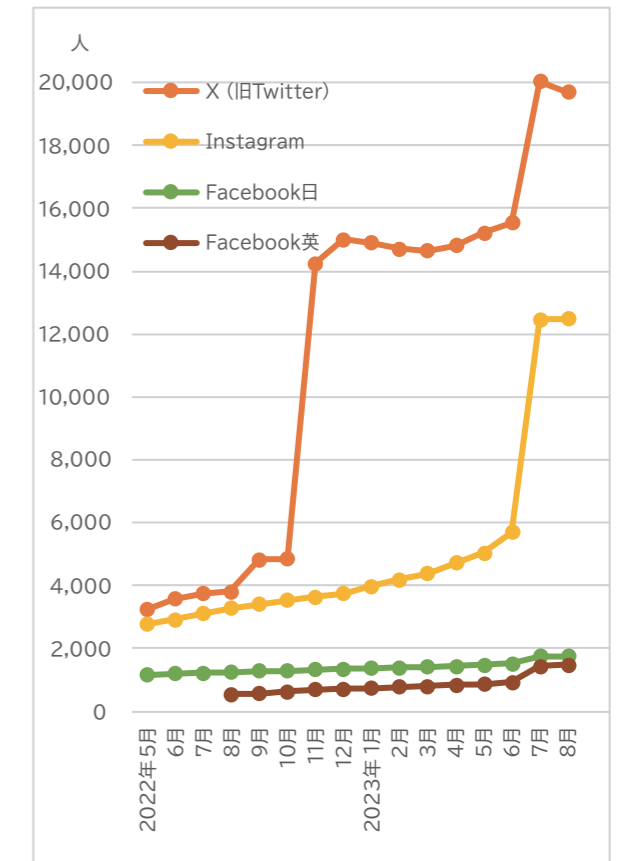
Section2 ソーシャルメディア

ソーシャルメディア(以下、SNSという)運用基準を定め、2021年5月20日から各SNSの運用を開始した。

大会情報のみならず、木曜日に過去を振り返るTBT(ThrowBack Thursday)や大会マスコットであるシーライ・シャーニーの文化体験やマスターズ開催都市である福岡市、熊本市、鹿児島市を含む九州地方の観光情報を定期配信した。

開幕後は、公式X(旧Twitter)では主に競技結果を、公式Instagramではアスリートラウンジでの選手の様子やFukuoka Ichibaの来場者の様子などを中心に投稿した。Facebookでは、ウェブサイトと同様の競技結果のハイライトや、福岡市、熊本市、鹿児島市の観光情報を中心に投稿した。

<フォロワー数の推移>



公式SNSチャネル	アカウント名	運営コンセプト
 X (旧Twitter) (日本語のみ)	世界水泳2023福岡大会 @fukuoka2022jp	親しみやすさと楽しさを発信・拡散する場 ・公式情報の発信 ・リアルタイム情報の発信 ・リツイートによる情報拡散
 Instagram (日英併記)	世界水泳2023福岡大会 @fukuoka2022	世界水泳への期待を醸成する場 ・公式情報の発信 ・開催都市及び周辺都市の魅力発信
 Facebook (日本語版・英語版)	(日本語版) 世界水泳2023福岡大会 @fina.fukuoka2022 (英語版) World Aquatics Championships - Fukuoka 2023 @fina.fukuoka2022en	情報がアーカイブされる掲示板 ・公式情報の発信 ・参加者同士の交流 ・開催都市及び周辺都市の魅力発信


Section3 オンラインプロモーション


1 応援団プロジェクト

X(旧Twitter)の特性である拡散効果を活かし、国内での気運醸成を図ることを目的に、2022年に開催された世界水泳選手権ブダペスト大会、短水路メルボルン大会及び福岡大会に参加する日本代表選手を応援する企画を行った。

※概要は当時のまま記載

1 #世界水泳応援団 プロジェクト ブダペスト大会	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡大会公式Twitterを活用して、世界水泳ブダペスト大会に出場する日本選手らを応援。 ・主に福岡市内の子どもたちを対象とし、日本選手らへの手書き応援メッセージを集め、選手のツイッターをタグ付けし、コメントと写真を贈る。 
期間	・2022年6月15日(水)～30日(木) ※世界水泳選手権2022ブダペスト大会 2022年6月17日(金)～25日(土)
効果	・企画参加者：約50人

2 #世界短水路応援団 プロジェクト メルボルン大会	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitterのハッシュタグキャンペーン ・指定のハッシュタグをつけて選手へのメッセージを送ってくれた方の中から、抽選で同大会代表選手サイン入り公式グッズをプレゼントした。 
期間	・2022年12月9日(金)～18日(日) ※世界短水路選手権メルボルン大会 2022年12月13日(火)～18日(日)
効果	・企画参加者：約260人


3 #世界水泳応援団 プロジェクト 福岡大会	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitterのハッシュタグキャンペーン ・指定のハッシュタグをつけて選手へのメッセージを送ってくれた方の中から、抽選で同大会代表選手サイン入り色紙をプレゼントした。 
期間	・2023年6月14日(水)～30日(金)
効果	・企画参加者：約200人

2 SNS キャンペーン


公式グッズやスポンサー商品を景品としたキャンペーンを展開した。

適宜、広告も活用しながら、リーチ数・インプレッション数を増やし、水泳関心層以外の世界水泳の認知度向上と気運醸成を行った。

※キャンペーン名称、概要は当時のまま記載

第2回 Twitterキャンペーン	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大会公式アカウントのフォローと特定の投稿のリツイートでプレゼントを行うキャンペーンを実施。 ・国内スポンサーであるユニクロのパーカと公式グッズを抽選でプレゼントした。 
期間	・2022年11月4日(金)～18日(金)
効果	・企画参加者：約10,400人

第4回 Twitterキャンペーン	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大会公式アカウントと国内スポンサーであるユニクロの公式アカウントの2つのフォローと、特定の投稿のリツイートでプレゼントを行うキャンペーンを実施。 ・ユニクロドリームキャプテン(競泳金メダリスト)の萩野公介さんのサインが入ったTシャツを抽選でプレゼントした。 
期間	・2023年5月3日(水)～9日(火)
効果	・企画参加者：約900人

第1回 Twitterキャンペーン	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大会公式アカウントのフォローと特定の投稿のリツイートでプレゼントを行うキャンペーンを実施。 ・大会PRサポーターである地元アイドルグループ、HKT48メンバーのサインが入った公式グッズを抽選でプレゼントした。 
期間	・2022年9月17日(土)～23日(金)
効果	・企画参加者：約1,100人

第3回 Twitterキャンペーン	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大会公式アカウントのフォローと特定の投稿のリツイートでプレゼントを行うキャンペーンを実施。 ・国内スポンサーであるイオンのグッズと公式グッズを抽選でプレゼントした。 
期間	・2022年12月23日(金)～27日(火)
効果	・企画参加者：約1,400人

Instagram フォトコンテスト	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大会公式アカウントのフォローと特定の#(ハッシュタグ)をつけて写真を投稿いただく写真コンテストを実施。 ・応募作品の中から審査により、受賞作品2つを決定し、公式スポンサーであるニコンのカメラをプレゼントした。 
期間	・2023年7月14日(金)～30日(日)
効果	・企画参加者：約400人

Section4 主要イベント

1 エンブレム・マスコットお披露目式

2019年7月8日に福岡市役所1階ロビーで大会エンブレムとマスコットのお披露目式を開催した。

大会組織委員会副会長で福岡市長の高島宗一郎氏とマスコットデザインの制作、ネーミング考案者である株式会社レベルファイブの日野晃博社長、ロンドン五輪銀メダリストの鈴木聡美選手が登壇し、大会エンブレム、大会マスコットのお披露目とトークセッションを行った。



2 200日前イベント※再延期前

2021年10月25日に大会会場となるマリノメッセ福岡B館で200日前を記念したイベントを開催した。

世界水泳連盟のフセイン会長のビデオメッセージの他、高島宗一郎福岡市長と大会応援リーダーに就任した松岡修造氏が登壇し、二人で世界水泳の開催意義や開催都市福岡の未来について熱く語った。

続いて、寺川綾氏、入江陵介選手、鈴木聡美選手、寺内健選手が登壇し、VRコンテンツ体験やトークセッションを行った。



3 博多どんたく港まつり(2022年)

2022年5月、福岡を代表する祭りで、毎年200万人以上の観客でにぎわう博多どんたく港まつりにおいて、世界水泳をPRした。

来場者が多く集まる伝統的な祭りにおいて、ステージ出演やパレードへの参加、PRブースを出展するなど、世界水泳福岡大会のPRを行った。



4 1年前イベント

2022年7月14日に博多駅前広場で開催1年前を記念したイベントを開催した。

高島宗一郎福岡市長の他、アーティストックスイミング日本代表の乾友紀子選手、ソロコーチの井村雅代コーチ、競泳元日本代表の松田丈志氏、水球元日本代表キャプテンの志水祐介氏が登壇し、世界水泳福岡大会に向けた意気込みや期待すること、水泳の魅力についてなどトークセッションを行った。



5 チケット販売開始イベント

チケット販売開始を記念したイベントを、2023年2月11日に東京都内で開催した。

元競泳日本代表松田丈志氏や塩浦慎理選手による水泳教室「EVERYONE MEETS THE FUTURE in 東京」を同時開催し、気運醸成を図りつつ、チケット販売開始を告知した。



6 博多どんたく港まつり(2023年)

2023年5月の博多どんたく港まつりでは、直前ということもあり、本大会の応援リーダーでもあり、テレビ朝日のメインキャスターを務める松岡修造氏、同局応援団の博多大吉氏、萩野公介氏にもパレードに参加いただき、広く世界水泳のPRを行った。

また、ステージイベントでは、大会ユニフォームのお披露目やパレードゲストによるトークセッションを行った。

更に、博多駅前広場ではチケット販売促進のPRブースを出展した。



7 メダル及び表彰ボランティアウェアお披露目式

大会50日前である5月25日にメダルと表彰ボランティアウェアのお披露目イベントを市役所1階ロビーで実施。

メダルデザインを行ったSUKEDACHI DESIGNの小林大助氏、メダルリボン(博多織)を制作したサヌイ織物の讃井社長や表彰ボランティアウェアのデザインを担当した市内専門学校の学生が参加した。



8 その他(大会期間以降のイベント)

(1) 親子バックヤードツアー

2023年7月26日・27日に親子バックヤードツアーを開催した。抽選で当選した54組の親子に、通常では立ち入ることができないプールサイド等の選手エリアや仮設プールの裏側を案内した。

(2) 世界水泳連盟アンバサダーによる水泳教室

大会期間中の7月23日(日)に世界水泳連盟アンバサダーであるアンソニー・アービン氏(アメリカ)及びラノミ・クロモウィジョジョ氏(オランダ)により、市内小中学生約60名への水泳教室が、福岡市立南市民プールにおいて実施された。

(3) 日本人メダリストによる水泳教室

大会後の8月4日(金)に本大会の400m個人メドレーで銅メダルを獲得した瀬戸大也選手による水泳教室が舞鶴中学校水泳部員40名を対象に行われた。



(4) ブルーインパルス展示飛行

航空自衛隊の協力により、大会初日の7月14日(金)14時頃(予行飛行：前日13日(木)同時刻頃)にブルーインパルスの展示飛行が行われた。あいにく天気に恵まれず、当初予定していた演目から変更となったが、海の中道周辺から競技会場であるマリメッセ福岡上空を通過し、博多駅上空へ。そして小戸からシーサイドももち海浜公園を通過し、マリメッセ福岡へと飛行し、福岡市内の広い範囲で飛行を観覧することができた。マリメッセ福岡周辺には、多くの観客が集まり、約10分間の航空ショーに魅了されていた。



ブルーインパルス展示飛行の様子



ブルーインパルス観覧の様子

→→→ Section5 市民参加イベント

1 EVERYONE MEETS THE FUTURE

2021年12月の北海道を皮切りに、福島県、新潟県、東京都において、その都市出身または縁のあるトップアスリートらによるスポーツ教室「EVERYONE MEETS THE FUTURE」を開催した。大会を応援するムードを醸成し、観戦動機を作ることを目的として、アスリートと子どもたちが交流する機会を提供し、その魅力やストーリーに実際に触れてもらった。

各会場ではイベントの最後に、参加者全員に大会に出場する選手への応援メッセージを大きな横断幕に書き込んでもらった。



EVERYONE MEETS THE FUTURE in 北海道	
日程	2021年12月12日
会場	北海道札幌市
講師	・佐藤久佳(元競泳日本代表) ・加藤和(元競泳日本代表)
参加者	28人(小学3年生～6年生)



EVERYONE MEETS THE FUTURE in 福島	
日程	2021年12月19日
会場	福島県郡山市
講師	・金藤理絵(2016年リオデジャネイロオリンピック平泳ぎ金メダリスト)
参加者	34人(小学3年生～6年生)



EVERYONE MEETS THE FUTURE in 新潟	
日程	2022年1月10日
会場	新潟県長岡市
講師	・志水祐介(水球日本代表) ・棚村克行(水球日本代表) ・佐藤綾(元競泳日本代表) ・水沼尚輝(競泳日本代表)
参加者	32人(小学1年生～6年生)



EVERYONE MEETS THE FUTURE in 東京	
日程	2022年2月11日
会場	東京都
講師	松田丈志(競泳オリンピックメダリスト) 塩浦慎理(50m自由形日本記録保持者) 石橋千彰(元競泳日本代表)
参加者	47人(小学1年生～6年生)

※「EVERYONE MEETS THE FUTURE in 東京」は、福岡大会のチケット先行販売開始及び、開催150日前記念イベントとして、東京辰巳国際水泳場で開催



また、福岡市内では各市民プールにおいて、リオデジャネイロオリンピック競泳平泳ぎの金メダリスト金藤理絵さんを招いて、小学生を対象とした「EVERYONE MEETS THE FUTURE in Fukuoka」(公益財団法人福岡市スポーツ協会共催)を2022年に6回開催した。

開催日	会場	参加者
7月16日	総合西市民プール	41人
10月1日	博多市民プール	33人
	東市民プール	30人
11月6日	中央市民プール	36人
12月10日	南市民プール	29人
	早良市民プール	31人



2) スタンプラリー

世界水泳福岡大会関連プロジェクトとして、2022年1月15日から3月31日まで、市内7つのプールを回るスタンプラリーが実施された(公益財団法人福岡市スポーツ協会主催)。世界水泳選手権第1回開催地「ベオグラード(ユーゴスラビア)」から第19回開催地「福岡(日本)」を目指すもので、集めたスタンプの数に応じて、世界水泳オリジナルグッズや選手カードがプレゼントされた。

3) フォトコンテスト

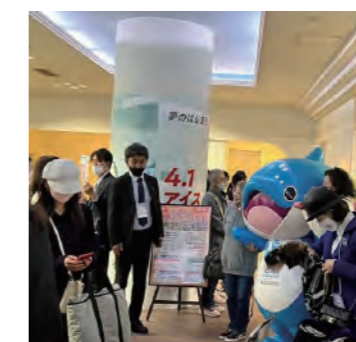
世界水泳福岡大会関連プロジェクトとして、2023年7月14日から7月30日まで、Instagramフォトコンテスト(公益財団法人福岡市スポーツ協会主催)が実施された。大会マスコット「シーライ」「シャーニー」を撮影した写真を投稿いただくもので、投稿いただいた方へは抽選で世界水泳オリジナルグッズがプレゼントされた。

Section 6 PRブース

大会の開催に向けた気運醸成及びチケットの販売促進を目的に、福岡市内を中心とした九州圏や東京都を含む関東圏等で開催されるイベントにPRブースを出展し、啓発グッズの配布や公式マスコットキャラクターの着ぐるみによるPR等を実施した。イベントによっては、高さ27mからのハイダイビングを体験できるVR体験コーナーも設置した。



年	月	イベント名	場所	ブース来場者数(延べ)
2021	10	The Creators 2021	福岡市	300人 (VR体験 246人)
		アクアスペース体験祭	福岡市	450人
2022	5	博多どんたく港まつり	福岡市	3,000人
		全国都市緑化くまもとフェア	熊本市	200人
	10	The Creators 2022	福岡市	1,200人 (VR体験 253人)
2023	11	福岡マラソン2022	福岡市	600人
		地下鉄フェスタ2022 おはら祭り	福岡市 鹿児島市	2,000人 300人
2023	2	世界水泳FUKUOKA EVERYONE MEETS THE FUTURE in 東京	東京都江東区	47人(水泳教室)
	3	第45回全国JOCジュニアオリンピック カップ春季大会	東京都江東区	500人
	5	博多どんたく港まつり ICE EXPLOSION2023 in FUKUOKA	福岡市 福岡市	1,000人(サンプリング) 800人



→→→ Section7 マスコットの運用

2019年7月に大会マスコットキャラクター「シーライ・シャーニー」をお披露目し、その後、着ぐるみによる各種イベントへの登壇やSNSによる活動を行い、大会認知度向上に貢献した。



また、国内スポンサーであるBEBRIDGE提供のARを活用したナビ、スポット情報シェアアプリ「cooney (ココニー)」では、全国のどこでもシーライ・シャーニーと撮影ができるなど、マスコット露出の取組みを行った。

シーライ&シャーニー 6競技



→→→ Section8 応援リーダー・PRサポーター

1 応援リーダー

組織委員会では大会気運醸成のため、開催に向けてSNSでの大会情報発信やイベントを通じたPR活動などを行うPRサポーターを任命。

そのリーダーを応援リーダーとして、テレビ朝日にてメインキャスターを務める松岡修造氏を迎えた。



応援リーダー・松岡修造さん

元プロテニスプレーヤー。2001年の世界水泳福岡大会以降、様々な競技の世界大会で選手たちの熱い戦いを伝えてきたが、22年ぶりに福岡に帰ってきた。

<取り組み>

『松岡修造Presentsウルトラ福岡プロジェクト!〜今の自分を超えよう!〜』

「福岡から日本を元気にしていこう!」のコンセプトのもと、市内の3校(福岡市立博多小学校、福岡市立福翔高校、香蘭デザイン専門学校)で特別授業を行い、その様子はテレビ朝日系列や九州朝日放送系列で放映された。



(参考)放送権者であるテレビ朝日及び系列局である九州朝日放送による主な事前広報番組

- (1) 世界水泳ウルトラ宣言(テレビ朝日)
日本代表選手のストーリーや海外のスイマーを松岡修造氏、寺川綾氏、萩野公介氏らが熱血プレゼン
4/13(木)深夜1時32分~2時02分
※以降毎週木曜深夜1時26分~1時56分
- (2) 博多華丸・大吉の世界水泳福岡ばい!(テレビ朝日)
大会の注目ポイントや心温まる日本代表のエピソードを紹介
4/19(水)夜11時10分~11時15分 ※毎週水曜
- (3) 世界水泳福岡ウルトラ満喫ツアー(テレビ朝日系列)
松岡修造氏、松田文志氏、寺川綾氏、春日俊彰氏(オーダーリー)が開催地である福岡を巡り世界水泳の会場と見どころを紹介。また、テレビ朝日世界水泳応援団の博多華丸氏・大吉氏がお勧めの福岡グルメ等を紹介
6/25(日)午後1時55分~3時20分
- (4) 世界水泳福岡2023勝手に応援番組 水を得た秋山(九州朝日放送)
水泳を愛する秋山竜次氏(ロバート)が勝手に大会を盛り上げる。
4/29(土)午後1時00分~1時30分
※以降、毎週土曜 全6回、総集編は7/9(日)放送
- (5) 世界水泳を盛り上げろ!三澤澄也 炎の9番勝負(九州朝日放送)
筋肉アナウンサーの三澤澄也氏が様々な勝負を通して世界水泳を盛り上げる。
6/27(火)夜8時54分~9時00分
※以降不定期 全9回
- (6) 世界水泳2023ウルトラ応援団(九州朝日放送)
世界水泳のメイン会場であるマリンメッセ福岡から生中継で直前特別番組
7/8(土)午後1時00分~2時00分

2 PRサポーター

PRサポーターを2団体・8名任命。各種イベント出演時に任命し、その後、各自で世界水泳のPRや水泳の魅力を発信する活動に協力いただいた。



HKT48

福岡・博多を拠点として活動するアイドルグループ。2021年で活動10周年。



今井亮介さん

福岡市出身の元競泳日本代表。2001年福岡大会出場。マスターズ選手権では2019年光州大会選手権で50m・100m平泳ぎで金メダル獲得。



佐藤久佳さん

北海道出身の元競泳日本代表。2005年モントリオール大会出場。2008年北京オリンピック4×100mメドレーリレーで銅メダル獲得。



加藤和さん

福島県出身の元競泳日本代表。2012年ロンドンオリンピックに出場。2011年ユニバーシアード200m個人メドレーで金メダル獲得。



金藤理絵さん

広島県出身の元競泳日本代表。200m平泳ぎでの現日本新記録保持者。2016年里オデジャネイロオリンピック200m平泳ぎで金メダル獲得。



志水祐介さん

熊本県出身の水球日本代表。2016年里オデジャネイロ大会にキャプテンとして出場、2021年東京大会まで2大会連続出場。



棚村克行さん

沖縄県出身の水球日本代表。2016年里オデジャネイロ大会から2021年東京大会まで2大会連続出場。



佐藤綾さん

長野県出身の元競泳日本代表。200mフリーリレーなど7種目で日本記録更新。2019年光州大会に出場。



パリカタキッズ

2021年9月メジャーデビューした中学生の5人組ダンス&ボーカルグループ。福岡を拠点に歌とダンスでSDGsを普及する活動をしている。



石橋千彰さん

福岡市出身の元競泳日本代表。2012年ロンドンオリンピックに4×200mフリーリレーに出場。

Section9 シティドレッシング

1 全体概要

世界水泳選手権2023福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権2023九州大会の気運醸成と来訪者を歓迎するため、公共交通機関をはじめとした、市内各所で様々な装飾を実施した。
(6月~8月)

2 公共交通機関

市民が広く利用する公共交通機関(JR博多駅や西鉄天神駅など)に世界水泳の装飾を行った。

<掲出箇所>(掲出期間:7月~8月)

- ・JR博多駅
- ・西鉄天神駅
- ・市営地下鉄
(福岡空港駅、呉服町駅、博多駅、天神駅、唐人町駅、橋本駅)



JR博多駅(ビジョンジャック)



JR博多駅(ガラス面シート)



西鉄天神駅(コンコース)



西鉄天神駅(大型タペストリー)



地下鉄博多駅(七隈線懸垂幕)



地下鉄福岡空港駅



地下鉄橋本駅

3 福岡空港

空港運営会社等と協力し、空の玄関口である福岡空港(国内線、国際線)の装飾を行った。



国内線到着口

国内線動く歩道

国内線到着口

国内線手荷物受取所

国際線到着口

4 路線バスへの装飾

バスの運行事業者等と協力し、市内を運行するバスにラッピングを行うことで、バス利用者や歩行者へのPRを行った。



路線バス

オープントップバス

連節バス

5 街路灯バナー等での装飾

天神・博多のまちづくり団体の協力を得るなどにより、市内歩道に設置してある街路灯バナーやビル建設現場の仮囲い等に世界水泳仕様の装飾を行った。(約600枚)



博多駅前通り(街路灯バナー)

福岡ビル工事仮囲い

6 その他福岡市内各所での装飾



福岡タワー

博多ポートタワー



博多港国際ターミナル(正面玄関)

博多港国際ターミナル(2階)

サンパレス福岡

川端商店街

天神観光案内所

都市高速道路橋脚



マンホール

国体道路(民間ビジョン)

路面標示

7 熊本市内での装飾



熊本駅白川口アミュひろば(プロジェクションマッピング)



サクラマチ熊本



熊本駅改札前



下通り



サクラマチ熊本

8 鹿児島市内での装飾



鹿児島中央駅構内



天文館



鴨池公園プール壁面



市電ラッピング



鹿児島市役所

Section10 海外プロモーション

1 大会までの活動

世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会をPRするため、各国水泳連盟に対し、広報動画の提供や各種情報の提供を行った他、日本政府観光局(JNTO)などの関係機関と連携し、情報発信や現地でのPRブースなど広報を実施した。

特に、(一財)自治体国際化協会(CLAIR)には現地団体への訪問や、オンラインでのPRを行うための協力をしてもらい、情報を発信した。

また、マスターズ大会参加者が多く見込まれる欧米豪に対して、WEB広告配信を実施した。



マスターズアンバサダーリスト

NO	氏名	国籍	肩書
1	アントニオ・シルヴァ	ポルトガル	世界水泳連盟副会長・理事調整役
2	ナディーン・デイ	アメリカ	世界水泳連盟マスターズ委員会委員長
3	イオアニス・モンテサントス	ギリシャ	世界水泳連盟マスターズ委員会副委員長 ギリシャ水泳連盟IT担当
4	ホルドゥル・オッドフリダソン	アイスランド	アイスランド水泳連盟会長兼欧州水泳連盟マスターズ委員会委員長
5	ロジャー・イーグルス	ニュージーランド	マスターズヒストリアン(マスターズ歴史担当)
6	ウルリケ・ウルバネク	ドイツ	欧州水泳連盟マスターズ委員会委員 ドイツ水泳連盟マスターズ委員会委員
7	イーディス・クラシニング	アンティグア	アンティグア・バーブーダ水泳連盟テクニカルディレクター 中米・カリブ水泳連盟マスターズ委員会委員兼 パンアメリカンマスターズ委員会委員
8	ボリス・ドロバック	セルビア	セルビア水泳連盟会長兼欧州水泳連盟マスターズ委員会副委員長
9	カルロス・シルバ	ブラジル	南米水泳連盟マスターズ委員会委員長 パンアメリカン水泳連盟マスターズ委員会委員
10	ムスタファ・リアヒ	チュニジア	アフリカ水泳連盟マスターズ委員会委員長兼書記
11	チー・シュー	中国	中国代表選手団競泳チームリーダー
12	ミシェル・マリー・ガレン	豪州	豪州水泳連盟会長
13	ガイ・フィリ	ザンビア	ザンビア水泳連盟会長兼アフリカ水泳連盟マスターズ委員会委員長
14	ウムット・ゴージェン	トルコ	トルコ水泳連盟役員
15	アフマド・アル・クドマーニ	サウジアラビア	サウジアラビア水泳連盟会長、シドニー大会及びアテネ大会出場選手
16	パダナセト・チャンカシリ	タイ	タイ水泳連盟役員、国際関係委員会委員長
17	ガルビエラ・ビグリランド	アルゼンチン	世界水泳連盟アーティスティックスイミング委員会委員
18	ウラ・ルケニウス	フィンランド	世界水泳連盟アーティスティックスイミング委員会委員 欧州水泳連盟アーティスティックスイミング委員会委員
19	ハナ・ノヴォトナ	チェコ	世界水泳連盟飛込委員会委員
20	アンドレア・プレイヤー	イタリア	世界水泳連盟オープンウォータースイミング委員会委員
21	グレッグ・キング	カナダ	ニュージーランドマスターズ水泳協会元会長、マスターズ水泳の歴史担当 (カザン大会を除き2009年以降の全てのマスターズ選手権大会に参加)
22	チョウ・チー	中国	世界水泳連盟水球委員会委員
23	今井亮介	日本	世界水泳光州大会マスターズアンバサダー

世界水泳連盟アンバサダーの文化体験

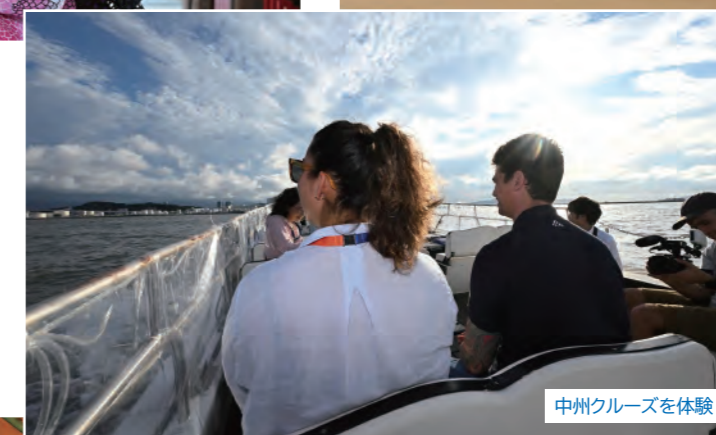
世界水泳連盟のアンバサダーであり、オリンピック競泳の金メダリストである、アンソニー・アービン氏(アメリカ)、ラノミ・クロモウィジョジョ氏(オランダ)に、日本・福岡の文化を体験してもらった。体験の様子は世界水泳連盟やアンバサダー自身のSNSで世界中に発信された。



浴衣に着替え、博多旧市街を散策



妙楽寺で禅体験



中州クルーズを体験



夜の屋台で乾杯!



世界水泳のラッピングがされたオープントップバスで市内を周遊

→→→ Section11 関連プロジェクト

1 概要

組織委員会は、アジア初開催の2001年大会から22年ぶり2回目の福岡市での開催となったこの世界水泳福岡大会並びに世界中から水泳愛好家が集うマスターズ九州大会をきっかけに、多くの分野での成果を社会・地域に残す・継承することを目指した。

これらを実現するために、様々な組織・団体が本大会に関連したイベント・事業(以下、関連プロジェクト)を通じて本大会の参画できるプロジェクトを募集したところ、多くの分野から応募をいただき、全国的な気運醸成につなげることができた。

<対象となる関連プロジェクト>

- ①本大会に関連性があるもの
- ②大会基本計画の5つの行動指針に沿ったもの
- ③本大会の気運醸成につながるもの
- ④本大会参加者へのおもてなしにつながるもの

【関連プロジェクト認証マーク】

<オフィシャルプロジェクトマーク>



<サポートプロジェクトマーク>



2 関連プロジェクト認証一覧

2021年8月から開始した関連プロジェクトは、多方面から多くの申請をいただき、合計45件の認証を行いました。

【2021年度】

事業名称	申請団体
福岡外食応援団 GOOD UP FUKUOKA	福岡商工会議所
博多伝統芸能館 公演	博多伝統芸能振興会
九州大学ピクトグラム制作	組織委員会・九州大学の共同主催
アクアスポーツ体験祭	福岡市スポーツ協会
ラブアースクリーンアップ2021	福岡市(環境局)
FINA 世界水泳2022福岡大会の開催記念大会(日水連)	日本水泳連盟
FINA 世界水泳2022福岡大会の開催記念大会(福岡県水連)	福岡県水泳連盟
世界水泳を盛り上げるためのゲーム制作及びその展示	福岡デザイン&テクノロジー専門学校
スポーツボランティア応援事業	福岡市ホテル協会
博多星空映画館 in 明治公園	博多まちづくり推進協議会
2022年1月年始強化練習会	福岡市水泳協会
各区パネル展	福岡市スポーツ協会
開催特別記念局の運用	日本アマチュア無線連盟
スポーツ体験塾	福岡市スポーツ協会
地域のおもてなし事業	福岡市(経済観光文化局)
住民票の写しの交付による大会広報	福岡市(市民局)
カナツチプロジェクト	福岡市(保健福祉局)
ゲーム展示会	福岡デザイン&テクノロジー専門学校
福岡市立地区プールなないろイベント	福岡市スポーツ協会
福岡市内専門学生によるメダルベアラー衣裳の制作及びメダルベアラー	組織委員会・市内専門学校の共同主催
博多織入賞メダルリボンの提供	福岡市(経済観光文化局)
世界水泳応援鯉のぼり	クリエイティブ福岡推進協議会

【2022年度】

事業名称	申請団体
スポーツ体験ランド	福岡市スポーツ協会
スイムレッスン	福岡市スポーツ協会
FINA 世界水泳選手権2022福岡大会の開催記念大会	一般社団法人日本マスターズ協会
EVERYONE MEETS THE FUTURE in FUKUOKA	福岡市スポーツ協会
夏休みプール開放事業	市民局スポーツ施設課
住民票の写しの交付による大会広報	市民局総務部政課
福岡都市圏 大規模スポーツイベント関連事業(福岡都市圏観戦 事業)	福岡都市圏広域行政推進協議会
福岡外食応援団 GOOD UP FUKUOKA	福岡商工会議所

【2023年度】

事業名称	申請団体
図書館資料で見る福岡のプール展/開催記念上映会	総合図書館
世界水泳選手権大会2023福岡大会50日前イベント	福岡市スポーツ協会
世界水泳選手権2023福岡大会を記念した現代美術展 水のアジア	福岡アジア美術館
ボディケア	公益社団法人福岡県鍼灸師会
工芸品マルシェ&夏休み子ども手作り体験	アクロス福岡
拾い箱&ペットボトルキャップ回収 in 福岡-2023-	海と日本プロジェクト in 福岡-2023-
世界水泳選手権ナショナルチーム事前キャンプ実施事業	倉敷市
令和5年度スポーツ観戦教室「世界水泳2023福岡大会」	福岡市スポーツ協会
福岡市夏休みプール開放事業	福岡市スポーツ施設課
アンチ・ドーピング啓発活動	福岡県薬剤師会
ボランティア交流会	日本財団ボランティアセンター
プライドハウス福岡	プライドハウス東京コンソーシアム
ゴーグル回収プロジェクト	デサントジャパン株式会社
LGBTQ+ 啓発ブース	福岡市人権推進課・プライドハウス福岡



Chapter 6



マーケティング

Section1 スポンサー

1 概要

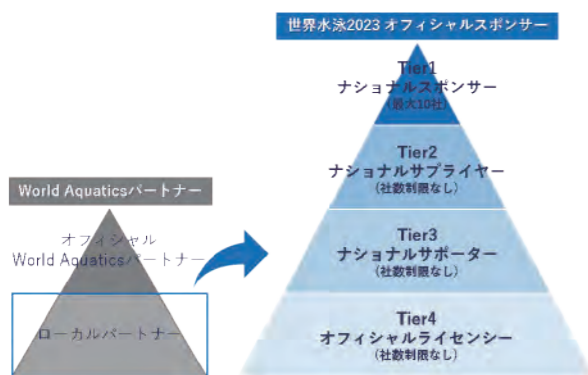
世界水泳スポンサーは、世界水泳連盟と直接契約するオフィシャル世界水泳連盟パートナーと、ローカルパートナーとして位置づけられ組織委員会と契約している世界水泳2023オフィシャルスポンサーに分かれている。

世界水泳2023オフィシャルスポンサーについては、4階層より選択可能なパッケージとなっており、金額に応じて権利が与えられている。

- ナショナルスポンサー
- ナショナルサプライヤー
- ナショナルサポーター
- オフィシャルライセンス

スポンサー企業に対する主な権利は、以下の内容となっている。

- 呼称権や大会ロゴ使用权、マスコット使用权
- 会場内外や印刷物、公式HPへのロゴ掲出等の露出権
- 商品化権、販売権
- その他チケット優先購入権、公式ホテル予約権等



2 スポンサーの権利保護とサポート

クリーンバニュー対応として、スポンサー以外のロゴの露出をしないよう対応。具体的には会場内の自販機にカバーを行う等の対応を実施。

カバーした自販機の代替として、飲料スポンサーであるヤクルトの自動販売機を会場内に設置。

開催期間中はアンブッシュマーケティングの対応を実施。会場内でスポンサー以外の企業のタオル等が掲示された場合止めるよう注意喚起を行った。



3 パートナーワークショップの開催

組織委員会は世界水泳連盟と共同でパートナーワークショップを開催した。これは、大会準備の進捗状況、会場、宿泊、交通、ファンゾーンなどに関する情報をオフィシャルパートナーに伝え、大会に向けた準備とスポンサーアクティベーションの検討をしていただくことを目的としたものである。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、全てのプログラムをオンラインで実施。

- ・開催日：2021年10月12日
- ・開催場所：オンラインにて開催
- ・参加者：世界水泳連盟、オフィシャルパートナー
- ・議題：大会準備の進捗状況の報告

<個別ミーティング>

- ・開催期間：2021年10月13日～14日(2日間)
- ・開催場所：オンラインにて開催
- ・参加者：世界水泳連盟、オフィシャルパートナー
- ・議題：スポンサーアクティベーションに関する質疑応答

4 スポンサー一覧

【世界水泳選手権2023福岡大会】

- World Aquatics オフィシャルパートナー：6団体
ニコン、ヤクルト、久光製薬、Myrtha Pools、Nongfu Spring (農夫山泉)、OMEGA
- World Aquatics オフィシャルサプライヤー：4団体
Corpay、Duraflex、Malmsten、ミカサ
- ナショナルスポンサー：3団体
ボートレース振興会、積水ハウス、ユニクロ
- ナショナルサプライヤー：4団体
九州旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東京海上日動火災保険・東京海上日動あんしん保険、旅行JV (JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、西鉄旅行)
- ナショナルサポーター：26団体
イオン九州、アグレコ、ビーブリッジ、第一交通、ふくおかフィナンシャルグループ、マイング、ヒビノ、ジャパネット、九電工、九電グループ、ローソンエンターテイメント、西日本シティ銀行、西日本新聞、P&G、やまや、やずや、横浜ゴム、デサント、福砂屋、neuet、九州コクボ、ミズノ、日本文化出版、城山、Kiix、Naked.inc ※Naked.incは開会式演出として公式HPに掲載
- インスティテューショナルパートナー：4団体
福岡市経済観光文化局ボートレース事業部、福岡市交通局、福岡市水道局、福岡市道路下水道局



【世界マスターズ水泳選手権2023九州大会】

- World Aquatics オフィシャルパートナー : 3団体
ニコン、ヤクルト、Myrtha Pools
- World Aquatics オフィシャルサプライヤー : 4団体
Corpay、Duraflex、Malmsten、ミカサ
- ナショナルスポンサー : 3団体
ボートレース振興会、積水ハウス、ユニクロ
- ナショナルサプライヤー : 5団体
九州旅客鉄道、西日本旅客鉄道、SEIKO、東京海上日動火災保険・東京海上日動あんしん保険、旅行JV (JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、西鉄旅行)
- ナショナルサポーター : 27団体
イオン九州、アグレコ、ビーブリッジ、第一交通、ふくおかフィナンシャルグループ、マイング、ヒビノ、ジャパネット、九電工、九電グループ、ローソンエンターテインメント、西日本シティ銀行、西日本新聞、P&G、やまや、やずや、横浜ゴム、デサント、福砂屋、neuet、九州コクボ、ミズノ、日本文化出版、Photo Create、城山、Kiix、Naked.inc ※Naked.incは開会式演出として公式HPに掲載
- インスティテューショナルパートナー : 4団体
福岡市経済観光文化局ボートレース事業部、福岡市交通局、福岡市水道局、福岡市道路下水道局

Official Partners

National Sponsors

Official Suppliers

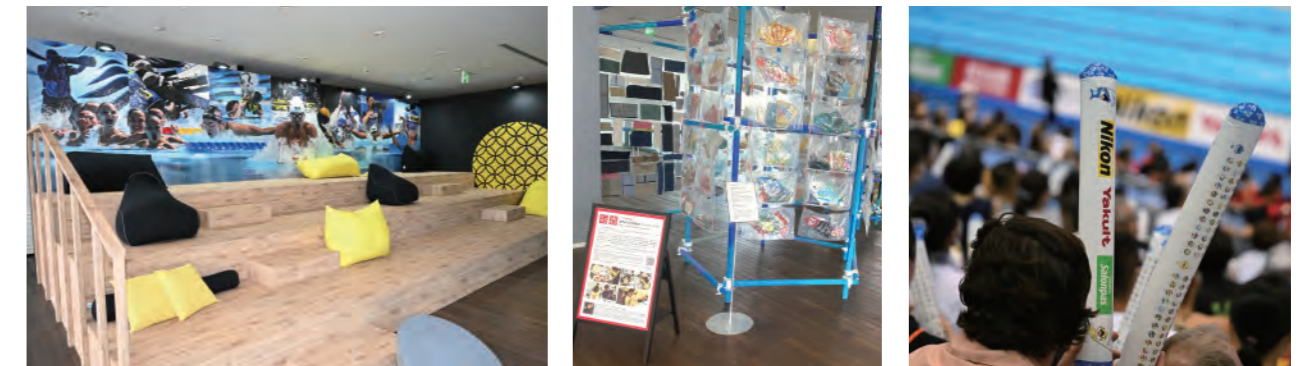
National Suppliers

National Supporters

Institutional Partner

5 スポンサーの権利とアクティベーション

スポンサーの権利として、モニュメントやオブジェの展示やドリンクの提供、ラウンジの設置や着ぐるみの出演、バックヤードツアーや配布グッズの提供など様々なアクティベーションを実施。



Section2 Fukuoka Ichiba(ファンゾーン)

1 概要

「食」、「エンターテインメント」、「ステージ」の3つの柱で来場者をおもてなした。

食：キッチンカーやブースで20を超える飲食店舗が出店。多様な趣向にマッチするようビーガンハラルに対応した食や日本ならではの食を提供。

エンターテインメント：ドローンによる光の演出や山笠の展示のほか、スポンサーブースではVR体験やゲームを実施。

ステージ：各競技会場で行われている競技を大型スクリーンで放映。また、ブラスバンドやDJ、太鼓、書道などのパフォーマーを招いた。

会場装飾：会場は、日本らしさにこだわったデザインで会場を装飾したほか、福岡の夏の風物詩である博多祇園山笠を展示。

※世界水泳が未永く盛況であり続けるようにという願いを込めて、日本で縁起物とされる「鶴」と「亀」をモチーフに会場を装飾。(デザイナー：中村弘峰氏)

■ 開催期間：2023年7月14日～8月11日

※7月31日～8月4日は転換期間のため休場
マスターズ期間は規模を縮小して実施

■ 場 所：マリンメッセ第4駐車場

【参考】マスターズ期間は熊本市、鹿児島市の競技会場でもファンゾーンを設置

2 実績

来場者数：約5万人

出店者数：(チャンピオンシップ期間)46店舗
(マスターズ期間)21店舗

- ・国内外から多くの方に連日来場いただき、オフィシャルショップやキッチンカー、スポンサーのブースでは、週末を中心に観戦者や大会に参加する選手などで長い行列ができ盛況であった。
- ・チケットを購入していない方も、大型スクリーンで放映される競技や会場横で開催されたドローンショーを鑑賞し、大会を楽しんでいた。
- ・熱中症対策として、大型テントやミストを会場内に設置。



オフィシャルパートナーのブース
(上からニコン、ヤクルト、久光製薬)



フォトスポットとして人気だった「博多祇園山笠」
(人形師：中村弘峰氏)

世界水泳FUKUOKA2023 Fukuoka Ichiba ステージスケジュール

	7/15(土)	7/17(月・祝)	7/22(土)	7/23(日)	7/27(木)	7/29(土)	7/30(日)
17:00	筑前博多独楽 <パフォーマンス> (17:00-17:30)	ゆけむりDJs <LIVE> (17:00-17:40)	AXEL (小学生チアリーディング) <パフォーマンス> (17:00-17:20)	城東高校ダンス部 <パフォーマンス> (17:00-17:30)	HKT48 <LIVE> (17:00-17:20)	MOS <LIVE> (17:00-17:40)	Footbose <パフォーマンス> (17:00-17:20)
17:30			パソカタキッズ <LIVE> (17:40-18:00)				S.SHOWTA <LIVE> (17:20-17:50)
18:00	福岡黒田忍者隊 <パフォーマンス> (18:00-18:30)	SOSO <LIVE> (18:00-18:40)		博BALLERS <パフォーマンス> (18:00-18:30)		モンドリウテバ <LIVE> (18:00-18:40)	LOVE JAM CREW <パフォーマンス> (18:00-18:40)
18:30			精進女子高校吹奏楽部 <LIVE> (18:20-18:50)				
19:00				和楽団 JAPAN MARVELOUS <LIVE> (19:00-19:30)		AmPm <LIVE> (19:00-19:40)	
19:30			博多金獅子太鼓 高宮家・杉田麻穂 <パフォーマンス> (19:10-19:40)				
20:00							
20:30			NOMATA <LIVE> (20:00-20:40)				
21:00							



日本らしさにこだわった会場装飾



1,000人を超える方がドローンショーを鑑賞



市内各所で営業している屋台も出店



大型LEDビジョンではパブリックビューイングを実施

Section3 公式グッズ

1 概要

- ・公式マスコットである「シーライ」「シャーニー」や大会エンブレムを使った各種グッズを販売。
- ・約35種類のグッズを製作し、オンライン、オフラインで販売。
- ・主なアイテム：ぬいぐるみ、キーホルダー、各種タオル、アパレル、文房具、伝統工芸グッズなど
- ・国内外の来場者に「Fukuoka」の伝統を知ってもらうため、世界水泳と博多の伝統工芸のコラボグッズも製作。

2 オンライン販売

- ・期間：2021年6月8日～2023年12月31日
- ・公式オンラインショップを開設し、グッズを販売（一部商品を除く）。



3 店頭販売

- ・大会期間前は、市役所本庁や市営プール、お土産販売所などで販売。また、2023年7月にはJR博多シティにオフィシャルショップを開設。
- ・大会期間中は、チャンピオンシップ、マスターズの全競技会場及びFukuoka Ichibaで販売。
- ・特にマリンメッセ福岡A館での販売は好調で、連日長蛇の列ができるほどの人気ぶり。
- ・伝統工芸品とのコラボ商品は外国の方に大人気だった。



購入待ちの長蛇の列(マリンメッセ福岡A館)



Fukuoka Ichibaでの販売の様子

4 オフィシャルグッズ一覧



上記の他にも手ぬぐいやアクリルスタンドなどのグッズを販売

5 販売実績

■ 大会別の販売実績

チャンピオンシップ：約4,000万円 マスターズ：約1,000万円

■ 主な会場での販売実績(マスターズ含む)

マリンメッセ福岡A館：約2,500万円 Fukuoka Ichiba：約1,400万円 県立総合プール：約450万円



■ 大会期間中の主なグッズの販売実績(売り上げベスト3)

スポーツタオル：約1,000万円



ぬいぐるみ：約900万円



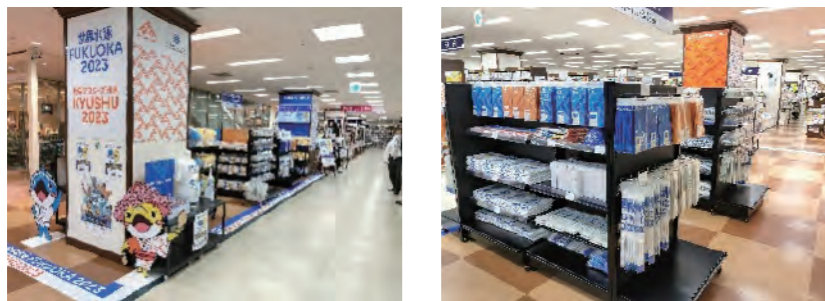
Tシャツ：約600万円



この3種のグッズのみでグッズ売上の約半分を占めた

■ その他

博多駅付近に開設したオフィシャルショップでは、開設以降8月中旬までに1,000万円超を売り上げ



また、ECサイトでは6～8月の3カ月で 250万円超を売り上げた

Section4 寄付

1 企業版ふるさと納税

「企業版ふるさと納税制度」を活用した寄付のお願いを2021年度より実施し、約180社から約14億円の寄付を集めることができた。

寄付企業については市ホームページに掲載するとともに、感謝状贈呈式を実施。また庁舎内や各区市民体育館・プールには寄付企業名を掲示するデジタル銘板を設置した。



デジタル銘板

2 クラウドファンディング

「街路灯バナーなど市内装飾経費」に対するクラウドファンディングを実施し、約140万円のご支援を集めることができた。

- ・クラウドファンディング実施期間：2022年9月20日～2022年12月20日
- ・バナー掲示期間：2023年6月～大会期間中



街路灯バナー



市HPに掲載



Fukuoka Ichibaに掲示した銘板

3 寄付企業一覧

積水ハウス(株)	パナソニック コネクト(株)	(株)フジタ九州支店
(株)大塚商会	(株)石垣	(株)ヒラカワ
(株)大林組	前澤工業(株)	(株)三菱UFJ銀行
(株)ジャパネットたかた	(株)久米設計	東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)
三菱地所(株)	シンフォニアテクノロジー(株)	(株)SYSKEN
(株)上組	月島機械(株)	ジオ・サーチ(株)
野村不動産(株)	(株)山九ロードエンジニアリング	(株)キューハン
東京建物(株)	日本調理機(株)	J.フロント都市開発(株)
(株)麻生	一富士フードサービス(株)	JCOM(株)
(株)メディカル・コンシェルジュ	(株)アクアプロダクト	戸田建設(株)
西部電機(株)	三機工業(株)	(株)安藤・間
平和不動産(株)	(株)奥村組	(株)東京設計事務所
エイバックス・エンタテインメント(株)	(株)日立インダストリアルプロダクツ	佐藤工業(株)
シバタ工業(株)	(株)日立プラントサービス	あおみ建設(株)
(株)梓設計	(株)フソウ	(株)アクリート
日本トーター(株)	深田サルベージ建設(株)	りんかい日産建設(株)
ニッタン(株)	(株)日立ビルシステム	みらい建設工業(株)
(株)栗本鐵工所	東亜建設工業(株)	(株)高砂電業社
富士フィルムビジネスソリューションズ(株)	若築建設(株)	ニシム電子工業(株)
日本信号(株)	東洋建設(株)	西日本技術開発(株)
能美防災(株)	(株)バルテクノ	(株)熊谷組
(株)タカラレーベン	(株)アケボノ	(株)東光高岳
西部ガス長崎(株)	(株)塩塚	(株)本間組
西部ガス熊本(株)	ヤマトプロテック(株)	光洋電器工業(株)
日本管財(株)	東京センチュリー(株)	三井住友カード(株)
長瀬産業(株)	ホテルモンテ(株)	(株)ウォーターエージェンシー
東芝三菱電機産業システム(株)	新晃工業(株)	(株)ジーエスエフ
(株)千代田組	文化シャッター(株)	ハーベストネクスト(株)
久留米運送(株)	日本電設工業(株)	あいおいニッセイ同和損害保険(株)
富士通Japan(株)	オリエンタル白石(株)	三井住友建設鉄構エンジニアリング(株)
西部ガス佐世保(株)	(株)コングレ	セントラルスポーツ(株)
(株)浅川組	(株)AIHO	(株)トイント
前田工織(株)	(株)日建設計	(株)グリットウェブ
コーユーレンティア(株)	(株)CB	日本エレベーター製造(株)
(株)パルコ	(株)鶴見製作所	(株)ナゴウェブ
(株)イクティス	(株)商船三井	(株)ミナケア
(株)神鋼環境ソリューション	(株)エイジエック	(株)スタークラフト
メタウォーター(株)	伊藤忠商事(株)	(株)メディアウィズ
TSP太陽(株)	新川電機(株)	合同会社ラビッツ
宮川建設(株)	水ing(株)	(株)QTnet
NTTアーバンソリューションズ(株)	(株)協和コンサルタンツ	石垣メンテナンス(株)
富士電機(株)	サンコーコンサルタンツ(株)	(株)大気社
(株)大建設計	大和リース(株) 福岡支社	九電テクノシステムズ(株)
川崎重工業(株)	(株)村田製作所	クリックアンドペイ合同会社
大新土木(株)	(株)ジーダット	(株)合人社計画研究所
大旺新洋(株)	三井物産(株)	
協和機電工業(株)	北九州エル・エヌ・ジー(株)	

※市HP掲載企業のみ掲示



Chapter 7



会場設営

Section1 会場情報

福岡市の特徴であるコンパクトな都市構造を活かし、大会環境はコンパクトながら大会価値の最大化を図ることをコンセプトに基本計画が策定された。

「Compact in Size, Big in Enthusiasm (小さなサイズで大きな熱狂)」の実現に向け、特設プール等を活用し、コンパクトなエリアに競技会場やマーケットストリート等を集約することで、選手の移動負担の軽減、大会全体の盛り上げ、効率的な大会運営を目指し、各会場を計画した。

1 主要目標

- ・選手がストレスなく、競技に集中できるアスリートファーストの競技環境を追究し、世界水泳連盟基準に適合した適切な競技施設・設備の確保、円滑な競技運営に配慮した諸室・動線計画を策定する。
- ・来場者・市民が一体となって熱狂し、大会を1日中楽しむことができる環境づくりに向け、競技会場、マーケットストリートのコンパクトな配置、大会を盛り上げる質の高い会場デザインを行う。
- ・財政負担の抑制に向け、利用形態を踏まえた最適な仕様設定、東京オリンピックで利用した機器・設備等の再利用、最適な調達方法の採用を図る。

2 会場情報

■ 競技会場

- ・4つの会場に6種類の競技施設を設置・運営し、各施設が世界水泳選手権を開催するための国際基準を満たしていることを確認した。
- ・既存施設の活用や、東京オリンピックで利用した機器・設備等を再利用し、新たな会場建設の経済的負担を最小限に抑えることで、施設費を節約した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催日程が延期になったことにより、工事に着手していた箇所については施設を一部残置し、2022年12月から、会場の整備工事を再開した。
- ・すべての会場において、世界水泳連盟の公認を取得した。

■ 練習会場

- ・選手の練習環境を整えるため、競泳と水球の2種別は競技会場とは別に市内の既存施設6会場を練習会場として確保した。

3 会場施設の管理と安全検査

- ・事前の検査と会場運営(運営・試運転)のテストにより、大会本番での対応能力を向上させた。

<チャンピオンシップ会場>

会場	会場写真	プール寸法	工事期間	座席数
マリンメッセ福岡A館 (競泳) 競泳：SW、 アーティスティック スイミング：AS		競技用プール 50m×26m×3m(特設) SW-WU用プール ※ 50m×25m×2m(特設) AS-WU用プール ※ 30m×25m×3m(特設)	【再延期前】 2021年12月1日 ～2022年3月31日 【再開後】 2022年12月12日 ～2023年6月30日	約7,400席

<チャンピオンシップ会場>

会場	会場写真	プール寸法	工事期間	座席数
マリンメッセ福岡B館 (水球：WP)		競技用プール 35m×25m×2m(特設) WU用プール ※ 50m×25m×2m(特設)	【再延期前】 2021年12月1日 ～2022年3月31日 【再開後】 2022年12月12日 ～2023年6月30日	約2,600席
福岡県立総合プール (飛込：DV)		競技用プール 22m×20m×5m	【再延期前】 2021年12月1日 ～2022年4月27日 【再開後】 2023年4月20日 ～2023年6月30日	約1,000席
シーサイドもち 海浜公園 (オープンウォーター スイミング：OWS、 ハイドビビング：HDV)		HDVタワー 飛込台高さ：男子27m、 女子20m OWSスタート用 ポンツーン仮設	【再延期前】 2021年12月1日 ～2022年3月31日 【再開後】 2023年2月13日 ～2023年6月30日	約600席 + 立ち見 エリア HDV： 270㎡、 OWS： 500㎡

※東京オリンピックで使用された仮設プール資材(ミルタプール製)を再活用した。(P167参照)

<マスターズ会場>

会場	会場写真	プール寸法	工事期間	座席数
マリンメッセ福岡A館 (競泳)	チャンピオンシップ会場と同じ			
総合西市民プール (競泳)		50m×25m×2m	2023年7月4日 ～2023年7月7日	1,010席
福岡県立総合プール (飛込)	チャンピオンシップ会場と同じ			
シーサイドもち海浜公園 (オープンウォータースイミング)	チャンピオンシップ会場と同じ			

<マスターズ会場>

会場	会場写真	プール寸法	工事期間	座席数
アクアドームくまもと (水球)		50m×25.5m×2m 25m×23m×5m	2023年7月31日 ～ 2023年8月2日	3,000席
鴨池公園水泳プール (アーティスティックスイミング)		50m×25m×3m	2023年7月29日 ～ 2023年8月2日	1,554席

<練習会場>

会場	会場写真	プール寸法	利用期間	利用実績
福岡大学プール (競泳)		50m×25m×1.5m	2023年7月19日 ～ 2023年7月30日	述べ 267人
総合西市民プール (水球)		50m×25m×2m	2023年7月12日 ～ 2023年7月29日	述べ 男子： 152チーム 女子： 121チーム
福岡県立 福岡工業高校プール (水球)		35m×22m×2m	2023年7月16日 ～ 2023年7月22日	述べ 男子： 44チーム 女子： 43チーム
福岡県立 福岡高校プール (水球)		25m×22m×1.8m	2023年7月18日 ～ 2023年7月22日	述べ 男子： 10チーム 女子： 12チーム
福岡県立 早良高校プール (水球)		25m×20m×2m	2023年7月18日 ～ 2023年7月22日	述べ 男子： 8チーム 女子： 9チーム
福岡県立総合プール (水球)		50m×25m×2.2m	2023年7月23日 ～ 2023年7月29日	述べ 男子： 40チーム 女子： 28チーム

 Section2 会場装飾

1 実施概要

会場装飾は、大会ロゴをモチーフとしたグラフィック等の設置、スポンサー企業の広告掲示、競技会場におけるサイン(動線・施設案内等)設置等を行い、選手権の会場雰囲気醸成及び円滑な大会運営に貢献した。

- ・期間：2023年6月～8月
- ・対象業務：グラフィック・サインデザイン、製作、設置、維持管理、撤去
- ・コンセプト：「グローバルな交流・未来、団結を“はためく帆”として表現」

開催都市の福岡市は、海を通じて世界とつながり、その長い歴史の中で祭りや食、芸術やスポーツなどの独自の文化、個性を育んできた。

世界水泳選手権2023福岡大会の会場装飾のグラフィックでは、大会の関係者・観客などのグローバルな交流の未来、選手の団結を“はためく帆”で表現した。

2 対象の会場

<世界水泳選手権2023福岡大会>

マリメッセ福岡A館(SW・AS)、マリメッセ福岡B館(WP)、福岡県立総合プール(DV)、シーサイドももち海浜公園(OWS・HDV)、ボートレース福岡(開会式)



<世界マスターズ水泳選手権2023九州大会>

マリメッセ福岡A館(SW)、福岡西市民プール(SW)、福岡県立総合プール(DV)、シーサイドももち海浜公園(OWS)、アクアドームくまもと(WP)、鴨池公園水泳プール(AS)

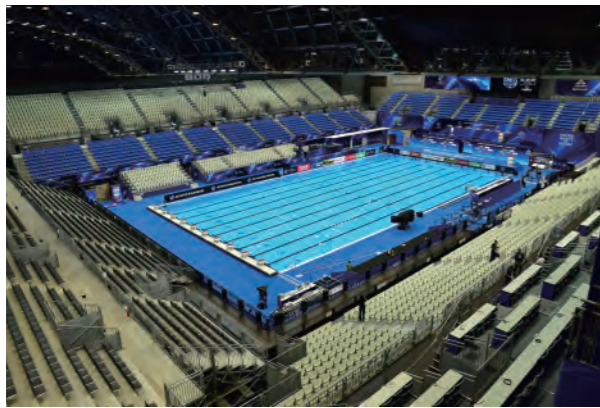


3 装飾物の種類

- ・表彰バックボード、FOP装飾、エントランス装飾、ミックゾーン、プレスカンファレンスバックボード
- ・サイン看板、誘導案内板、会場MAP

4 経緯

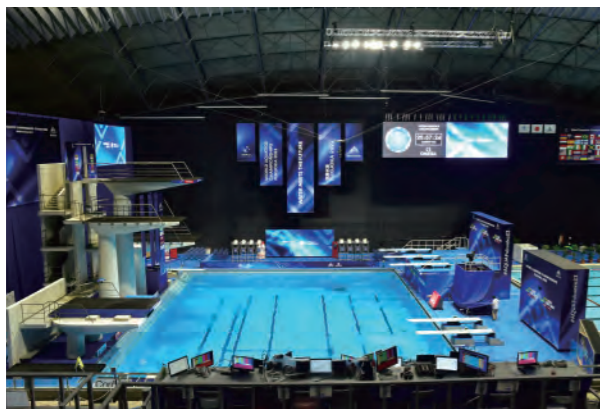
- ・2021年10月に会場装飾の方針を策定し、キービジュアルを国際水泳連盟へ提案し、承認を受ける。
- ・2023年5月にキービジュアルを基としたメイングラフィックを世界水泳連盟と合意。
- ・2023年6月のバンパイン以降に施工を実施。



マリンメッセ福岡A館



マリンメッセ福岡B館



福岡県立総合プール

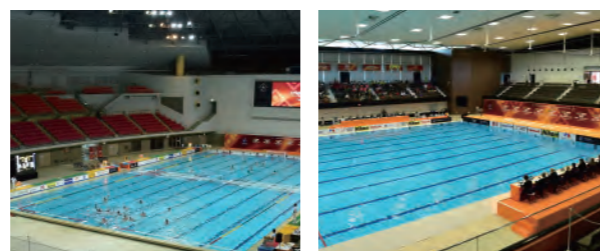
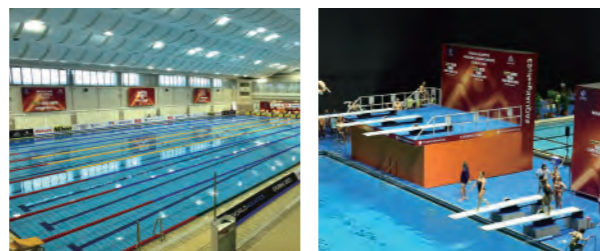
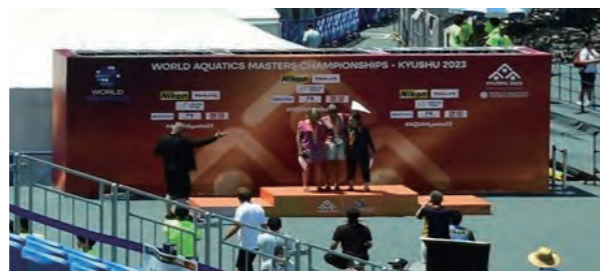


シーサイドもち海浜公園

5 マスターズ会場の装飾・転換

マスターズ大会では、各会場にオレンジ色のキービジュアルに統一した装飾を施している。

競泳、飛込、オープンウォータースイミングは、チャンピオンシップと同一会場で開催するため、チャンピオンシップ終了後7月31日と8月1日の2日間で、装飾の一部をマスターズ仕様に転換した。



6 関連プロジェクト

■ 趣旨

本大会は世界191か国からの来訪者を見込む大会のため、国や個人の多様性を考慮した情報発信が必要であり、世界水泳選手権2023福岡大会関連プロジェクトの一つとして、九州大学芸術工学部において学術的知見を活かし、大会期間中に使用するピクトグラム及び屋外誘導サインのデザインを制作した。

■ 制作物

(1) ピクトグラム

情報や注意を示すために表示されるもので、視覚的な情報のみで案内を可能とする。JISに定められていないもの、大会固有のもので必要なものを中心に検討した。



制作物の代表例 ※ピクトグラムマニュアルより抜粋

(2) 屋外誘導サインのデザイン

主に一般観客の誘導・案内用で、競技会場周辺の敷地内や歩行ルート上へ設置した。競技施設等の場所や方向、案内内容などを表記するもので、デザイン(ロゴマークの配置等)や仕様(大きさ、形状等)を検討した。



制作物の代表例
※会場外誘導サイン基本ガイドライン(提案)より抜粋

(3) 選手・観客のおもてなし装飾

選手・観客等のおもてなしと、SNSによる情報発信を狙い、会場内にフォトスポットや花・書を活用した装飾を行った。



7 その他

- ・限られた予算の中で、装飾の最大限の成果を出すために、プランの検討を重ねた。
- ・競技実施、放送・報道、演出など多岐にわたる調整が必要であったため、計画の作成に多くの時間を要した。

Section3 備品

1 概要

各競技会場、国際放送センター及びADセンターにおける、大会で使用する全ての諸室において、大会運営上必要となる備品の精査及びレイアウト作成、また設営作業を行った。調達コストを最小限に抑えるため、会場既存備品を最大限に活用し、また、大会終了後に廃棄物とならないようにするため、不足する分はリース備品を調達した。

2 調達計画と調達方法

■ 調達計画

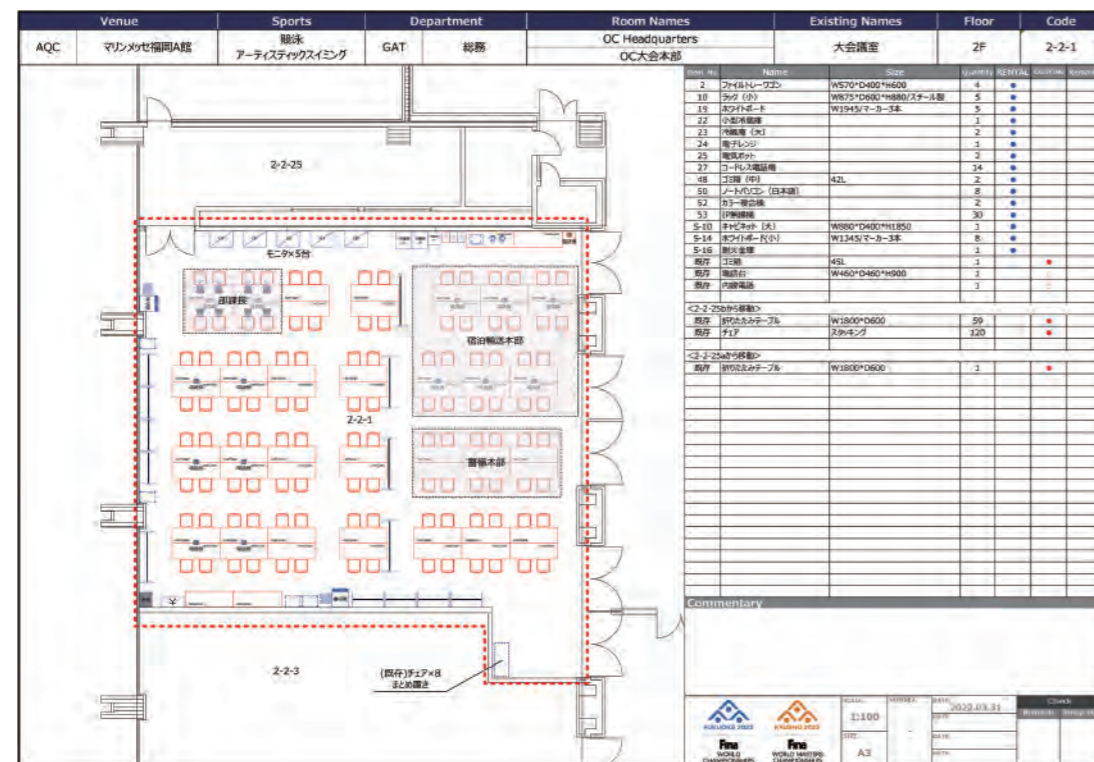
(1) 現地調査

レイアウト作成や備品数の確定に必要な間取りや、既存備品の配置状況等の確認を行うため、現地視察を実施した。

(2) 各部署へのヒアリング

実際に諸室を利用する各部署へヒアリングを大会開始直前までに複数回実施し、必要な備品とレイアウトを確認した。

参考：備品レイアウト図



(3) 必要備品の精査及びレイアウト作成

各部署の要求備品について、隣接する諸室との共有使用や、可能な限りの既存備品の使用を依頼し、必要最低限の備品数量を算出した。また、レイアウトの確定にあたっては、要求された備品のレイアウトと併せて、使用しない既存備品についても検討した。検討の結果、諸室内に残置が不可である既存備品については、会場内で保管場所を検討し、大会前に退避作業を行った。

■ 備品の調達及び搬出搬入作業

(1) 調達

必要備品の精査の結果、リースを行うことになったアイテムについて、調達を行った。

(2) 搬出入計画策定及び設置作業

組織委員会で定められた各種物品等の搬出入期間内に、設営・撤去作業が完了するよう備品総量に基づき、搬出入計画を策定した。また各部署に設営完了希望日について確認を行い、希望に沿って、設営を完了した。

3 実績

作成した備品レイアウトをもとに、各会場の準備期間内に、備品の設営と電子機器等の設定作業を行った。

大会期間中の追加については、各会場の担当者と連携を取りながら迅速に行った。

また、電子機器については、英語対応の取扱説明書を機器に添付し、全ての大会関係者に考慮した対応を行った。

■ 調達備品例

諸室名	備品
世界水泳連盟オフィス	机、イス、ロッカー、液晶モニター、複合機等
組織委員会オフィス	机、イス、キャビネット、複合機、金庫、ホワイトボード、パーテーション等
ミックスゾーン	机、モニター、イレクターフェンス等
アスリートラウンジ	ラウンドテーブル、ホワイトボード、冷蔵ショーケース等
スポーツインフォメーション	机、イス、液晶モニター、複合機、冷蔵ショーケース、ピジョンボックス等

■ 設営状況

世界水泳連盟スタッフオフィス



スポーツインフォメーション



→→→ Section4 物流

1 概要

大会関係者に必要な物資が滞りなく行き渡るよう、物流業者に輸送物品の調査、輸送計画の作成、各会場への輸送を委託した。

■ 施設：マリンメッセ福岡A館、マリンメッセ福岡B館、福岡県立総合プール、シーサイドももち海浜公園、アクアドームくまもと、鴨池公園水泳プール、国際放送センター、博多港国際ターミナルなど

■ 主な業務内容

- ・輸送物品の調査
- ・物品の輸送計画の策定
- ・各競技会場の搬出入口の利用スケジュールの調整
- ・各会場への物品の輸送

2 調査

2021年11月から12月にかけて、一時保管倉庫を経由して各会場に輸送する必要のある物品の種類や物量を調査した。

調査の結果、2021年12月時点の貨物情報では、2,237パレット分の貨物を保管する倉庫が必要と判明した。

その後、倉庫経由ではなく会場への直接納品への切替えなどの見直しにより、一時保管倉庫の必要面積を縮減したことで、民間倉庫の借用が不要となり、福岡市が所有する施設に一時保管することとした。

3 計画

2023年3月から6月にかけて、一時保管倉庫から各会場へ輸送する物品の輸送計画を策定した。

また、各競技会場において、スポンサーからの提供品・会場装飾品・テレビ放送機材・競技備品・什器類などの搬出入時間が重複し、搬出入車両の渋滞が生じないよう、各競技会場の搬出入口の利用スケジュールを調整した。

4 運用・実績

農夫山泉のミネラルウォーターやモニュメント、公式ウェアなどの物品について、輸送計画に基づき各会場へ必要物品を輸送した。

また、競技備品のうち、オメガ社の機器について、搬入及び会場内搬送だけでなく、設置作業の補佐も行った。

その他、ヤクルト社製品の搬入作業及び会場内諸室への運搬など、当初の計画にない業務についても、臨機応変に対応した。

物品の搬入や運搬時は、専門の作業員を配備し、安全かつ迅速に搬入作業を行った。

各競技会場の倉庫に保管していた農夫山泉のミネラルウォーターについては、在庫切れが生じないよう随時在庫状況を確認し、適宜一時保管倉庫から補充を行った。

各競技会場の搬出入口の利用スケジュールについては、日々、搬出入業者の作業内容の変更(搬出入口や作業時間などの変更)に生じたため、状況に応じた調整を行い、調整結果を関係者に時事共有する等して、搬出入車両が渋滞する状況を防いだ。

(輸送実績 P104 ~ P105 参照)



物流配送実績

物品(輸送・搬入)	配送期間	配送元	配送先	数量
Nongfu Springの ミネラルウォーター	6月25日、7月20日、 7月21日、7月25日、7月26日、 7月27日、7月28日、 7月30日、8月1日	一時保管倉庫	マリンメッセ福岡A館	5,940箱
	6月26日、7月21日、7月26日	〃	マリンメッセ福岡B館	1,547箱
	6月28日、7月14日、7月21日、 7月25日、7月26日、7月30日	〃	福岡県立総合プール	2,160箱
	6月28日、7月19日、 7月24日、7月31日	〃	シーサイドももち海浜公園	1,440箱
	6月28日、7月17日、7月24日	〃	国際放送センター	360箱
	7月5日、7月28日	〃	博多港国際ターミナル	100箱
	7月3日、7月20日、7月28日、 8月2日、8月8日	〃	福岡総合西市民プール	1,260箱
	7月15日	〃	福岡大学	94箱
	7月17日	〃	福岡高校	39箱
	7月15日	〃	福岡工業高校	189箱
	7月17日	〃	早良高校	39箱
	7月13日	〃	ボートレース福岡	26箱
	7月24日	〃	福岡国際会議場	52箱
	8月1日、8月10日	〃	アクアドームくまもと	630箱
	8月1日、8月10日	〃	鴨池公園水泳プール	350箱
	Nongfu Springの モニュメント	6月29日	一時保管倉庫	マリンメッセ福岡A館
〃			福岡県立総合プール	2台
〃			シーサイドももち海浜公園	2台
Nongfu Springの どぶづけ	6月29日	一時保管倉庫	マリンメッセ福岡A館	5台
		〃	マリンメッセ福岡B館	4台
		〃	福岡県立総合プール	3台
		〃	シーサイドももち海浜公園	3台
Nongfu Springの ウォーターサーバーボトル	7月5日	一時保管倉庫	マリンメッセ福岡A館	96本
入賞メダル・メダルケース・ 塩タブレット等	8月1日	マリンメッセ福岡A館	アクアドームくまもと	25箱
		〃	鴨池公園水泳プール	19箱
記念メダル	6月21日	福岡市役所	博多港国際ターミナル	17箱
	6月1日	福岡市民体育館	アクアドームくまもと	56箱
	6月16日	〃	鴨池公民館	39箱
	6月22日	〃	アクアドームくまもと合宿所	108箱
	6月22日	〃	福岡市役所	147箱
	6月22日、6月24日	〃	博多港国際ターミナル	200箱
	6月20日	博多港国際ターミナル	国際放送センター	70箱
	6月20日	〃	福岡県庁	110箱
	6月21日	〃	福岡市役所	355箱
	6月26日	〃	マリンメッセ福岡A館	120箱
	8月1日	〃	アクアドームくまもと	54箱
	8月1日	〃	鴨池公園水泳プール	64箱
	8月12日	〃	福岡市スポーツ協会	55箱
	8月1日	アクアドームくまもと 合宿所	アクアドームくまもと	170箱

物品(搬入・搬出※輸送なし)	作業日	作業場所
OMEGAの競技備品	6月21日、6月28日、8月2日	マリンメッセ福岡A館
	6月26日、6月30日、7月31日	マリンメッセ福岡B館
	6月23日、6月29日、7月24日	福岡県立総合プール
	6月22日、6月28日、7月28日	シーサイドももち海浜公園

物品(搬入・搬出※輸送なし)	作業日	作業場所
ヤクルトの飲料(ヤクルト、お茶等)	7月7日、7月13日、7月19日、 7月20日、7月24日、8月3日、8月8日	マリンメッセ福岡A館
	8月3日、8月8日	福岡総合西市民プール

→→→ Section5 清掃・ごみ

1 概要

アスリートが安心して大会に参加でき、また来場者が心地よく観戦できるよう、会場を常に快適で衛生的な状態とするため、清掃を実施した。

また大会で出るごみは、法令に基づき、適切な廃棄物処理を実施するとともに、ペットボトルごみについてはリサイクルを実施した。

清掃施設及び運営期間

施設	期間
マリンメッセ福岡A館	2023年7月2日～8月11日
マリンメッセ福岡B館	2023年7月2日～7月29日
福岡県立総合プール	2023年7月2日～8月7日
シーサイドももち海浜公園	2023年7月3日～8月3日
福岡総合西市民プール	2023年7月3日～8月11日
アクアドームくまもと	2023年7月31日～8月11日
鴨池公園水泳プール	2023年7月31日～8月11日
国際放送センター	2023年6月17日～7月30日

2 計画

■ 清掃

用途や使用時間に応じた清掃計画を策定するため、会場を①選手エリア②大会関係者エリア(選手以外の大会関係者)③観客エリアに区分した。清掃時間については、各関係者へのヒアリングを行い、清掃エリアごとに利用者不在の時

間に入るべきか等を確認し、決定した。また、会場を熟知した各施設に所属する業者へ清掃を依頼することにより、通常清掃で不足する範囲を明確化し、不足のない清掃を実施した。

清掃エリア		頻度	時間
選手エリア		1回/日	競技終了後or競技開始前
関係者エリア ※選手以外のスタッフ	諸室	1回/週	競技時間中
	トイレ	巡回/日	
観客エリア	観客席	巡回/日+1回/日	競技時間(巡回)+退場後(1回)
	動線、トイレ		
地行浜	トイレ、更衣室、喫煙所	1回/日	競技終了後or競技開始前
	海浜		

■ ごみ

他大会のごみ排出状況や、大会参加者見込数、また提供予定のペットボトル飲料の本数などから、大会で排出されるごみの総排出量の見込を算出した。回収頻度については、

来場者数に基づくため、①準備期間②練習期間及び競技期間に分け、①については、週3日程度、②については毎日回収するよう計画した。

3 実績

■ 清掃

計画的な清掃により、環境を維持した。また、突発的な清掃依頼が入った際は、事前に定めていた連絡体制に基づき、迅速な対応を行った。

■ ごみ

定期的にごみ庫の確認を行い、計画的な回収を実施した。

会場ごとの回収回数及び回収量

		A館	B館	IBC	県立
燃えるごみ	回数	37	26	27	37
	量(t)	33.41	12.82	2.96	5.38
ペットボトル・びん・かん	回数	34	26	27	33
	量(t)	1.93	1.58	0.21	0.49

		シーサイドももち	西市民	アクアドーム	鴨池公園
燃えるごみ	回数	25	28	12	12
	量(t)	3.65	1.82	0.26	0.27
ペットボトル・びん・かん	回数	23	28	12	12
	量(t)	0.69	0.64	0.28	0.17





Chapter 8



チャンピオンシップ

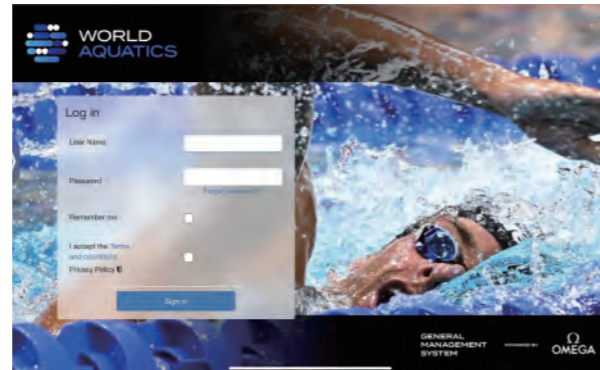
Section 1 GMS

1 概要

GMS (General Management System)は世界水泳連盟が開催する競技会及び関連イベントへの参加者情報を収集・管理するシステムである。参加者が各個人の情報や顔写真、フライト情報、宿泊情報の登録を行う。

GMSにより、ADカードの作成、選手の競技エントリー、宿泊の申し込み、到着・出発の管理を行った。

GMS ホームページ



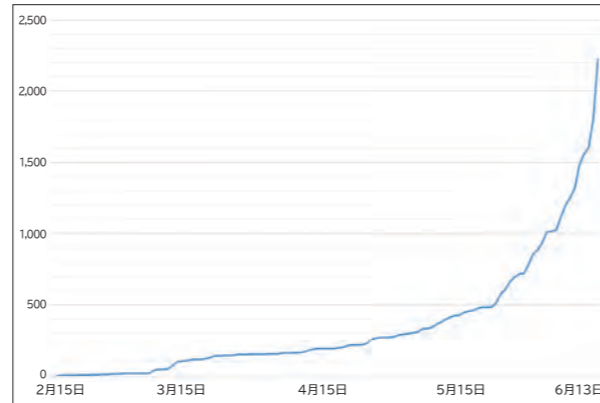
2 GMS 登録

大会への参加者は世界水泳連盟が管理する登録サイトにてGMSへ参加情報の登録を行った。

【登録スケジュール】

- ・登録開始 2023年2月15日
- ・事前エントリー締切 2023年3月14日
- ・エントリー締切 2023年6月13日

GMS エントリー数の推移



最終エントリー

参加国・地域	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング	ハイダイビング
1 AGU Anguilla	1	0	0	0	0	0
2 ALB Albania	4	0	0	0	0	0
3 ALG Algeria	2	0	0	0	0	0
4 AND Andorra	2	0	0	0	0	0
5 ANG Angola	4	0	0	0	2	0
6 ANT Antigua and Barbuda	4	0	0	0	0	0
7 ARG Argentina	4	0	26	2	4	0
8 ARM Armenia	4	2	0	0	0	0
9 ART World Aquatics Refugee Team	2	0	0	0	0	0
10 ARU Aruba	4	0	0	2	1	0
11 ASA American Samoa	1	0	0	0	0	0
12 AUS Australia	31	10	30	12	8	3
13 AUT Austria	12	4	0	3	1	0
14 BAH Bahamas	4	0	0	0	0	0
15 BAN Bangladesh	2	0	0	0	0	0
16 BAR Barbados	4	0	0	0	0	0
17 BDI Burundi	4	0	0	0	0	0
18 BEL Belgium	12	0	0	2	1	0
19 BEN Benin	2	0	0	0	0	0
20 BER Bermuda	4	0	0	0	0	0
21 BHU Bhutan	2	0	0	0	0	0
22 BIH Bosnia and Herzegovina	4	0	0	0	0	0
23 BOL Bolivia	4	0	0	0	3	0
24 BOT Botswana	2	0	0	0	0	0
25 BRA Brazil	26	7	0	3	6	1
26 BRN Bahrain	4	0	0	0	0	0
27 BRU Brunei Darussalam	3	0	0	0	0	0
28 BUL Bulgaria	3	0	0	3	0	0
29 BUR Burkina Faso	2	0	0	0	0	0

参加国・地域	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング	ハイダイビング
30 CAF Central African Republic	1	0	0	0	0	0
31 CAM Cambodia	2	0	0	0	0	0
32 CAN Canada	28	8	28	12	5	4
33 CAY Cayman Islands	3	0	0	0	0	0
34 CGO Republic of Congo	2	0	0	0	0	0
35 CHI Chile	4	2	0	11	0	0
36 CHN People's Republic of China	41	18	29	13	7	0
37 CMR Cameroon	3	0	0	0	0	0
38 COK Cook Islands	2	0	0	0	0	0
39 COL Colombia	5	3	0	4	0	3
40 COM Comoros	2	0	0	0	0	0
41 CPV Cape Verde	4	0	0	0	0	0
42 CRC Costa Rica	2	0	0	9	2	0
43 CRO Croatia	3	2	15	1	2	0
44 CUB Cuba	4	4	0	4	0	0
45 CUR Curacao	2	0	0	0	0	0
46 CYP Cyprus	4	0	0	0	0	0
47 CZE Czechia	4	0	0	2	4	0
48 DEN Denmark	5	0	0	0	0	1
49 DJI Djibouti	2	0	0	0	0	0
50 DMA Dominica	1	0	0	0	0	0
51 DOM Dominican Republic	4	2	0	0	0	0
52 ECU Ecuador	2	0	0	0	2	0
53 EGY Egypt	10	4	0	12	2	0
54 ESA El Salvador	2	0	0	0	0	0
55 ESP Spain	22	7	29	14	5	2
56 EST Estonia	5	0	0	0	0	0
57 ETH Ethiopia	2	0	0	0	0	0
58 FIJ Fiji	3	1	0	0	0	0

参加国・地域	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング	ハイダイビング
59 FIN Finland	5	1	0	0	0	0
60 FRA France	32	8	30	13	6	2
61 FRO Faroe Islands	2	0	0	0	0	0
62 FSM Federated States of Micronesia	4	0	0	0	0	0
63 GAB Gabon	2	0	0	0	0	0
64 GAM Gambia	3	0	0	0	0	0
65 GBR Great Britain	28	11	0	12	3	1
66 GBS Guinea-Bissau	1	0	0	0	0	0
67 GEO Georgia	2	3	0	1	0	0
68 GER Germany	19	13	0	9	6	2
69 GHA Ghana	3	0	0	0	0	0
70 GRE Greece	15	3	30	10	3	0
71 GRN Grenada	2	0	0	0	0	0
72 GUA Guatemala	2	0	0	0	3	0
73 GUI Guinea	3	0	0	1	0	0
74 GUM Guam	4	0	0	0	0	0
75 GUY Guyana	3	0	0	0	0	0
76 HAI Haiti	2	0	0	0	0	0
77 HKG Hong Kong, China	9	2	0	0	4	0
78 HON Honduras	3	0	0	0	0	0
79 HUN Hungary	26	2	30	2	6	0
80 INA Indonesia	4	4	0	0	1	0
81 IND India	4	1	0	0	5	0
82 IRI Islamic Republic of Iran	2	0	0	0	0	0
83 IRL Ireland	12	3	0	0	0	0
84 IRQ Iraq	2	0	0	0	0	0
85 ISL Iceland	2	0	0	0	0	0
86 ISR Israel	13	0	15	10	5	0
87 ISV Virgin Islands, US	3	0	0	0	0	0
88 ITA Italy	32	10	30	13	6	3
89 JAM Jamaica	1	2	0	0	0	0
90 JOR Jordan	4	0	0	0	0	0
91 JPN Japan	40	9	30	14	8	1
92 KAZ Kazakhstan	4	0	28	14	5	0
93 KEN Kenya	4	0	0	0	0	0
94 KGZ Kyrgyzstan	2	0	0	0	0	0
95 KOR Republic of Korea	21	8	0	4	4	1
96 KOS Kosovo	2	0	0	0	0	0
97 KSA Saudi Arabia	2	0	0	0	0	0
98 KUW Kuwait	6	1	0	0	0	0
99 LAO Lao People's Democratic Republic	3	0	0	0	0	0
100 LAT Latvia	4	1	0	0	0	0
101 LBA Libya	2	0	0	0	0	0
102 LBN Lebanon	4	0	0	0	0	0
103 LCA Saint Lucia	2	0	0	0	0	0
104 LES Lesotho	1	0	0	0	0	0
105 LIE Liechtenstein	0	0	0	3	0	0
106 LTU Lithuania	7	2	0	0	0	0
107 LUX Luxembourg	4	0	0	0	0	0
108 MAC Macau, China	4	5	0	11	0	0
109 MAD Madagascar	2	0	0	0	0	0
110 MAR Morocco	2	0	0	1	1	0
111 MAS Malaysia	4	13	0	0	0	0
112 MAW Malawi	4	0	0	0	0	0
113 MDA Republic of Moldova	3	0	0	0	0	0
114 MDV Maldives	4	0	0	0	0	0
115 MEX Mexico	11	14	0	14	6	4
116 MGL Mongolia	4	0	0	0	0	0
117 MHL Marshall Islands	2	0	0	0	0	0
118 MKD North Macedonia	4	0	0	0	0	0
119 MLI Mali	1	0	0	0	0	0
120 MLT Malta	4	0	0	1	0	0
121 MNE Montenegro	2	0	15	0	0	0
122 MON Monaco	1	0	0	0	1	0
123 MOZ Mozambique	3	0	0	0	0	0
124 MRI Mauritius	3	0	0	0	0	0
125 NAM Namibia	2	0	0	0	0	0
126 NCA Nicaragua	2	0	0	0	0	0

参加国・地域	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング	ハイダイビング
127 NED Netherlands	17	3	15	3	1	1
128 NEP Nepal	4	0	0	0	0	0
129 NGR Nigeria	4	0	0	0	0	0
130 NIG Niger	2	0	0	0	0	0
131 NMA Northern Mariana Islands	4	0	0	0	0	0
132 NOR Norway	4	3	0	0	0	0
133 NZL New Zealand	15	9	14	10	0	1
134 OMA Oman	2	0	0	0	0	0
135 PAK Pakistan	4	0	0	0	0	0
136 PAN Panama	4	0	0	0	0	0
137 PAR Paraguay	4	0	0	0	0	0
138 PER Peru	5	2	0	2	2	0
139 PHI Philippines	5	0	0	0	0	0
140 PLE Palestine	4	0	0	0	0	0
141 PLW Palau	4	0	0	0	0	0
142 PNG Papua New Guinea	4	0	0	0	0	0
143 POL Poland	12	5	0	0	0	0
144 POR Portugal	8	0	0	2	4	0
145 PUR Puerto Rico	3	3	0	2	4	0
146 QAT Qatar	4	0	0	0	0	0
147 ROU Romania	2	4	0	0	0	2
148 RSA South Africa	11	4	27	4	6	0
149 RWA Rwanda	2	0	0	0	0	0
150 SAM Samoa	4	0	0	0	0	0
151 SEN Senegal	3	0	0	0	1	0
152 SEY Seychelles	2	0	0	0	2	0
153 SGP Singapore	11	3	0	12	3	0
154 SKN St. Kitts and Nevis	1	0	0	0	0	0
155 SLE Sierra Leone	2	0	0	0	0	0
156 SLO Slovenia	5	0	0	2	1	0
157 SMR San Marino	2	0	0	1	0	0
158 SOL Solomon Islands	1	0	0	0	0	0
159 SRB Serbia	5	0	15	2	1	0
160 SRI Sri Lanka	3	0	0	0	0	0
161 SUD Sudan	2	0	0	0	0	0
162 SUI Switzerland	8	5	0	0	1	3
163 SUR Suriname	2	0	0	0	0	0
164 SVK Slovakia	7	0	0	10	1	0
165 SWE Sweden	13	4	0	2	0	0
166 SWZ Eswatini	4	0	0	0	0	0
167 SYR Syrian Arab Republic	2	0	0	0	0	0
168 TAN United Republic of Tanzania	4	0	0	0	0	0
169 TCN Turks and Caicos Islands	2	0	0	0	0	0
170 TGA Tonga	4	0	0	0	0	0
171 THA Thailand	8	1	0	12	4	0
172 TJK Tajikistan	2	0	0	0	0	0
173 TKM Turkmenistan	4	0	0	0	0	0
174 TLS Democratic Republic of Timor-Leste	2	0	0	0	0	0
175 TOG Togo	2	0	0	0	0	0
176 TPE Chinese Taipei	8	0	0	0	2	0
177 TTO Trinidad and Tobago	2	0	0	0	0	0
178 TUN Tunisia	1	0	0	0	0	0
179 TUR Türkiye	8	0	0	4	0	0
180 UAE United Arab Emirates	2	0	0	0	0	0
181 UGA Uganda	4	0	0	0	3	0
182 UKR Ukraine	5	7	0	11	2	1
183 URU Uruguay	4	0	0	2	1	0
184 USA United States of America	48	18	30	13	5	7
185 UZB Uzbekistan	0	0	0	4	4	0
186 VAN Vanuatu	2	0	0	0	0	0
187 VEN Venezuela	7	2	0	0	3	0
188 VIE Vietnam	10	0	0	0	0	0
189 VIN Saint Vincent and the Grenadines	4	0	0	0	0	0
190 YEM Yemen	2	0	0	0	0	0
191 ZAM Zambia	3	0	0	0	0	0
192 ZIM Zimbabwe	4	0	0	0	0	0
合計	1,097	263	466	340	179	43

Section2 AD

1 概要

AD (Accreditation)カードは組織委員会が大会参加者に交付する身分証明書であり、GMSに登録された個人の情報や顔写真のデータを利用して作成した。

事前にADカードを印刷の上、ADセンターにて交付した。

最終的に、合計15,064枚のADカードを発行して交付した。また、事前登録者以外にはデパス等を発行した。

2 ADカード発行数

カテゴリー	発行枚数(枚)
選手	2,361
国内連盟	1,627
メディア	1,571
世界水泳連盟	920
Future OC	55
大会運営職員	8,530
合計	15,064

Section3 出入国支援

1 概要

選手団の日本入国のため、入国の際に必要な手続きや、査証の取得方法などについて整理した「ビザ&入国ガイド」を作成しホームページに掲載。各国選手団などに周知を図った。

また、本ガイドに対する問い合わせ対応を実施した。



ADカード(表)



(裏)



3 ADセンターの運営

大会期間中に博多港国際ターミナルへADセンターを設置し、ADカード配付や紛失者への再発行対応などを行った。

場所	開設期間	時間
博多港国際ターミナル	2023年7月8日 ～8月11日	8:00～20:00



2 査証取得支援

GMSオープン前に、国(スポーツ庁、外務省)と協議し、査証取得について便宜を図ってもらえるよう依頼した。具体的には事前に入国者リストを作成・国に提出することで、人定作業を速やかに進め、査証発給までの時間を短縮した。

また、GMS登録情報をもとに、日本入国に査証の取得が必要な約120か国・地域(約1,400人)に対し、「インビテーションレター」を作成し送付した。

なお、本国でなく第三国における在外公館で査証申請する事例もあった。

Section4 宿泊

1 宿泊ホテルの確保

選手、大会関係者及びメディア関係者が快適に滞在し、競技会場・練習会場及びホテル間を円滑に移動できるよう、市内の主要ホテルを公式ホテルとして確保した。

また、大会に携わる国内審判員、国内競技役員及び運営スタッフ等の宿泊ホテルもあわせて確保した。

①選手ホテル

食事会場として対応可能なバンケットルームまたはレストランを保有する、競技会場・練習会場との交通アクセスが良好な市内12ホテルを選定した。

②世界水泳連盟ホテル

大会メインホテルの「グランドハイアット福岡」のほか、「ザ・ベシックス福岡」、「ザ ロイヤルパークホテル福岡」、「ホテルJALシティ福岡 天神」の市内4ホテルを選定した。

③メディアホテル

選手ホテルと区別して、市内3ホテルを選定した。

④上記以外のホテル

競技会場へ円滑に移動可能な市内10ホテルを選定した。

2 宿泊料金及び徴収

選手ホテル1泊3食付、選手ホテル以外1泊朝食付の宿泊料金をホテル毎に設定した。

精算については、予約時に総額の50%、残金を6月30日までの支払期限と設定した。

3 宿泊予約

選手団の宿泊予約は、2023年2月に世界水泳連盟より各連盟へ「宿泊ガイド」を提供し、6月13日を期限として、申込みの受付を行った。

また、6月14日以降の宿泊予約のキャンセルに対して、取消料(100%)を設定した。

①申込受付日 2023年2月15日

②一次締切日 2023年3月14日

③最終締切日 2023年6月13日

4 インフォメーション

大会関係者や選手団に対する大会情報、輸送サポート、宿泊ホテル周辺の案内情報を提供するため、7月6日から31日(一部8月1日)までの期間、選手ホテルと世界水泳連盟ホテルにインフォメーションデスクを設置した。

5 宿泊の状況

①食事

選手ホテルにおいては、競技・練習スケジュールを考慮し、各ホテルでの食事時間を調整のうえ、栄養バランスの取れた食事を提供した。

また、選手が自由に選べるビュッフェスタイルとし、ドーピング検査対応により食事が深夜になる選手については、別途対応した。

②宿泊規模

区分	延べ数	
	宿泊者数(人)	総宿泊数(室)
選手団	49,160	32,096
世界水泳連盟	7,466	7,466
メディア	8,195	8,195
国内審判員	570	570
国内競技役員	2,909	2,909
大会運営スタッフ等	1,542	1,542
計	69,842	52,778

6 宿泊ホテル位置図

①選手ホテル



③メディアホテル



②世界水泳連盟ホテル



④上記以外のホテル



Section5 輸送

1 輸送サービス

選手・大会関係者及びメディア関係者等が、それぞれのスケジュールに合わせて安全かつ円滑に移動できるよう、福岡空港、博多駅、競技会場、練習会場及び宿泊ホテル間のバス・専用自動車及びタクシーによる輸送サービス計画を策定した。

2 大会開催までの諸準備

選手・大会関係者及びメディア関係者等の安全かつ確実な輸送を確保するために、輸送関係事業者、警察、関係機関・団体と度々重なる協議を行った。また、輸送ルート及び乗降場所を設定し、事前に複数回の試走を行い、競技・練習日程に基づいたバスの運行ダイヤを作成した。

3 輸送業務の実施

①大会輸送本部の設置

メイン会場であるマリノメッセ福岡A館内に輸送本部を設置し、輸送業務の統括管理を行った。

②輸送デスクの設置

各競技会場・練習会場及び世界水泳連盟・選手ホテル、福岡空港(国内線・国際線)、博多駅に輸送デスクを設置し、利用者への案内や乗降サポート、車両の誘導や関連情報の案内を行った。

③選手団の輸送

水球は、チーム毎に個別バスを提供し、競技・練習スケジュールに合わせた輸送を実施した。

その他の競技については、競技・練習スケジュールやホテル毎の宿泊者数に応じて輸送ダイヤを作成し、バスを運行した。

④専用自動車での輸送

世界水泳連盟の会長等のVIPや、スタッフ、ゲスト等について、専用自動車を確認し、各種スケジュールに合わせて乗車希望のコミュニケーションを図り運行した。

⑤競技役員・審判員の輸送

各競技委員会委員については、各競技スケジュールに合わせてミニバス等専用自動車を運行した。

⑥メディア関係者の輸送

メディア関係者は、競技会場での乗降場所を含め選手団と区別し各競技スケジュールに合わせて、バスを運行した。

⑦福岡空港への送迎輸送

大会参加者の福岡空港到着・出発スケジュールに合わせて、随時、専用自動車・バス・タクシー等による輸送を実施した。

⑧運行実績

区分	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18
専用自動車	1	1	1	5	12	18	25	30	51	70	101	106	115	115	114	115	121
バス	0	0	0	0	1	26	40	99	149	174	187	212	265	241	246	269	249
合計	1	1	1	5	13	44	65	129	200	244	288	318	380	356	360	384	370

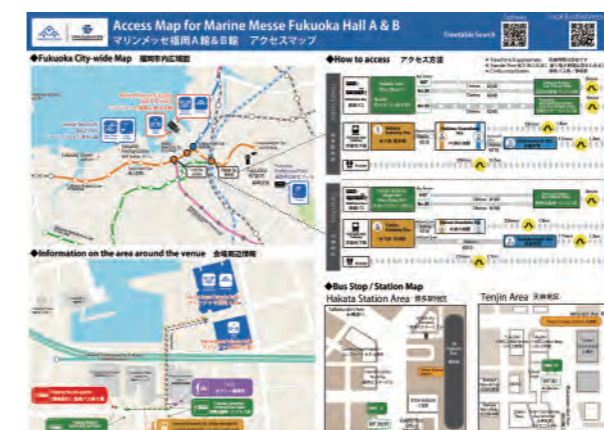
区分	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	合計
専用自動車	124	125	127	127	134	142	139	129	132	120	119	121	117	35	1	2,693
バス	334	349	297	293	245	203	214	204	202	197	198	202	65	3	0	5,164
合計	458	474	424	420	379	345	353	333	334	317	317	323	182	38	1	7,857



Section6 観客交通

1 公共交通機関の案内

各会場への公共交通アクセスについて、観客見込数や入退場のピーク時間をもとにシミュレーションした上で、観客へは、原則、公共交通機関による来場を案内することとした。都心部の博多駅や天神地区から各会場へのアクセスについて、公式HPや公式SNS、市政だよりなどで周知した。



「アクセスマップ(マリノメッセ福岡A館・B館)」



「福岡市政だより(7月1日号)」

2 臨時バスの運行(WF地区)

マリノメッセ福岡A館、マリノメッセ福岡B館で競泳・水球が開催されるWF地区へは、都心部から定員130人乗りのBRTバスが運行しているが、競技終了時間帯(夜間20時以降)は、便数が少なく、観客の交通手段が不足することが見込まれていたため、路線バス事業者の協力のもと、競技終了時間帯(夜間)での臨時バスを運行した。

・臨時バスの概要

- ①運行日：7月15日～7月30日(7月22日運休)
- ②乗車バス停：国際センター・サンパレス前
- ③行き先：博多駅バスターミナル(直行)
- ④基本運賃：(大人)240円/人
- ⑤バス運行台数：最大9台/日

3 タクシー乗降所(WFエリア)

会場周辺の福岡国際会議場タクシー乗降所を、大会用の特設タクシー乗降所として運用した。

福岡市タクシー協会を通じて加盟会社へ配車協力を依頼した。

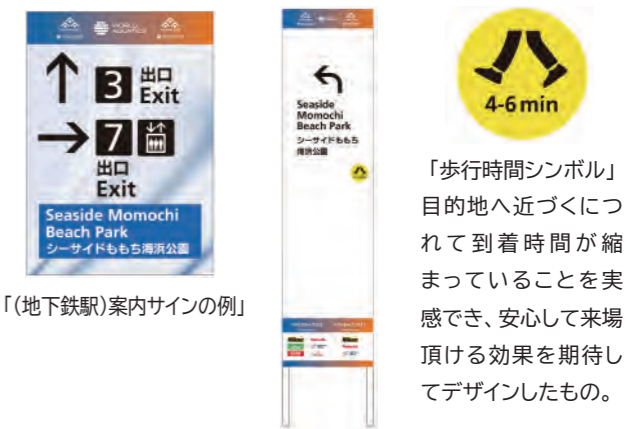
4 観客用駐車場(県立総合プール)

飛込会場の県立総合プールは、夜間の競技終了時間帯は路線バスの便数が少ないため、近辺にある「東平尾公園第一野球場」を借上げ、臨時駐車場(300台分)として開放した。

5 交通案内サイン

会場へスムーズに会場できるように、最寄りの地下鉄駅やバス停から会場までの歩行動線の主要ポイントに、大会ロゴやピクトグラム等を表記した案内サイン・看板を設置した。

サインの制作にあたっては、本大会のため九州大学が作成し提案のあったデザインを取り入れた。



「(地下鉄駅)案内サインの例」

「(歩行動線)案内サインの例」

→→→ Section7 通関

1 概要

選手団や大会関係者の物品の輸入のため、必要な通関手続きや、輸入規制品など注意すべき物品などについて整理した「通関フォワーディングガイド」を作成しホームページに掲載、各国選手団などに周知を図った。

また、本ガイドに対する問い合わせ対応を実施した。



2 物品輸入支援

GMSオープン前に、国(財務省、税関、厚労省など)と協議し、輸入規制品の項目や、再輸出免税の適用について整理した。

一部では、大会物品の輸入について、便宜を図ってもらえるよう協議した。具体的には再輸出免税を適用する場合、組織委員会が輸入者とならない貨物について、組織委員会が誓約書を出すことで担保の免除を認めてもらうなどの整理を行った。

→→→ Section8 開閉会式

1 開会式

競技会場となるマリンメッセから近く施設設備が整っているボートレース福岡において、大会初日のアーティストィックスイミング及び飛込の競技終了後に実施した。

ボートレース場屋内イベントホールにおいて、ホールの空間全体を使ったプロジェクションマッピングの中で主催者挨拶や開会宣言があり、開会式前には、屋外の芝生広場において、トークショー等の催し物や水上でのウォーターアトラクションを行った。

参加者については、選手を始め、世界水泳連盟理事、国・県・市議会議員、協賛社やメディア等を招待。観客はチケットを購入し観覧した。

・日 時：2023年7月14日(金) 20:05 ~

・会 場：ボートレース福岡

・来場者：1,197人

式次第

- ①福岡大会組織委員会会長挨拶
- ②福岡市長挨拶
- ③世界水泳連盟会長挨拶
- ④参加国紹介
- ⑤国家斉唱(国旗掲揚)
- ⑥開会宣言(秋篠宮皇嗣殿下)
- ⑦開催都市紹介
- ⑧アフターツアー





福岡大会組織委員会会長挨拶



福岡市長挨拶



世界水泳連盟会長挨拶

2 秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席 (開会宣言・競技ご覧)

秋篠宮皇嗣同妃両殿下が開会式にご臨席になり、秋篠宮皇嗣殿下により開会宣言がなされた。

また、翌日15日(土)には、マリンメッセ福岡A館において行われたアーティスティックスイミング競技をご覧になりました。

【競技ご覧】

- アーティスティックスイミング
- アクロバティックルーティン女子予選



秋篠宮皇嗣殿下による開会宣言



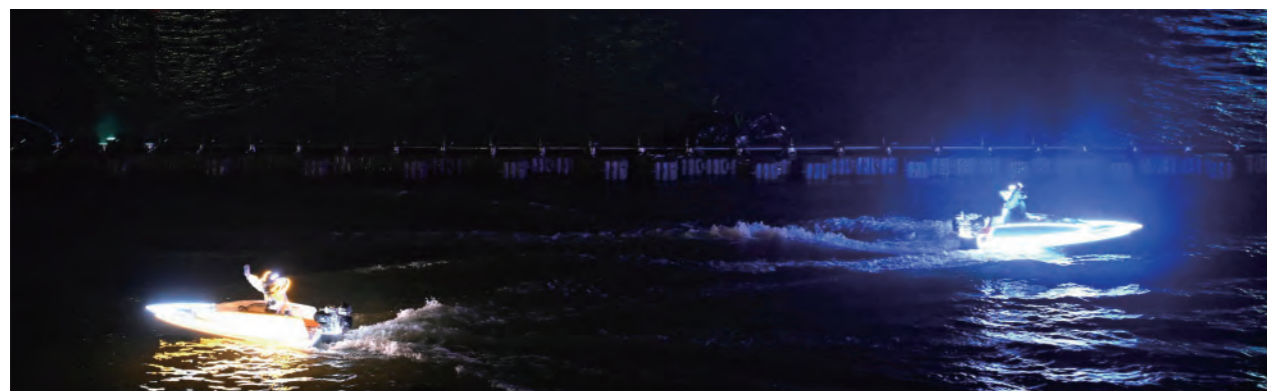
参加国紹介



開催都市紹介



競技ご覧の様子



LEDで装飾したボートと選手による演出



ウォーターアトラクション



式典終了後のアフターツアー

3 ハンドオーバーセレモニー(閉会式)

<概要>

大会の閉会にあたり、次回開催国へ世界水泳連盟旗を渡すハンドオーバーセレモニーとして、観客が多数着席している時間帯である大会最終日の競泳決勝競技前に式典を実施した。

- ・日 時：2023年7月30日(日) 19:30～
- ・会 場：マリンメッセ福岡A館

式次第

- ・大会ダイジェスト映像の放映
- ・福岡大会組織委員会会長挨拶
- ・福岡市長挨拶
- ・世界水泳連盟会長挨拶
- ・世界水泳連盟フラッグハンドオーバー
- ・ドーハ大会組織委員会副会長挨拶



福岡大会からドーハ大会へ
世界水泳連盟フラッグのハンドオーバー



→→→ Section9 競技

「選手と、水泳に関わる全ての人にとって、福岡は故郷のような特別な場所となりました。この街の美しさ、行く先々で受けたあたたかいおもてなしを私は忘れることはないでしょう。しかし福岡での体験で何よりも忘れ難いのは、選手たちのすばらしいパフォーマンスです。」と世界水泳連盟会長は語った。

世界水泳選手権2023福岡大会は191か国から2,361人の選手が参加した。

競技運営のため、水泳競技部長及び各種別の部長が任命され、各競技会場の運営に必要な競技運営、備品の手配、競技手順など、実際の競技会に向けて準備をした。

大会の競技役員と競技運営スタッフは、合計922名に達した。組織委員会は、世界水泳連盟との協議を踏まえて各種目の練習会場、練習日程やスタッフの配置について調整をした。テクニカルオフィシャルおよび競技会場の各所に配置された競技運営スタッフが、選手権の成功に貢献した。

また、競技備品の調達も運営上の重要なポイントであった。そのため、組織委員会は各競技会場に必要な競技備品を明確にするため、日本水泳連盟や世界水泳連盟との協議を行った上、競技備品を調達した。

世界水泳連盟、日本水泳連盟、福岡市、組織委員会は、選手権大会の成功という共通の目標のために計画的に準備を進めた。

1 競技概要

①スケジュール

- ・過去の競技スケジュールを踏まえ、関係者（世界水泳連盟、ホストブロードキャスト）との協議を行い、競技スケジュールが決定された。
- ・大会の再延期以降、関係者との協議を継続し、2023年1月13日に世界水泳連盟の承認を得た。
- ・2023年1月17日に世界水泳連盟のホームページに公開された。

〈付録：P207参照〉

②競技への参加登録

登録期間 2023年2月15日～7月3日

<事前エントリー>

締切：2023年3月14日

内容：各国の参加予定人数を登録

－ 197か国・地域から 3,159人が登録

<エントリー>

締切：2023年6月13日

内容：参加者の情報を登録

－ 193か国・地域から 2,513人が登録

<スポーツエントリー>

締切：2023年6月27日

2023年7月3日（水球のみ）

内容：選手が参加する競技へ登録

－ 191か国・地域から 2,361人が登録

（6種別 75種目 2,388人）

③競技手順の確立

・競技運営体制の確立のため、水泳競技部長及び各種別の部長が任命された。各種目に定例会を開催し、必要となる競技備品や競技手順について協議を重ねた。また、世界水泳連盟とも定期的に協議を行い競技手順の確立に務めた。

競技手順等をまとめたチームリーダーズガイドを2023年6月に発出した。

・組織委員会はオペレーションテストを通して、競技手順を確認し競技運営スタッフの適応性を向上させた。

④国際大会への視察とオペレーションテスト等

・組織委員会は、世界水泳連盟が主催する国際大会への視察を通して、大会運営方法について知見を深めた。

・選手権の公式トレーニング開始前に各種別のオペレーションテストを実施した。世界水泳連盟が立ち合い、競技手順の確認を行った。また、選手権の公式トレーニング期間中に各種別のドレスリハーサルを実施した。

⑤チームリーダーズミーティング

・各チームに競技手順やルール等を説明するチームリーダーズミーティングが種別ごとに開催された。

・競技開始前日に世界水泳連盟主催で実施され、各種別の部長も同席した。

⑥競技の運営体制

・競技運営体制の確立のため、水泳競技部長及び各種別の部長が任命された。

・競技役員（国際および国内）は世界水泳連盟により任命され、競技運営が実施された。

・競技の円滑な運営を促進するため、日本水泳連盟が種別経験を有する計486名の競技運営スタッフを集め、配置した。なお、競技役員（国内）及び競技運営スタッフの人件費・宿泊費は組織委員会が負担した。

競技役員(名)

種目	競泳	飛込	水球	アーティスティック スイミング	オープンウォーター スイミング	ハイダイビング
合計	195	35	57	34	20	16
ITO (国際)	133	27	29	30	10	10
NTO (国内)	62	8	28	4	10	6

競技運営スタッフ(名)

合計	競泳	飛込	水球	アーティスティック スイミング	オープンウォーター スイミング	ハイダイビング
486	132	88	124	54	63	25



2 競技運営

■ 競技運営体制と運用

・競技会の運営のために、競技運営体制の構築、人員配置、備品調達がされた。

・競技会の運営スタッフを徹底的にサポートし、競技以外の分野（輸送、医療など）との体系的な連携を図った。

・運営の知識、専門知識、効率性は、日本水泳連盟が競技運営を担うことで強化された。

①競泳

<概要>

期間：2023年7月23日～7月30日（8日間）

会場：マリンメッセ福岡 A 館

選手数：189か国 1,097人

種目数：42



競泳種目

Event	No. of events	Men	Women	Mixed
Free style	12	50m, 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m	50m, 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m	
Breaststroke	6	50m, 100m, 200m	50m, 100m, 200m	
Backstroke	6	50m, 100m, 200m	50m, 100m, 200m	
Butterfly	6	50m, 100m, 200m	50m, 100m, 200m	
Individual medley	4	200m, 400m	200m, 400m	
Relay	5	4×100m, 4×200m	4×100m, 4×200m	4×100m
Medley relay	3	4×100m	4×100m	4×100m

・競泳では、10もの世界新記録が打ち立てられた。その中のひとつ、フランスのレオン・マルシャン選手は男子400m個人メドレーで、それまで米国のマイケル・フェルプス選手が5,110日という、競泳史上最も長い時間保持していた記録を更新した。

・オーストラリアのモリー・オキャラハン選手は5種目で金メダルを獲得したが、その内女子200m自由形とリレー 3種目で計4つの世界記録を樹立した。

・米国のケイティ・レデッキー選手は、個人種目で自身15個目と16個目となる金メダルを獲得。前述のフェルプス選手を抜いて世界選手権個人金メダル最多記録を更新した。個人メダル獲得数では、スウェーデンのサラ・ショーstrom選手が20個目と21個目のメダルを獲得し、フェルプスが伝説ともいえる競技人生で打ち立てた20個を超えた。

・福岡ではさらに38の大陸記録、14の大会記録、そして4つの世界ジュニア記録が樹立され、競泳界はかつてないほどの層の厚さとパフォーマンスを見せた。

②飛込

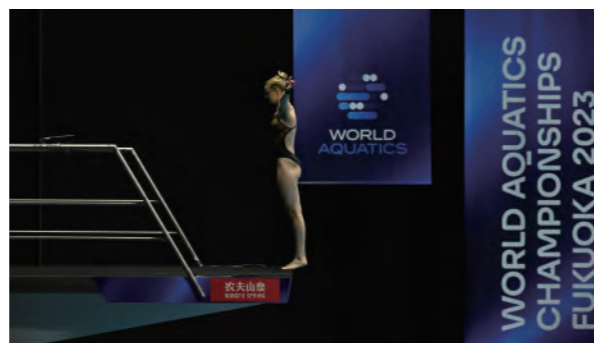
<概要>

期 間：2023年7月14日～7月22日(9日間)

会 場：福岡県立総合プール

選手数：50か国263人

種目数：13



飛込種目

Men (5)	Women (5)	Mixed (3)
1m Springboard 3m Springboard 3m Synchronized 10m Synchronized 10m Platform	1m Springboard 3m Springboard 3m Synchronized 10m Synchronized 10m Platform	3m Synchronized 10m Synchronized Team Event (men+women) 3m + 10m Platform

・飛込では、中国勢がほぼすべての種目で金メダルを獲得し、飛込大国の地位を不動のものとした。しかし男子10m高飛込では、オーストラリア・ブリスベン出身の元体操選手カシエル・ルソー選手が優勝し、世界大会同種目での中国の6年にわたる連勝記録にストップをかけた。

・東京2020オリンピックのメダリスト9人を含む50か国の飛込選手が、8日間の大会で3,400本以上の演技を行った。

③水球

<概要>

期 間：2023年7月16日～7月29日(14日間)

会 場：マリンメッセ福岡B館

選手数：19か国466人

種目数：2



Group	Women	Men
Group A	CHN FRA USA AUS	USA AUS KAZ GRE
Group B	ESP ISR NED KAZ	CHN FRA CAN ITA
Group C	ARG GRE ITA RSA	CRO HUN ARZ JPN
Group D	CAN NZL HUN JPN	RSA SRB MNE ESP

・女子の水球決勝では、オランダがスペインに17対16でスリリングなペナルティシュートアウト戦で勝利し、女子水球世界選手権で2度目の栄冠を手にした。3位決定戦は16対14でイタリアがオーストラリアを下し、銅メダルを獲得した。5位決定戦はアメリカ合衆国がペナルティシュートアウト戦の末、ハンガリーを下し5位となった。カナダはギリシャにペナルティシュートアウト戦で勝利し7位となった。

最優秀選手賞はスペインのエレナ・ルイス選手が受賞した。最優秀ゴールキーパー賞はオランダのローラ・アーツ選手が受賞した。

・男子の水球決勝では、ハンガリーが息が詰まるようなペナルティシュートアウト戦の末にギリシャを14対13で破り、4度目の世界一を獲得した。3位決定戦は9対6でスペインがセルビアを下し、銅メダルを獲得した。5位決定戦はイタリアがフランスを16対9で破り5位となった。アメリカ合衆国はペナルティシュートアウト戦でモンテネグロを下し7位となった。最優秀選手賞はハンガリーのジェルゴ・ザランキ選手が受賞した。最優秀ゴールキーパー賞はギリシャのエマヌイル・ゼルデビス選手が受賞した。

④アーティスティックスイミング

<概要>

期 間：2023年7月14日～7月22日(9日間)

会 場：マリンメッセ福岡A館

選手数：52か国340人

種目数：11



	No.of events	Women	Men	Mixed	Open
Solo	4	Technical & Free	Technical & Free		
Duet	4	Technical & Free		Technical & Free	
Team	2				Technical & Free
Acrobatic Routine	1				Acrobatic Routine

・アーティスティックスイミングでは、日本が1週間を通して最多得点を獲得し、総合優勝に輝いた。特に乾友紀子選手は、女子ソロフリーとテクニカルそれぞれで優勝し、昨年のハンガリー大会に続きソロ種目で2冠を達成した。

・乾選手は「地元・滋賀県からもたくさんの方が応援に来てくれて、とてもうれしい。応援してくれている皆さんに明るいニュースを届けることができよかったです。」とコメントした。

⑤オープンウォータースイミング

<概要>

期 間：2023年7月15日～7月20日(6日間)

会 場：シーサイドももち海浜公園

選手数：53か国179名

種目数：5



Men(2)	Women(2)	Mixed(1)
5km,10km	5km,10km	Team(men+women)6km

・福岡のシーサイドももち海浜公園で開催されたオープンウォータースイミングの男女5kmと10kmではドイツのフロリアン・ウェルブロック選手とレオニー・ベック選手がそれぞれ優勝し、圧倒的な強さを見せつけた。ドイツが個人種目で4冠を達成した。

・一方、最終種目の混合4×1,500mリレーではオリンピックと世界選手権チャンピオンのグレゴリオ・パルトリニエリ選手がアンカーを務めたイタリアが金メダルに輝いた。

⑥ハイダイビング

<概要>

期 間：2023年7月25日～7月27日(3日間)

会 場：シーサイドももち海浜公園

選手数：19か国43人

種目数：2



・高さ27mのタワーから飛び込む男子ハイダイビングでは、ルーマニアのコンスタンチン・ポポビッチ選手が初日のリードを守り、優勝を飾った。

・一方、20mの高さから競う女子ハイダイビングではオーストラリアのリアナン・イフランド選手が3連覇し、女子ハイダイビング界でトップクラスであることを証明した。

3 情報共有アプリ(Sportity)

(1)選手及び関係者への情報発信について

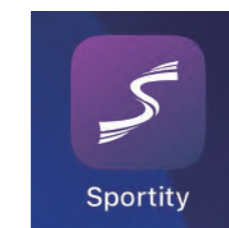
・大会に参加するアスリートやコーチなどの関係者に向けた競技スケジュールやスタートリスト、会場図面など必要となる情報の共有に関して世界水泳連盟と協議をした結果、アプリ(Sportity)を使用した情報提供を行うこととなった。

(2)アプリによる情報発信について

・世界水泳連盟は、これまでの大会では、共有サーバーを使用し情報共有を実施していたとのものであったが、福岡大会において初めてアプリを使用し、選手・関係者への情報発信を行った。

アプリを使用することで、情報がアップデートされた際に、各自所有するスマートフォン等に通知される設定にできるため、情報共有の漏れが少なく大会期間中を通して、必要な情報を逐次アップデートすることによりスムーズな大会運営に大きく寄与した。

大会期間中は、通常混在することが多いスポーツインフォメーションにおいては、アプリを使用したことで情報が各自確認できたこともあり、大きな混雑がなかった。また、これまでインフォメーションにおいて掲示だけでなく配布をしていた紙ベースの資料を大幅に削減することにつながった。



4 競技備品

①競技備品の調達・管理

- ・世界水泳連盟と協議の上、大会運営に必要な競技備品を調達した。
- ・大会期間中は、競技備品の保守管理を行った。

調達備品

種目	備品名称
競泳	レーンロープ、周回板、かご等
飛込	スプリングボード、審判台、ドライランド等
水球	フィールドロープ、ゴール、ボール等
アーティスティックスイミング	プラットフォーム、音響機材、iPad等
オープンウォータースイミング	ブイ、船舶、ゴールレーンロープ等
ハイダイビング	ドライランド等

世界水泳連盟サプライヤー

サプライヤー	VIK
DURAFLEX	スプリングボード1枚
MALMSTEN	全て購入のため、VIKなし
MIKASA	男子用ボール220個、女子用ボール150個

→→→ Section10 その他競技関係

アスリートがパフォーマンスに集中できる環境づくりと、競技会場を訪れる観客に感動とエンターテインメントを提供することに重点を置いた。

スポーツインフォメーションデスク(SID)では、各種目の競技情報を提供した。インフォメーションデスクでは、各種目のスタートリストやリザルトリスト(OMEGAから提供)等を掲示した。また、アプリ「Sportity」を活用し、選手・チーム関係者への迅速な情報提供に努めた。

また、メダルセレモニーにおいて金・銀・銅メダルを授与した。組織委員会は、選手権の特徴を象徴するメダルのデザインを公募し、2021年12月に世界水泳連盟の承認を得た。

メダルセレモニーは、大会期間中に合計76回行われた。スポーツプレゼンテーションでは、TOKYO2020後のフル観客となる世界選手権として、コロナ渦で我慢を強いられてきた「日常」を過ごしてきたからこそ、華やかでワクワクするような「非日常」空間を創り出した。

選手の躍動感を、観客の歓喜を、そして、スポーツが持つ活力を日本らしい、福岡らしいプレゼンテーションで、発信した。極限まで集中した無音の世界、水面が綺麗な凧の状態から一気にパワーを爆発させて飛び込んだ時に飛び散る飛沫、歓声。そんな世界観を一貫したテーマとして、映像、音楽における表現の軸とした。

1 スポーツインフォメーションセンター

①概要

- ・期間：2023年7月9日～7月30日
- ・会場：各競技会場
- ・目的は、世界各国からの代表者及び関係者に、迅速かつ正確に情報を提供することである。各競技のスタートリスト、リザルトリスト等、競技に関する情報を提供した。

②主な活動内容

- ・スタートリスト、リザルトリスト等、競技に関する情報をリアルタイムで提供するインフォメーションデスクが運営された。
- ・また、リレー種目参加選手等への金・銀・銅メダルが配布された。

2 記念メダル

<選手及びチーム関係者への記念メダル>

- ・世界水泳連盟の承認を得て製作し、ADセンターにて選手及びチーム関係者へ交付した。
- ・SDGsに配慮し、ペットボトルキャップ(廃プラスチック)を使用して、製作された。



3 メダルセレモニー

①内容

- ・期間：2023年7月15日～7月30日(全75回)
- ・会場：各競技会場(マリンメッセ福岡A館、マリンメッセ福岡B館、福岡県立総合プール、シーサイドももち海浜公園)
- ・手順：
 - 入場(ベアラー、アスリートサポート、プレゼンターエスコート、プレゼンターの順)→表彰プレゼンターの紹介→メダリストの紹介、入場(3位、2位、1位の順)→メダルとぬいぐるみの授与→1位の国歌斉唱、1位、2位、3位の国旗掲揚→写真撮影→退場
- ・プレゼンター：
 - 世界水泳連盟58名、組織委員会31名
 - 世界水泳連盟及び組織委員会が大会関係者やスポンサーなどそれぞれの候補者から個人種目は1名、団体種目は3名のプレゼンターを選定して依頼(巻末付録にプレゼンター一覧を掲載)



②メダル

<デザイン決定>

- 2021年 8月：メダルデザインを公募
- 2021年10月：メダルデザイン評価委員会を設置
- 2021年11月：事務局審査・評価委員会での最終審査を経て、デザイン(案)決定。世界水泳連盟へデザイン(案)を提出。

<デザインコンセプト>：世界に広がる水の輝き

- ・水泳競技におけるアスリートたちの勇気や感動などの輝く想いが地域から世界に広がっていく様子をイメージし、表面は水面が輝く「コースティクス」という現象に「九州の形」を組み合わせたメダルを設計した。デザインの光の輪の重なりにより水泳競技の「明るい未来」と「人々とのつながり」の意味を込めた。
- ・裏面は大会エンブレムをベースに、アスリートや大会、地域の「進化」を表す「上昇する波」を表現した。
- ・サイズ：直径75mm、厚さ6mm
- ・素材：亜鉛ダイキャスト
- ・製造数：215セット(金・銀・銅メダル)を製作した。5セットは世界水泳連盟、20セットはスポンサーへ提供した。

〔表面〕



〔裏面〕



デザイン：小林大介氏

<メダルリボン>

- ・福岡市ゆかりの伝統的工芸品である博多織で作成された。大会のイメージカラーであるブルーで献上柄を織り込んでおり、水をイメージしたライトブルーの縞がアクセントになっている。大会名やロゴは白で織り込んでいる。また、メダリストがメダルを掲げた時にちらりと見える裏面も表面と同じイメージで仕上げた、両面博多織仕様のデザインである。

〈表〉



〈裏〉



③表彰ボランティア衣装

- ・市内のファッション専門学校3校でデザインを募集し、審査を行い、各校1点ずつデザインを採用した。

<デザイン決定プロセス>

- 2021年 8月：メダルベアラー衣装デザインを募集
- 2021年12月：評価委員会でデザイン(案)決定。
- 2023年 2月：世界水泳連盟にデザイン及び対応種別の承認を得る。
- ・メダルベアラー衣装デザイン評価委員会：表彰式運営、競技運営の専門家など3名で構成。



1. 飛込、競泳

【香蘭ファッションデザイン専門学校】

- ・グラデーションで深い水中から光さす水面を表現
- ・世界水泳のロゴを強調することで、福岡大会らしさをアピール



2. アーティスティックスイミング、水球

【九州デザイナー学院】

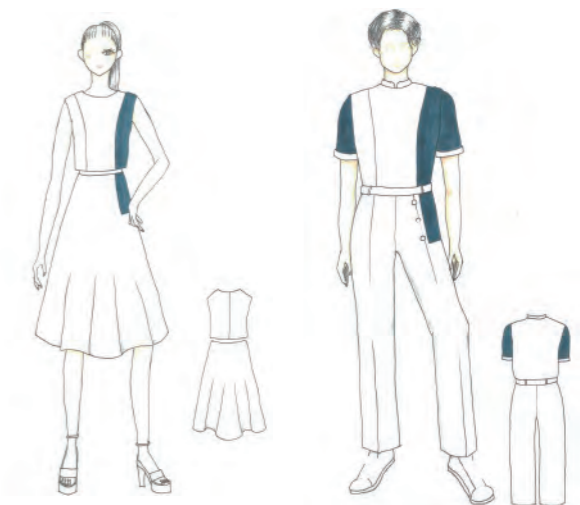
- ・男女兼用で七宝柄を使用
- ・上から下に流れる様に差し色に無地の水色を入れることで水を表現



3. オープンウォータースイミング、ハイダイビング

【大村美容ファッション専門学校】

- ・マリニテイストをイメージ
- ・清潔感を意識し、白を基調としたうえで、ポイントでネイビーの切り替えを入れることでデザイン性を持たせた



④チーム・個人トロフィー

- ・世界水泳連盟により選出された、チームや個人のアスリートにトロフィーが授与された。トロフィーは、世界水泳連盟及びそのパートナーの協賛により製作された。
- ・トロフィーは、福岡らしさが感じられるユニークなものになるように、日本伝統の縁起物である水引(和紙で出来た紙紐)を用いた「博多水引」で制作された。

【個人】



【団体】



⑤ディプロマ・トロフィー

<ディプロマ>

- ・世界水泳連盟の承認を得て製作し、大会終了後に各種目の上位入賞者に対して電子データを贈呈した。ディプロマは選手名、種目名、競技結果、国名、日付から構成される。



⑥表彰台

- ・表彰台は世界水泳連盟の承認を得て製作された。



4 スポーツプレゼンテーション

①概要

- ・期間：2023年7月14日～7月30日
- ・フル観客となる世界選手権で、コロナ禍で我慢を強いられてきた「日常」を過ごしてきたからこそ、華やかでワクワクするような「非日常」空間を創り出した。選手の躍動感を、観客の歓喜を、そして、スポーツが持つ活力を日本らしい、福岡らしいプレゼンテーションで発信した。極限まで集中した無音の世界、水面が綺麗な凧の状態から一気にパワーを爆発させて飛び込んだ時に飛び散る飛沫、歓声。そんな世界観を一貫したテーマとして、映像、音楽における表現の軸として実施。

②スポーツプレゼンテーションの特徴

- ・入場ゲート及びフラッシュインタビューのバックボード等に、福岡市産の間伐材を使用。木材を用いた日本らしいデザインにするとともに、SDGsにも配慮した。
- ・競泳、水球、アーティスティックスイミング、オープンウォータースイミングでは、選手のヘッドショットを用いて入場演出を行った。競泳は決勝のみでヘッドショットを使用する等演出にメリハリをつけた。
- ・各会場にDJを配置し、その場に合わせた選曲を行い、会場を盛り上げた。
- ・入場には、日本独自の文化を取り入れた曲を用いた。競泳の決勝の際は、入場曲に合わせて太鼓による演奏を実施。
- ・A館及びB館の競技の合間の時間に、地元の学生を中心としたグループによる盛り上げ演出を行った。演目としては、太鼓、琴、チアリーディング等。



メダルセレモニー等準備物一覧

No.	名称	備考	製作数
1	メダル	金・銀・銅メダル 直径75mm、厚さ6mm	215セット
2	ディプロマ	上位入賞者へ電子データを贈呈	電子データ
3	マスコット人形	シーライ	720個
4	表彰ボランティア衣装	市内のファッション専門学校3校からデザインを募集し、各校1点ずつデザイン採用	各30着
5	トロフィー	本体：日本らしくユニークなものとなるよう、日本伝統の縁起物である水引(和紙で出来た紙紐)を用いた 製作台座：木製	14個 (チーム用6個) (個人用8個)
6	記念メダル	選手、チーム関係者等へ配布	5,000個

Section11 医療サービス

1 概要

医療サービスの分野では、組織委員会は各競技会場内に医務室を設置し、選手等の大会関係者へ一次医療サービスを提供した。

また、福岡市内の医療機関と連携し、救急医療体制を構築するとともに、医務室での治療後、必要に応じて、さらなる検査や診断、治療ができる体制を確保した。

さらに、選手等への医療相談の窓口として、多言語対応の24時間医療サービスコールセンターを設け、医療相談受付メールアドレスも設定した。

競技会場内医務室が閉鎖する夜間については、選手が宿泊するホテルへの往診サービスとして夜間オンコール体制を構築した。

2 一次医療体制

各競技会場では、医務室とFOPに医療従事者及び支援スタッフを配置し、公式練習または競技開始30分前から終了1時間後まで運営に従事した。

また、各競技会場医務室においては、一次医療の提供に加え、各国チームドクターがその役割を十分に果たせるよう、ベッドの貸し出しや助言等も行った。

水球については、歯科医師を配置し、オープンウォータースイミングについては、熱中症対策として、アイスバスを2台準備した。

なお、医師については、2021年の東京オリンピックの医療業務に従事した経験豊富な医師を中心に配置し、万全を期した。

その他、全会場において、ライフガード・ライフセーバーと連携して負傷者の引き上げから搬送までの訓練を繰り返し実施するとともに、スムーズな救急搬送が可能となるよう救急隊等の関係者と搬送経路の事前確認や施設呼称の統一等を実施した。

3 二次医療体制

福岡市内8医療機関(指定医療機関)の協力のもと、救急対応のほか、各競技会場医務室での治療後、さらなる検査や診断等を実施できる体制を確保した。

大会期間中、各競技会場医務室からの紹介と医療サービスコールセンター対応分を含め、計29人が指定医療機関を受診した。

【指定医療機関】

- ・九州大学病院
- ・福岡大学病院
- ・国立病院機構九州医療センター
- ・済生会福岡総合病院
- ・福岡赤十字病院
- ・原三信病院
- ・福岡市民病院
- ・福岡歯科大学医科歯科総合病院

4 時間外の対応

選手等からの医療相談について、多言語対応による電話通訳を行うことで適切な医療サービスを提供できるよう、24時間医療サービスコールセンターを開設した。

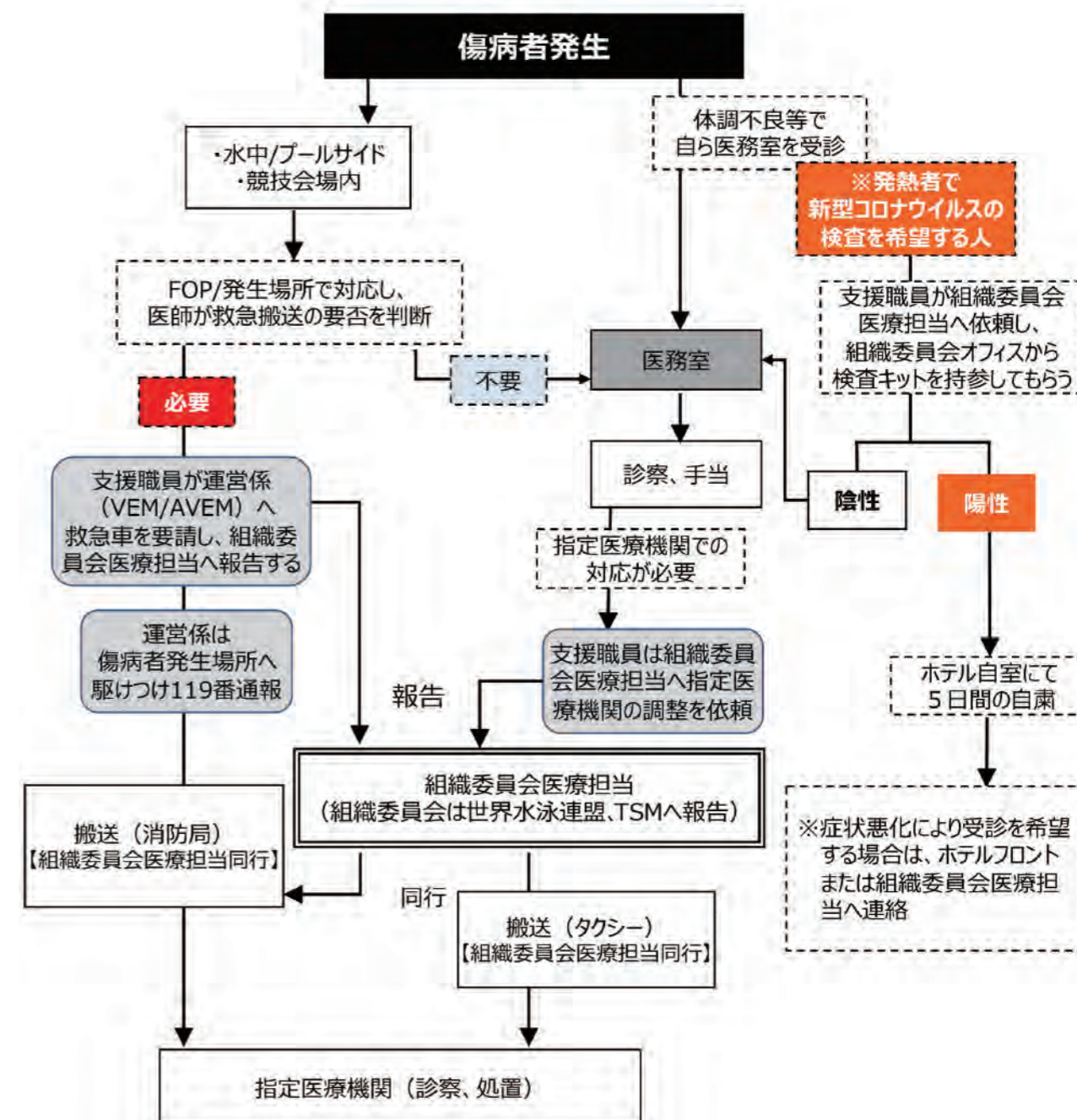
医療相談のうち、医師により往診が必要と判断された場合には、選手等が宿泊するホテルへ医師と組織委員会医療担当者等が往診する夜間オンコール体制(20:00から翌7:00まで)を確保した。

5 新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、2023年5月8日から「5類」に引き下げられたことから、本大会では組織委員会による検査及び競技会場医務室での治療は行わないこととした。

発熱等の症状がある場合は、無料の検査キットを各競技会場医務室及び宿泊ホテルで配布し、自身で検査のうえ、陽性の場合、5日間の外出自粛と競技への参加自粛を要請した。

競技会場における医療救護の流れ



各競技会場要員配置数

		マリンメッセ 福岡A館	マリンメッセ 福岡B館	福岡県立 総合プール	シーサイド ももち海浜公園
医療従事者	医師	3名	3名	3名	5名
	歯科医師	-	1名	-	-
	看護師	3名	2名	2名	4名
その他 スタッフ	組織委員会 医療担当	1名	1名	1名	1名
	市職員	1名	1名	1名	1名
	語学ボランティア	1名	1名	1名	1名

医療対応件数(会場別)

マリンメッセ 福岡A館	マリンメッセ 福岡B館	福岡県立 総合プール	シーサイド ももち海浜公園	その他 (ホテル等)	計
212件(※1)	42件	79件	47件(※2)	9件	389件
(うち救急搬送) 0件	(うち救急搬送) 0件	(うち救急搬送) 0件	(うち救急搬送) 0件	(うち救急搬送) 2件	(うち救急搬送) 2件

※1 競泳(142件)、アーティスティックスイミング(70件)

※2 オープンウォータースイミング(27件)、ハイダイビング(20件)

医療対応件数(対象者・病態別)

	外傷	疾病	歯科	その他	計
選手	109件	81件	2件	29件	221件
競技役員	30件	34件	2件	9件	75件
チームスタッフ	11件	20件	2件	9件	42件
世界水泳連盟スタッフ	3件	8件	1件	1件	13件
その他	22件	13件	0件	3件	38件
計	175件	156件	7件	51件	389件

<その他の医療サービス>

医療サービスコールセンター	5件(受電数)
医療相談メール	4件
ホテル往診	3件
診断書発行	14件
処方箋発行	7件



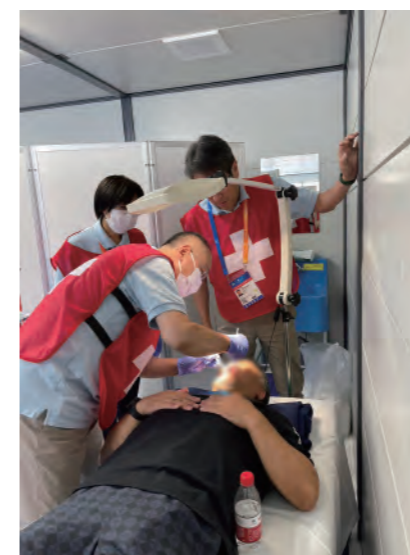
医務室入口(A館)



医薬品と簡易ベッド(A館)



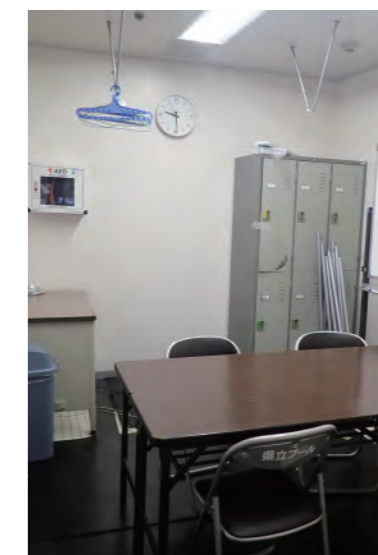
仕切り付きベッド(県立プール)



診療のようす(歯科・B館)



FOP※医務室(B館)



感染症対策別室(県立プール)



FOP※医務室(シーサイドももち)

※FOP(Field of Play)・・・競技エリア



アイスバス(シーサイドももち)

→→ Section12 ドーピングコントロール

公正な競技環境と選手の健康を守るため、徹底したドーピング検査が行われた。大会期間中はドーピング検査、教育活動のアンチドーピング・プログラムを展開した。大会期間中、672名の選手から合計993検体を採取し、国際的な基準や手順に基づいて厳格なドーピング検査を実施した。国際的な基準や手続きに従ってドーピング・コントロールが行われた。

1) ドーピング検査機関の運営

- ・期間：2023年7月15日～7月30日
- ・場所：各競技会場のドーピングコントロール室
- ・運用内容：
 - ドーピング検査室の設置、スタートリストや結果速報の手配、ドーピング検査状況管理、各競技会場へのドーピング検査員・資材の配置、採取した検体の輸送、検査後の選手の輸送、緊急事態への対応など
- ・人員：
 - 組織委員会：2名
 - ドーピング検査員：65名
(JADA:6名、DCO/BCO:59名)
 - シャペロン：延べ560名

2) ドーピング検査の実施

- ・選手の検体採取を担当するDCO/BCOは日本アンチ・ドーピング機構(JADA)から派遣され、採取した検体の分析は株式会社LSIメディエンスLSIMで実施された。

- ・検査実施数：672名、993検体
(尿：678検体、血液：315検体)
- ・*分析実施数：672名
- ・*993検体に対して分析を実施
- ・*国内・地域記録を達成した6名のアスリートに対し、6回の追加検査を実施。

- ・検査手順：検査対象選手の選定(世界水泳連盟/ITA)→選手への通告及び検査室への同行(シャペロン)→検体採取(血液、尿)(JADAによるサポート)→検体搬送(1日2回)→検体の分析(LSIM)→結果報告(世界水泳連盟/ITA)
- ・検体の輸送：採取された検体は、専門業者により輸送。
- ・1日2回輸送
- ・世界水泳連盟が事前に指定した期限内に分析結果を報告。

3) クリーンスポーツの教育の推進

- ・公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が世界水泳連盟と協働しクリーンスポーツ教育を展開しました。
- ・世界水泳連盟が掲げる #unitedbywater のコンセプトのもと、世界から集まったアスリートとサポートスタッフ等が本競技会の会期中のみならず継続的にクリーンスポーツの意義を考え、スポーツのより良い環境に自ら働きかけられるようなきっかけとなる教育アクティビティを実施しました。

【JADAプレスリリース】

<https://www.playtruejapan.org/topics/2023/000655.html>



→→ Section13 セキュリティ

1 概要

選手・役員、大会関係者及び観客の安全と施設の維持並びに秩序を確保し、大会の円滑な運営を図るため、委託警備員、支援職員、ボランティアによる自主警備を行った。

また県警にも協力を依頼し、競技会場や市内の巡回警備を実施した。



2 大会警備の実施

- ・期 間：2023年7月9日～7月30日
- ・警備員数：延べ4,451人

競技会場の入場ゲートでは、関係者・観客を対象に手荷物検査を行い危険物の持ち込みを制限した。一部のゲートでは防犯カメラを設置し、不審者の侵入対策を行った。

大会関係者はADカードを確認することで、競技会場内においても行動エリアの制限を行い、選手の安全確保を図るとともに、VIPエリアなどの秩序を確保した。

県警や海上保安部の協力もあり、期間中はマリニメッセ福岡A館に警備本部を設置し、すべての情報を集約、組織委員会本部と密接に連携することで、安全・安心な大会を実現した。

持込禁止物一覧(観客用)

1	鉄砲刀剣類
2	凶器となり得る恐れのあるもの
3	火薬類
4	毒物・薬物・その他有害物質
5	食品 ※個人消費目的のものは可
6	飲料 ※個人消費目的のものは可
7	可燃性物質
8	ガスボンベ
9	動物
10	医薬品
11	日焼け止めをはじめとするクリーム・ローション類
12	エアゾルスプレー(殺虫剤等)
13	容器類
14	無線機器
15	参加していない国の国旗
16	政治的、宗教的、低俗的な図形・商標等
17	無許可のチラシ・パンフレット・プロモーション素材
18	大きな手荷物
19	全長30cm以上のカメラレンズ
20	放送機器・ストロボ
21	三脚等
22	ベビーカー
23	大会運営又は競技進行の妨げになるもの

3 危機対応体制

組織委員会は、安心・安全な大会を開催するため、台風・地震・群衆事故・テロ事件などの危機的状況が発生した場合の対応計画を策定した。

危機的状況に対しては、警察や福岡市消防局・防災部署と連携する計画とした。

問題解決までに長い時間を要するような危機的状況においては、組織委員会内の必要な役職者を集め、特別なチームを組む体制とした。

また、2023年6月24日に福岡市消防局がマリニメッセ福岡A館においてテロ発生による観客の救助訓練を行った。



Section14 チケット

1 チケットの概要

開会式及び競泳・アーティスティックスイミング・水球・飛込・ハイダイビングの5種別の観戦チケットを販売。

テレビ朝日を販売代理店とし、各プレイガイド及び当日券売場で販売。

<販売スケジュール>

- 2月11日～2月28日 一次抽選
- 3月11日～3月21日 二次抽選
- 4月1日～4月16日 三次抽選
- 4月29日～5月14日 四次抽選
- 5月25日～6月13日 五次抽選
- 6月19日～ 先着販売
- 7月14日～ 当日券販売

<チケットPR方法>

- 水泳教室や日本選手団出陣式などのイベント時でのPRを実施
- 大会公式ホームページ内にチケットポータル作成
- 大会公式SNSによる販売時期や競技紹介
- 市政だよりによる販売時期や競技紹介
- 福岡市各区役所モニターによるチケット販売PR
- シティドレッシングによるチケット販売PR
- チケットチラシ作成および関係各所配布
- テレビCMによるチケット販売PR
- テレビテロップによるチケット販売PR
- 熊本市、鹿児島市にてイベント時でのPRを実施

<チケット売上枚数、金額>

合計：107,072枚(711,435,000円)

2 チケットの種類

<チケット種類>

- コンビニ発券チケット
対象：一般購入者



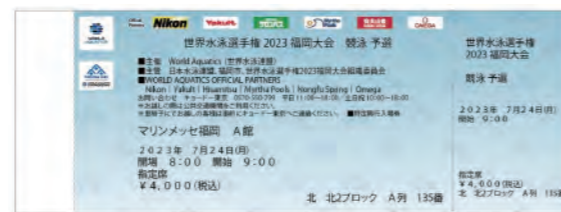
- 電子チケット

対象：一般購入者



- カラーチケット

対象：当日券や1stカテゴリーの招待券など



3 チケット価格の決定

開会式チケットは他のプロジェクションマッピング等のイベントを参考に、観戦チケットは日本開催の他の単一競技の世界選手権大会を参考にした価格設定とした。

競技(会場)	券種	価格(円)		
開会式(ポートレース福岡)	(自由席)	1,000		
競泳 (マリンメッセ福岡A館)	予選～決勝	プラチナシート(指定席)	300,000	
		競泳+アーティスティックスイミング S席最前列 全日フリーパス(指定席)	300,000	
		S席全日フリーパス(指定席)	171,000	
	予選	競泳予選+水球セット券(競泳：指定席/水球：自由席)	6,000	
		プラチナシート(指定席)	10,000	
		(指定席)高校生以下は平日半額 (指定席) (休日)4,000	(平日)3,000 (休日)4,000	
	準決勝～決勝	プラチナシート(指定席)	25,000	
		S席(指定席)	18,000	
		A席(指定席)	14,000	
		サイドS席(指定席) サイドA席(指定席)	8,000 4,000	
	アーティスティックスイミング (マリンメッセ福岡A館)	予選～決勝	競泳+アーティスティックスイミング S席最前列 全日フリーパス(指定席)	300,000
			S席全日フリーパス(指定席)	99,000
予選		(自由席)高校生以下は平日半額 (自由席)高校生以下は平日半額	(20～21日)2,000 (14～18日)3,000	
		エキサイティングシート(エリア指定)	10,000	
決勝		S席(エリア指定)	10,000	
		A席(エリア指定)	8,000	
	B席(エリア指定) サイド席(エリア指定)	6,000 4,000		
水球 (マリンメッセ福岡B館)	予選	一日券(自由席)高校生以下は平日半額	(平日)3,000	
		一日券(自由席)	(休日)4,000	
		アフタヌーン券(自由席)	(平日)1,000	
		アフタヌーン券(自由席)	(休日)2,000	
	準決勝	一日券(自由席)高校生以下は平日半額	4,000	
		アフタヌーン券(自由席)	1,000	
	決勝	3位、7位決定	S席(エリア指定)	5,000
			A席(エリア指定)	4,000
			B席(エリア指定) ゴール裏席(エリア指定)	3,500 3,000
		5位、1位決定	S席(エリア指定)	5,000
A席(エリア指定)			4,000	
B席(エリア指定) ゴール裏席(エリア指定)			3,500 3,000	
飛込(福岡県立総合プール)	予選～決勝	一日券(自由席)初日は半額	3,000	
	準決勝～決勝	準決勝・決勝券(自由席)	2,000	
ハイダイビング (シーサイドももち浜公園)	予選/決勝	(自由席)	2,000	

当日券は、上記価格に500円プラス

4 観戦招待

【市民観戦】

地域と一緒に世界水泳を盛り上げることを目的に、観戦希望の自治協議会を対象に水球の観戦招待を行った。

・参加者数：約1,700人

【学校観戦】

世界のトップ選手の活躍に触れる貴重な機会を活かすため、市内小中学生、特別支援学校の児童・生徒を対象にアーティスティックスイミング、水球、飛込の観戦招待を行った。

・参加者数：約11,000人



→→→ Section15 ラウンジ

大会期間中は、VIP、アスリート、テクニカルオフィシャル、メディア等、カテゴリ別の専用ラウンジを運営し、競技スケジュールに応じた時間帯で軽食や飲料等のケータリングの提供を行った。

ラウンジは、業務委託スタッフ(マネージャー含む)、ボランティア(語学ボランティア含む)、福岡市支援職員により運営した。



1 VIPラウンジ

各会場において、競技観戦や表彰式で会場を訪れたVIPが利用できるスペースとして、VIPラウンジを設置。飲食の提供や装飾によるおもてなしを実施した。

装飾としては、県内高校の学生による生け花作品や、福岡を中心に活動しているアーティストの書道アート、博多の伝統工芸品を展示した。



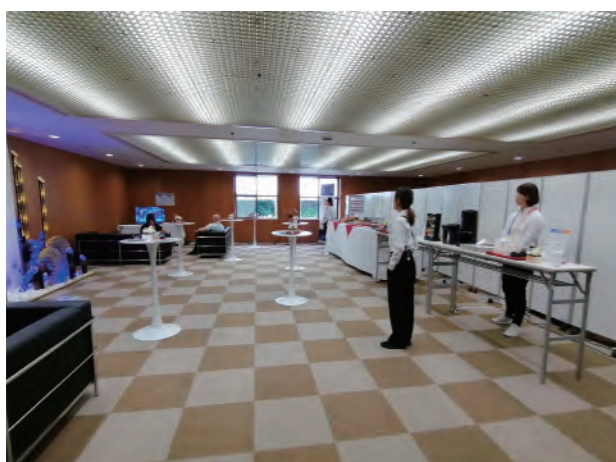
マリノメッセ福岡A館



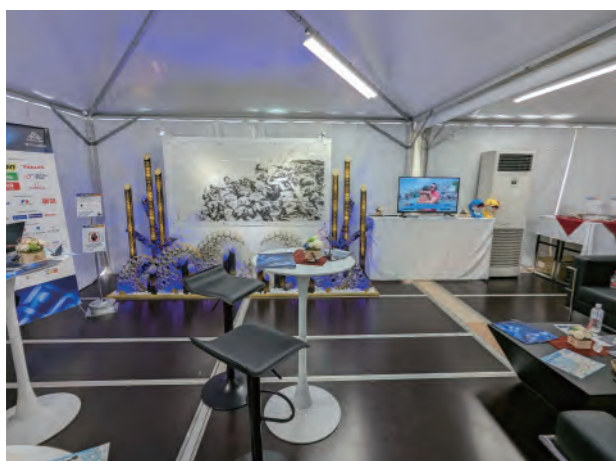
マリンメッセ福岡B館



福岡県立総合プール



シーサイドももち海浜公園



2 アスリートラウンジ

各競技会場内のアスリートラウンジの一角で、果物や菓子等の軽食を提供した。

飲料には、コーヒー、Nongfu SpringからのVIK（ペットボトルの水）、ヤクルトからのVIK（ヤクルト、その他の飲料）を常備し、アスリートに提供した。

各会場で、浴衣等の試着体験、日本のおもちゃ体験、福岡市の小学生による折り紙作品の展示、畳スペース等を

設け、日本文化も楽しんでいただくおもてなしを行った。浴衣等は市役所職員から不要になったものを80着ほど集め、ボランティアや着物団体の着付け協力もあり、試着体験は海外のアスリートに好評を得た。

メイン会場であったマリンメッセ福岡A館では、上記に加え、ネイリストによるネイルブース、アスリートの名前を書きで表現する書道提供ブース等のアクティビティも設けた。

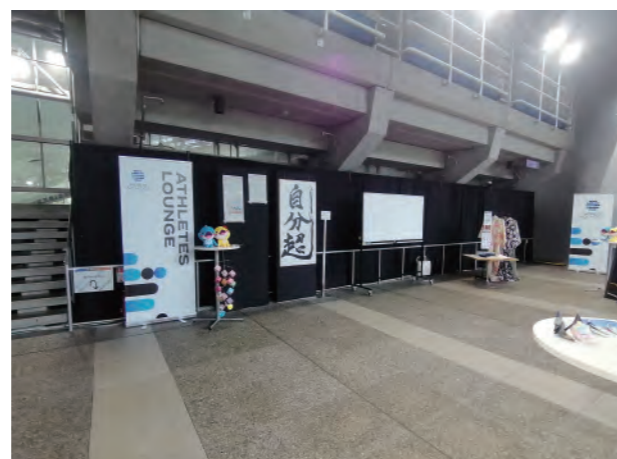
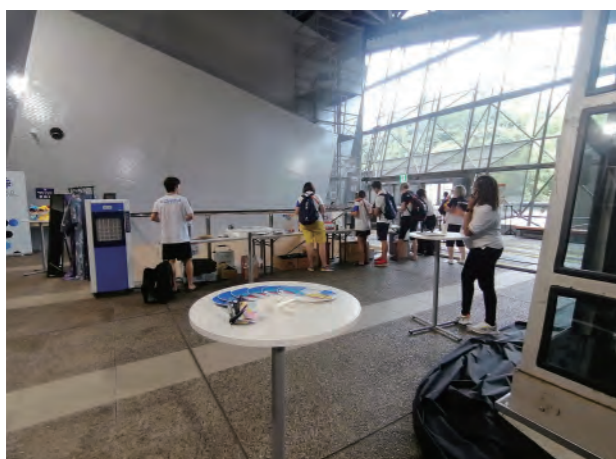
マリンメッセ福岡A館



マリメッセ福岡B館



福岡県立総合プール



シーサイドももち海浜公園



3 テクニカルオフィシャルラウンジ

各競技会場内のテクニカルオフィシャルラウンジの一角で、コーヒー・軽食(パン)を提供した。



4 メディアラウンジ

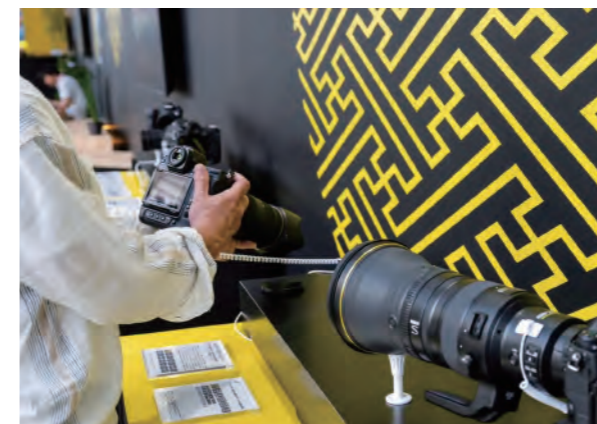
Nikon メディアラウンジ

マリメッセ福岡A館メインプレスセンターの2階に設置されたNikonが運営する「Nikonメディアラウンジ」は、世界水泳連盟史上初のフォトグラファー及びジャーナリストのためのホスピタリティラウンジとして開設された。大会2日目の7月15日にオープンし、7月30日の最終日まで運営された。7月15日にはオープンを記念して、フセイン会長・Nikon社長によるテープカットが行われた。

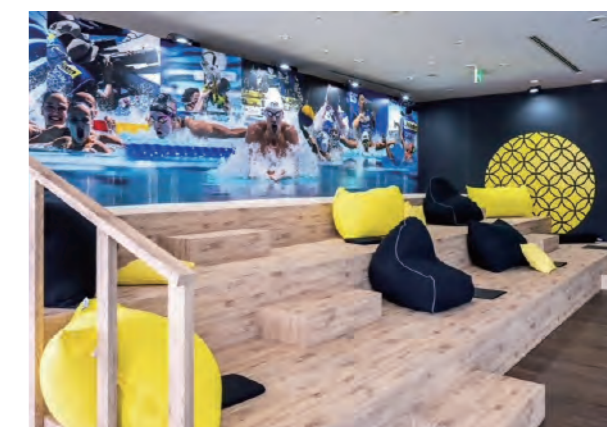
期間中、日本・福岡ならではの軽食や福岡市赤坂の日本茶の名店「万yorozu」とのタイアップによる日本茶や和菓子、抹茶カクテルなどが振る舞われた。



また、ラウンジ内に設けられたNikon製品の「TOUCH & TRYコーナー」では、ミラーレスカメラの最高峰「Z9」同様のハイスパックで起動力のある小型化した、新製品「Z8」を実際に試すことができた。



ラウンジ内には、カウンター席やテーブル席、座ったり寝転んだりできるフリースペースもあり、フォトグラファーやメディアは忙しい合間のリフレッシュタイムとして、歓談をしたり、ゆっくり休憩したり各々の過ごし方で寛いで過ごしていた。



メディア向けドリンクサービス等

MPC (マリメッセ福岡A館)及びSPC (福岡県立総合プール・シーサイドももち海浜公園)のプレスワークルールの一角で、コーヒー・軽食(パン)を提供した。冷蔵庫に農夫スプリングから提供いただいた水(ペットボトル)やヤクルトから提供いただいた飲料(ヤクルト及びその他ペットボトル飲料など)を常備し、プレスセンターを利用する方々に提供した。



→→→ Section16 情報・通信テクノロジー

1 タイミング&スコアリングシステム

<概要>

- ・世界水泳連盟のオフィシャルパートナーであるOMEGAのT&Sシステムは、競技の円滑な運営と競技結果や情報の迅速な提供を目的に導入された。
- ・組織委員会は、T&Sシステムの確実な運用のため、機器の輸送・保管・設置・運用などのインフラ全般と管理を支援した。

<運用期間>

- ・2023年7月3日～8月2日

<搬入・保管>

- ・機器をOMEGAが各競技会場まで輸送し、組織委員会は搬入業務を行った。
- ・機器は各競技会場のオメガ倉庫に保管された。

<機器の設置・操作>

- ・OMEGAコントロールルームはFOP (Fields of Play)に隣接して設置された。
- ・各競技会場のFOP、OMEGAコントロールルームに機器が設置された。また、シーサイドももち海浜公園を除く各競技会場にOMEGAのスコアボードが設置された。
- ・組織委員会は、電気、ネットワークなどのインフラを提供した。

<機器の撤去>

- ・各種目の競技終了後、速やかに撤去された機器をオメガ倉庫に保管し、大会終了後OMEGAが手配した貨物車へ組織委員会が機器を積み込み、輸送された。

<その他の支援>

- ・OMEGAのスタッフ専用、車両、携帯電話、無線機が提供された。

<リアルタイムでの競技情報の提供>

- ・競技結果等に関する情報は、OMEGA MISを通じて、選手、テクニカルオフィシャル、メディア・放送関係者にリアルタイムで提供された。
- ・113台のMISユニット及びMISプラズマが各競技会場に割り当てられ、マリメッセ福岡A館54台、マリメッセ福岡B館15台、福岡県立プール17台、シーサイドも

ち海浜公園15台、IBC12台となった。

- ・また、Web MISも各競技会場で利用された。
- ・具体的には、スポーツインフォメーション、ウォームアップルーム、コールルーム、FOP、ミックスゾーン等に設置された。

2 通信整備

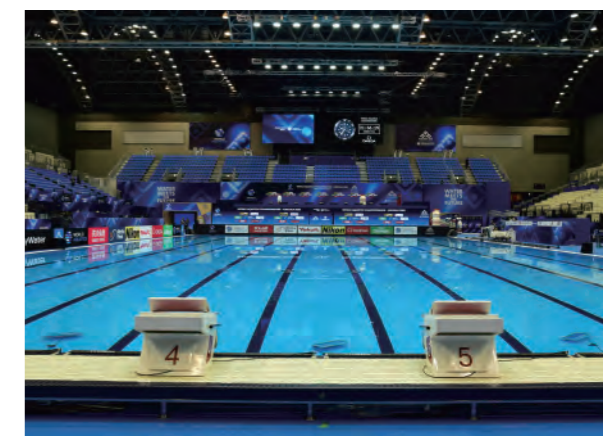
マリメッセ福岡A館、マリメッセ福岡B館、国際放送センター (IBC)が集積しているウォーターフロント地区には、バックアップを含め10Gbpsの帯域確保型専用回線を3回線と複数のベストエフォート型回線、福岡県立総合プールとシーサイドももち海浜公園にはそれぞれ1Gbpsの帯域確保型専用回線とバックアップ用ベストエフォート型回線を準備し、周辺の利用状況に左右されないようにした。

関係者ごとに区分したVLANの構築、福岡県警察からの情報提供による脅威アクセスリストを用いたフィルタリング、ポートを利用するブロードキャスター及びメディアと連携した未使用ポートの論理閉塞等を実施しました。また、大会期間中はネットワーク機器の死活監視に加え、各会場に配置したエンジニアが毎朝の点検を行うことでセキュリティの向上と通信品質の維持に努めた。

Wi-Fiは、各エリアで接続が想定されるデバイスの台数をまかないつつ、小規模な諸室にはそれぞれに設置するよう高機能型と低廉型のアクセスポイントを織り交ぜることで、壁などの障害物による電波減衰を極小化し、安定した通信の提供と整備コストの低減に取り組んだ。また、豚骨や明太子など福岡の食をコンセプトにしたSSIDを掲示することで、海外からのお客様をおもてなした。

3 電子掲示板

電子掲示板は、大会情報やスポンサーロゴの表示などのさまざまな情報やサービスを提供し、大会の円滑な運営とPRサービスの最大化を図った。大型かつ超高精細のLEDディスプレイにより、参加者と観客に鮮やかで多様なアトラクションを提供することで、より刺激的な雰囲気と熱気が生まれた。LEDディスプレイの台数は、競技会場のサイズ、放送範囲、および観客席のレイアウトを考慮して、タイプ別に配置した。中でも、スポンサーロゴを表示するためのLEDビデオウォールは、世界水泳選手権の最近の傾向に合わせてプールサイドに設置し、観客の視線に入るようにした。また、シーサイドももち海浜公園(オープンウォータースイミング、ハイダイビング)には、車載型のLEDディスプレイを採用することで、迅速な設置及び撤去に加え、観客の視認性を高めるための角度調整も容易に対応可能にした。



4 CATV

競技会場での競技のリアルタイム視聴のために、専用のCATVネットワークを構築した。

国際放送センター（IBC）にCATVルームを設置し、HBが制作した国際映像をリアルタイムで競技会場に伝送した。IBCおよび競技会場には、CATV用のモニタ計305台を配置し、大会期間中最大9チャンネルで映像を配信することで、競技会場のオペレーションエリアや選手エリアでも各競技映像をリアルタイムに視聴することが可能となった。

CATVの設置内容

会場	数
競泳 / アーティスティックスイミング	128
飛込	50
水球	48
オープンウォータースイミング/ハイダイビング	40
IBC	39
合計	305

5 通信端末(携帯電話・ポケットWi-Fi)

世界水泳連盟ファミリーの運用の利便性を高めるため、合計15台の携帯電話端末及び60台のポケットWi-Fiを提供した。

提供先一覧

配布先	携帯電話	ポケットWi-Fi	
会長	15台	1台	
事務総長		1台	
事務局スタッフ		24台	
マスターズ委員会		委員長	1台
		副委員長	1台
		名誉書記	1台
		メンバー	1台
医事委員会		副委員長	1台
		メンバー	2台
TV委員会		メンバー	2台
選手委員会		委員長	1台
その他		エージェント	14台
		コンサルタント	—
予備			10台
Total		15台	60台

6 無線周波数管理

海外持込機器の新規無線局免許取得、周波数使用許可、周波数利用調整等の活動により、安定した無線利用環境を実現した。

- ・運用期間 2023年7月8日～7月25日(18日間) / 9:00～17:00
- ・運営スタッフ：6名(委託事業者：5名、OC：1名)
- ・無線局免許新規取得件数 362件
- ・周波数利用承認件数 161件

Section17 放送

1 概要

本大会では、ホストブロードキャスター（HB）や各Rights Holding Broadcaster（RHB：権利放送局）の作業環境を考慮し、アーティスティックスイミングおよび競泳会場のマリンメッセ福岡ホールA館および水球会場のホールB館に隣接する場所にIBCを設置することを決定し、競技会場への素早いアクセスとケーブル配線距離の短縮など、映像撮影・伝送・国際映像制作に最適な環境設計を行った。

国際放送センター（IBC）は、大会開幕の11日前には業務を開始。

大会期間中はHBや海外の放送局のスタッフが1日平均300人以上集まり、放送業務のメイン拠点として、4K UHD（2160P）を含む国際映像の制作、品質管理、アーカイブ、国際伝送が行われた。

世界水泳選手権2023福岡大会のHB（ホスト放送局）には、国際的なスポーツ大会の制作で豊富な経験を持ち、RHBとして世界水泳選手権の放送に精通するテレビ朝日を選ばれた。

テレビ朝日はIBCを拠点として、6種類の国際信号をフルHD（1080i）ライブで制作し、国内外の放送局への配信や技術サービスを提供した。特に競泳およびアーティスティックスイミングは、4K UHD（2160P）で制作した。

選手権はハイライトを含め、合計約300時間にわたり生中継され、視聴者に、最高のUHD・HDレベルの放送と大会期間中の色鮮やかな演技やスリリングな競技映像を提供した。

2 ホストブロードキャスター

ホストブロードキャスターは、世界水泳連盟の規定に基づき、客観的かつ標準的な国際信号（IS）の制作、国内外の権利保有放送局（RHB）への配信、技術サービス、ハイライト番組（1日52分）の制作を行った。

- ・HBは、組織委員会と共同でIBCを運営し、全6種類の放送と国際信号の制作を行った。
- ・HBは、国際信号の制作にあたり、全部で117台のカメラを使用した。
- ・HBは、組織委員会と共同で21のRHBに対して、コメントリージョン、プレミアムミックスゾーン、テレビスタジオなどのサービスを提供した。

3 放送関連会議の開催

組織委員会はHBと共同でWorld Broadcaster Meeting（WBM）を開催した。これは、コンペティション、準備の進捗状況、放送の制作・企画、登録手続き、宿泊、交通、通関などに関する情報をRHBに伝え、あらゆるサポートを提供することを目的としたものである。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、世界水泳選手権史上初めて、全てのプログラムをオンラインで実施した。

- ・開催期間：2021年9月9日～10日(2日間)
- ・開催場所：オンラインで開催(2日間)
- ・参加者：68名
(RHB45名、世界水泳連盟・HB・組織委員会23名)
- ・活動内容：大会準備の進捗状況、放送制作プランの発表、バーチャル会場見学

<個別ミーティング>

- ・開催日：2021年9月10日
- ・開催場所：オンラインにて開催
- ・参加者：32名
(放送局12名、世界水泳連盟・HB・組織委員会20名)
- ・議題：RHBと世界水泳連盟、HB/組織委員会による質疑応答



プレミアムミックスゾーンの様子(マリンメッセ福岡B館)



コメンタリーポジションの様子(マリンメッセ福岡A館)

→→ Section18 IBC

1 概要

- ・ IBC : International Broadcast Centre
- ・ 場所
マリンメッセ福岡A館(水泳・アーティスティックスイミング会場)および・マリンメッセ福岡B館(水球会場)横に設置
- 面積 : 床面積1,763.20㎡、敷地面積4,922.95㎡
- 構造 : コンテナモジュール

< IBC の構成 >

HB 施設 : CDU&CSC (Contribution Distribution Unilateral & Commentary Switching Center)、編集室、アーカイブルーム、デイリーハイライトルーム他

その他 : 事務所(HB、RHB、世界水泳連盟、組織委員会)、ブッキングオフィス、コーヒースタンド、ブリーフィングルーム、ライブストリーミングルーム、CATV室、駐車場 45台

2 IBCの運営

- ・ 期間 : 2023年7月3日~30日(28日間)
 - 7月3日~13日(10:00~18:00)
 - 7月14日~30日(0:00~24:00)
 - 7月30日~8月2日(9:00~18:00)
- ・ 運営スタッフ : 16名
(組織委員会:7名、委託事業者:6名、ボランティア:3名)
- ・ 利用人数 :
海外放送局、HB等、1日当たり平均300名以上が利用
- ・ 活動内容 :
国際信号の制作、国内外RHBへの放送制作支援
 - RHBにCDU&CSC(Contribution Distribution Unilateral & Commentary Switching Center)、アーカイブルーム、編集室、レンタルスペースなどを提供。
 - 放送支援業務に積極的に対応できるよう、運用担当者への定期的・継続的な教育を実施した。
 - メーリングリストを通じて、緊急時の指示やお知らせを配信した。
 - 開幕前日の7月13日から毎日デイリーブリーフィングを開催し、RHBに情報発信するとともに各RHBの要望をヒアリングし、積極的に運用に反映させた。

< IBCにレンタルスペースを構えた放送局(4社) >

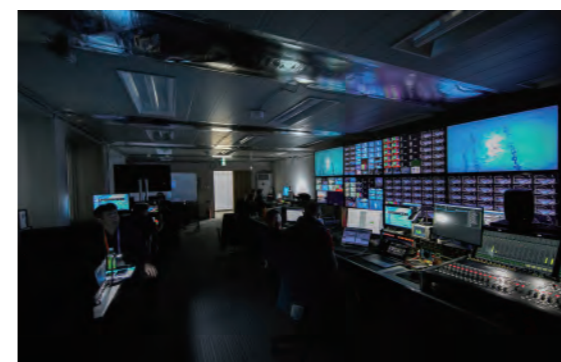
NBC(米国)/CCTV(中国)/テレビ朝日(日本)/RAI(イタリア)

< その他の放送局(20社) >

9 Network(オーストラリア)/CBC(カナダ)/France Television(フランス)/Globo(ブラジル)/HRT(クロアチア)/MTVA(ハンガリー)/NOS(オランダ)/RTCG(モンテネグロ)/Sky Italy(イタリア)/SRG SSR(スイス)/SVT(スウェーデン)/ZDF(ドイツ)/GR ERT(ギリシャ)/CJ ENM(韓国)/KBS(韓国)/MBC(韓国)/SBS(韓国)/RTL(ドイツ)/LT(リトアニア)/BNT(ブルガリア)

< その他のラジオ放送局(5社) >

ARD Radio(ドイツ)/HRT Radio(クロアチア)/RMC(フランス)/Swedish Radio(スウェーデン)/Radio France(フランス)



3 各会場のTVコンパウンドの運営

①期間：2023年7月3日～7月30日

②会場

- ・マリンメッセ福岡A館
(アーティスティックスイミング、競泳)
- ・マリンメッセ福岡B館(水球)
- ・福岡県立総合プール(飛込)
- ・シーサイドももち海浜公園
(オープンウォータースイミング、ハイダイビング)

③運営スタッフ：19名

(委託事業者7名、組織委員会3名、ボランティア9名)

④主な設備：コメンタリーポジション、
プレミアムミックスゾーン、
テレビスタジオなど

⑤活動内容

- ・放送局スタッフの会場アクセスをサポートした。
- ・プレミアムミックスゾーンやカメラポジションへの入場に必要ビブス、腕章を管理した。
- ・プレミアムミックスゾーンで選手インタビューの進捗を管理した。
- ・各会場の放送ベニューマネージャーは毎日IBCで開催されるブリーフィングに参加した。
- ・各会場の放送ベニューマネージャーは各日の競技終了後に日報を各会場のベニューマネージャーに提出した。



Section19 RHB用レートカード

1 概要

レートカードとは、RHBの利便性を高めるために必要な設備・アイテムを提供する有料サービスである。RHBが必要とする設備・アイテムを組織委員会が事前調査のうえ、提供する設備・アイテム、それぞれの価格、提供条件等を決定。世界水泳連盟の承認を得て、2022年11月にレートカードおよび注文様式を配布した。

2 予約注文

2022年11月16日から2023年1月31日までレートカードの予約注文を受け付けた。上記の締切後も、大会直前まで、RHBからのリクエストに応じて、可能な限り追加注文を受け付けた。

計20局からの注文実績は税込151,297,930円に達した。

3 イベントタイム注文

2023年7月8日から同30日まで、イベントタイム注文を受け付けた。備品の追加手配や、オンデマンドのプレミアムミックスゾーンインタビューの注文を受け付け、計3局から税込2,013,000円を売り上げた。

4 費用清算

予約注文とイベントタイム注文で受け付けた注文の費用請求は、2023年4月と大会終了後の2回に分けて各RHBに請求を行った。一部のイベントタイム注文については、大会期間中のクレジットカード清算も受け付けた。

→→→ Section20 報道

1 プレスセンター

メインプレスセンター（MPC）とサブプレスセンター（SPC）は、競技会場内に設置し、国内外の報道関係者の取材拠点として活用された。大会及び競技に関する情報や取材する上で必要となる情報及びサービスの提供を行った。マリンメッセ福岡B館にプレスセンターを設置せず、マリンメッセ福岡A館に統合した。

(1) 設置場所及び規模

- ・ MPC：1カ所（マリンメッセ福岡A館）
- ・ SPC：2カ所
（福岡県立総合プール、シーサイドももち海浜公園）

(2) 諸室等

① インフォメーションデスク

各プレスセンターのワークルーム内に設置し、ロッカーキーの貸出・返却やプールフォトグラファービブスの受付・貸出、会場案内、会場周辺案内や観光ガイドブック等の配布を行った。

② ワークルーム

MPC及びSPCに、ジャーナリスト及びフォトグラファー共用のワークルームを設置し、各ワークルームにロッカー、インターネット有線、Wi-Fiを備えた。

また、ワークルームの一角に冷蔵庫や電子レンジ、湯沸かしポットを設置し、Nongfu Springのペットボトル（水）、ヤクルト製品、コーヒー及び軽食を無料で提供した。

③ プレスカンファレンスルーム

MPCのプレスカンファレンスルームでは、オープニングプレスカンファレンスなどの公式記者会見をはじめ、競泳のメダリスト記者会見などを行った。

SPCはシーサイドももち海浜公園のみ、ワークルームとプレスカンファレンスルームを一体化したハイブリット式のプレスカンファレンスルームを設置し、オープンウォータースイミングメダリストの記者会見を行った。

④ メディアトリビューン

スタンドに電源及びインターネット回線（有線）を配備したテーブル席を設置した。一部は指定席とし、その他は先着順とした。

⑤ フォトポジション

各会場に競技に応じたフォトポジションを設置した。オープンウォータースイミングにおいては、フォトグラファー撮影用に、船（2艇）を運行した。

⑥ ミックスゾーン

ENG・ラジオ・ジャーナリストの順に区分し、競技映像モニターやリザルトモニターを設置した。

⑦ Nikonプロフェッショナルサービス【NPS】（MPCのみ）

カメラ等のクリーニング、簡易点検、無料レンタルを行うサービスセンターがNikonにより設置された。

各競技会場別諸室席数一覧

競技会場	ワークルーム	プレスカンファレンスルーム	メディアトリビューン
マリンメッセ福岡A館	360席	150席	214席
マリンメッセ福岡B館	-	-	84席
福岡県立総合プール	48席	-	39席
シーサイドももち海浜公園	132席	24席	26席

2 プレスセンターの運営

報道関係者への対応は、世界水泳連盟コミュニケーションマネージャーの助言のもとに実施された。

組織委員会職員であるメディアディレクター及びメディアマネージャーの元で、福岡県及び市の支援職員、委託業者及び有償通訳、ボランティアが運営にあたった。

各競技会場では、ベニューメディアマネージャーを配置し、支援職員、委託業者及び有償通訳、ボランティアが運営を行った。

(1) 人員配置

競技会場	支援職員	委託業者	有償通訳	ボランティア
マリンメッセ福岡A館	2名	7名	2名	20名
マリンメッセ福岡B館	1名	4名	-	8名
福岡県立総合プール	2名	5名	1名	12名
シーサイドももち海浜公園（OWS）	3名	6名	1名	14名
シーサイドももち海浜公園（HDV）	3名	5名	1名	13名

※競技開催日の人数。支援職員、ボランティアの交代は含まない。

(2) メディアへの情報提供

① メディアガイド（日本語/英語）の作成

メディアガイドは印刷を行わず、PDFデータを、世界水泳連盟ホームページ及び大会公式ホームページのNewsにて公開した。

公開日 2023年6月14日



メディアガイド表紙

② アプリによる情報提供

大会期間中はアプリ（Sportity）を使用し、様々な情報を提供した。

- ・ 競技情報（スタートリスト・リザルト）
※ OMEGA TIMING へのリンク
- ・ ニュース（記者会見実施情報、ビブスの抽選結果等）
- ・ メディアバス運行スケジュール
- ・ フラッシュクォーツ 他

③ インフォメーションボード

各競技会場のプレスルームにインフォメーションボードを設置し、日毎の競技スケジュール、取材案内、競技情報、日毎の入場者数などを記載した。

④ 記者会見の実施

MPCのプレスカンファレンスルームで13回、SPCのプレスカンファレンスルーム（ハイブリット式）で5回、計18回の記者会見を実施した。

日付	会場	委託業者
7月13日	MPC	オープニングプレスカンファレンス
7月15日	SPC	OWSメダリスト記者会見
7月16日	SPC	OWSメダリスト記者会見
7月18日	SPC	OWSメダリスト記者会見(2回)
7月20日	SPC	OWSメダリスト記者会見
7月21日	MPC	SW Team USA 記者会見
7月21日	MPC	SW Team CANADA 記者会見
7月23日	MPC	SW ヒーロー・オブ・ザ・デイ記者会見
7月24日	MPC	SW ヒーロー・オブ・ザ・デイ記者会見(2回)
7月25日	MPC	SW ヒーロー・オブ・ザ・デイ記者会見
7月26日	MPC	SW ヒーロー・オブ・ザ・デイ記者会見(2回)
7月28日	MPC	SW ヒーロー・オブ・ザ・デイ記者会見(2回)
7月29日	MPC	SW ヒーロー・オブ・ザ・デイ記者会見
7月30日	MPC	SW ヒーロー・オブ・ザ・デイ記者会見
合計		18回



オープニングプレスカンファレンスの様子



ヒーロー・オブ・ザ・デイの様子

3 報道関係者のGMSの登録について

GMSでの登録を2023年2月15日から開始し、6月13日まで申請を受け付けた。主要通信社や海外の報道関係者は世界水泳連盟が審査を行い、国内の報道関係者は、組織委員会が審査を行った。

審査で承認された報道関係者は、博多港国際ターミナル内に設置されたADセンターにおいて、身分証明書(パスポートなど)との照合のうえ、ADカードが交付された。併せて、フォトグラファーでの登録者には、フォトグラファービブスも一緒に交付した。



MPCプレスワークルームの様子



マリノメッセ福岡A館 フォトポジションの様子



福岡県立総合プール ミックスゾーンの様子

→→→ Section21 フォトグラファーの育成

1 目的

世界水泳連盟のオフィシャルパートナーであるNikonに協力いただきながら、大会コンセプトであるWATER MEETS THE FUTURE（多様な力と主体性の尊重等）の考えのもと、世界水泳福岡大会を契機に未来のカメラマン育成に寄与する活動として、福岡市内にある大学と連携して国際スポーツ大会の撮影機会の提供を行った。



2 構成と運用

福岡市内にある九州産業大学の教授監修のもと、芸術学部写真・映像メディア学科の学生9名が、競技会場をはじめ、各種写真撮影を行った。

運営にあたっては、世界水泳連盟のオフィシャルパートナーであるNikonから、撮影機材の提供及び事前レクチャーを協力いただいた。

また、事前の研修として日本水泳連盟の協力を得て、4月に実施された日本選手権でもカメラマンとして受け入れをもらった。



Section22 ユニフォームの制作

大会の円滑かつ秩序ある運営に貢献するために、大会関係者には公式ユニフォームが制作された。世界的に有名なアパレル企業であるユニクロがスポンサーとなり、選手権のコンセプトを体現したユニクロらしいデザインで大会に統一感と花を添えてくれるユニフォームとなった。

1 ユニフォームの種類

フォーマルウェアとカジュアルウェアは役職ごとにカラー・デザインが異なるウェアを制作した。

	フォーマルウェア	カジュアルウェア
受取者	世界水泳連盟関係者、組織委員会関係者、競技役員	世界水泳連盟関係者、組織委員会関係者、競技役員、委託業者、ボランティア等
各アイテム	ジャケット、パンツ、シャツ、ネクタイ、スカーフ	ポロシャツ、Tシャツ、パンツ、ウインドブレーカー、バッグ、ナップサック、キャップ等
スポンサー	ユニクロ	ユニクロ

2 ユニフォームお披露目会

公式ユニフォームは下記のとおりお披露目会を行った。

- ・日付：2023年5月3日(水)
- ・会場：博多駅前広場
(世界水泳どんたく隊 博多駅本舞台PR)



3 各カテゴリーのユニフォーム

【フォーマルウェア】

アイテム	品目	受領者
	ジャケット シャツ パンツ ネクタイ スカーフ	世界水泳連盟 理事
	ジャケット シャツ パンツ ネクタイ スカーフ	世界水泳連盟 委員会委員 / コミッション 国内競技役員 国際競技役員

【カジュアルウェア】

アイテム	品目	受領者
	ポロシャツ パンツ ウインド ブレーカー バッグ	世界水泳連盟 理事

アイテム	品目	受領者	アイテム	品目	受領者
	ポロシャツ パンツ ウインド ブレーカー バッグ キャップ	世界水泳連盟 委員会委員 / コミッション 国内競技役員 国際競技役員		ポロシャツ ナップサック	委託会社
	ポロシャツ パンツ ウインド ブレーカー バッグ ナップサック キャップ	世界水泳連盟 スタッフ 世界水泳連盟 エージェント		ポロシャツ	ホストブロード キャスター
	ポロシャツ パンツ ウインド ブレーカー バッグ キャップ	日本水泳連盟 県水泳連盟		Tシャツ ウインド ブレーカー ナップサック	ボランティア
	ポロシャツ パンツ ウインド ブレーカー ナップサック キャップ	組織委員会 関係者			

Section23 ユニフォームセンター

1 配布日と入庫

実際のユニフォームの着用日は役職や役割によって異なるため、関係部署と相談しながらユニフォームの配付スケジュールを検討し、計画を立てた。ユニフォームは実際の配付日に間に合うよう、1週間前にユニフォームセンターに入庫した。

2 カテゴリー別の配布

- ・ユニフォームは、受領者の着用日に準じて配付した。
- ・受領者は原則として、ユニフォームセンターでADカードを提示して本人確認を行い、適切なユニフォームを受け取れるようにした。また、役職によっては役職別に納品し、直接受領者に配付できるようにした。



3 ユニフォームセンターの設置

福岡・熊本・鹿児島県の3箇所にユニフォームセンターを設置し、ユニフォームの配付・サイズ交換・簡易補正に対応できるようにサービスを提供した。

<福岡会場(博多港国際ターミナル)>

・期間：2023年7月8日～16日、18日～24日、
7月30日～8月4日

・人員：13名

(組織委員会：1名、委託会社：5名、補正スタッフ：2名、ボランティア5名)

<熊本会場(アクアドームくまもと)>

・期間：2023年8月2日～4日

・人員：4名(委託会社：3名、補正スタッフ：1名)

<鹿児島会場(鴨池公園水泳プール)>

・期間：2023年8月2日～4日

・人員：4名(委託会社：3名、補正スタッフ：1名)



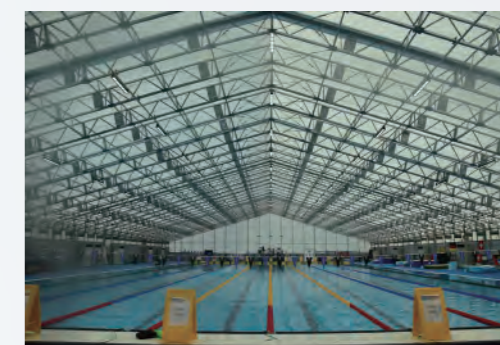
Section24 レガシー

1 TOKYO2020からのレガシー

今大会においては競技用に2つ、ウォームアップ(WU)用に3つのプールを特設して大会を行った。そのうち3つのWUプールについては、2021年に開催された東京オリンピックで使用された仮設プール資材(ミルタプール製)を、オリンピックレガシーとして再活用した。

【対象プール】

- ・競泳WUプール(マリンメッセ福岡A館/屋外/50m×25m×2m)
- ・アーティスティックスイミングWUプール(マリンメッセ福岡A館/屋外/30m×25m×3m)
- ・水球WUプール(マリンメッセ福岡B館/屋外/35m×22m×2m)



2 大会後のレガシー(プール再活用)

TOKYO2020から世界水泳福岡へ引き継がれたレガシーの一部は、大会後にそのプール本体やろ過設備が福岡市内4つの小学校および3つの市民プールの改修に利用され、市民へ還元されるとともに、後世へ引き継がれる。

- ・小学校：下山門、四箇田、城南、和白東
- ・市民プール：早良、中央、城南



→→→ Section25 保険

1 大会保険

保険の種類	被保険者	主な担保内容	補償 (支払限度額・保険金額等)
興行中止保険	組織委員会	台風到来による Fukuoka Ichiba の追加費用（撤去・再設置）等	11,396 千円×縮小割合 80%
総合賠償責任保険 (CGL)	組織委員会 国際水泳連盟 日本水連 ボランティア 選手団	来場者や借用施設 に対する賠償損害	保険期間：2022 年 12 月～ 2024 年 3 月末 第三者賠償支払限度額 1事故：10,000,000USD 保険期間中：10,000,000USD 人格権・宣伝侵害：500,000USD 借用不動産損壊：500,000USD
医師賠償責任保険 (診療所賠償責任保険)	診療所 医師 医療従事者	医師や医療従事者 の業務に起因する 賠償責任	<医療施設> 対人 1 名 1 億円 1 事故 3 億円 対物 1 事故 1 億円 <勤務医師> 対人 1 事故 1 億円 期間中 3 億円 <医療従事者> 対人 1 事故 1 億円 期間中 3 億円
(国内旅行) 傷害保険	運営スタッフ (有償)	運営スタッフのケガ や疾病、賠償責任、 携行品等	死亡補償 200 万円 入院日額 2,000 円 通院日額 1,000 円
行事参加者傷害保険	ボランティアスタッフ (無償)	ボランティアスタッ フ（無償）の死亡、 ケガによる入通院	死亡補償 200 万円 入院日額 2,000 円 通院日額 1,000 円
マスターズ参加者向け 傷害保険	マスターズ国内・ 海外選手	競技中に生じたケガ や疾病	死亡補償 300 万円 入院日額 3,000 円 通院日額 2,000 円

→→→ Section26 アスリートへのおもてなし

大会期間中、選手の皆さんにより福岡や日本を楽しんでもらえるように様々な取り組みを行った。

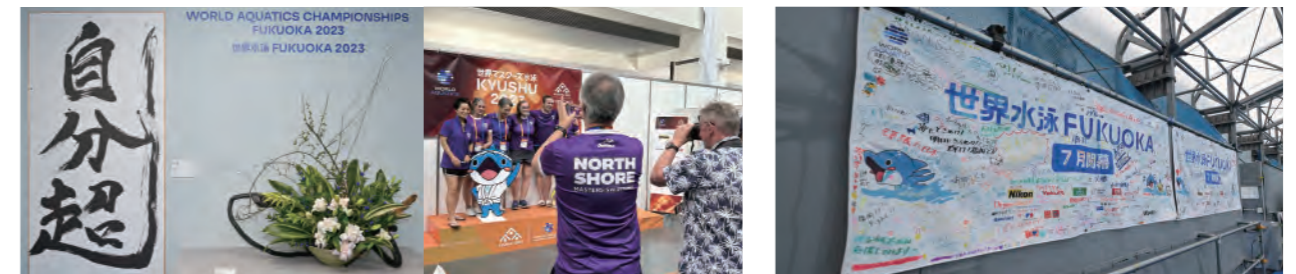
①アスリートラウンジ



マスコットのシーライ&シャーニーが選手にご挨拶

アスリートラウンジでの浴衣や書道の文化体験

②その他のアスリートエリア



フォトスポットの設置

ウォームアッププールにて市民からのメッセージを展示

③滞在ホテル



おもてなし装飾の他、博多織の扇子のプレゼントや折り鶴のお部屋入れなどの独自のサービス

④ウェブサイト



グローバルサイトにおいて、世界水泳特設ページを新設し、おもてなし店舗やイベント・体験コンテンツ情報等を発信

Section27 観客サービス

1 観光案内ブース

福岡市経済観光文化局と連携して、観客やマスターズ大会の参加者を対象に、競技会場周辺の観光スポットやおすすめの飲食店などを紹介する観光案内ブースを設置した。

ブースの運営は、福岡市経済観光文化局から派遣された他言語対応スタッフが行った。

<設置箇所>

マリンメッセ福岡A館海のモール、シーサイドももち海浜公園、博多港国際ターミナル

<設置期間>

- ・マリンメッセ福岡A館海のモール：7月14～30日、8月5～11日
- ・シーサイドももち海浜公園：7月16～18日・20日・25～27日、8月1～3日
- ・博多港国際ターミナル：7月31日～8月11日

<スタッフの人数>

- ・マリンメッセ福岡A館海のモール：9名/日
- ・シーサイドももち海浜公園：6名/日
- ・博多港国際ターミナル：9名/日



2 会場内の飲食販売

福岡市内の競技会場の観客エリアに、飲料や食料を販売する売店を設置した。

福岡観光コンベンションビューローの賛助会員などに声をかけ、福岡市内のレストランや弁当業者等の計10社が出店した。

大会準備期間中、各社に対し保健所へ必要な手続きを行うよう指導するとともに、営業日及び営業時間の協議や出店場所の調整等を行った。

大会期間中は、国内外の観戦客やマスターズ大会の選手だけでなく、ボランティアや委託業者等、多くの人が売店を利用した。

<出店者>

- ・マリンメッセ福岡A館：海のモール6店舗、山のモール1店舗
- ・マリンメッセ福岡B館：1店舗
- ・福岡県立総合プール：1店舗、キッチンカー1台
- ・シーサイドももち海浜公園：キッチンカー2台
- ・福岡総合西市民プール：1店舗、キッチンカー3台



<出店期間>

- ・マリンメッセ福岡A館：7月10～30日、8月3～11日
- ・マリンメッセ福岡B館：7月12～29日
- ・福岡県立総合プール：7月9日・11～22日、7月31日～8月7日
- ・シーサイドももち海浜公園：7月18日・20日・25～27日、8月1～3日
- ・福岡総合西市民プール：8月3～8日・10～11日

<販売物(食べ物)>

- ・弁当、リゾット、タコライス、トルコライス、カレーライス、ピザ、サンドウィッチ、塩焼きそば、フォー、アヒージョ、からあげ、ヤンニョムチキン、ナゲット、ソーセージ、フライドポテト、さつま揚げ、すり身揚げ、チュロス、ポップコーン、アイスクリーム、アイスキャンディー、かき氷

<販売物(飲料)>

- ・生ビール、ノンアルコールビール、お茶、ソフトドリンク、ミネラルウォーター、コーヒー





Chapter 9



マスターズ

→→→ Section1 **GMS**

1 参加情報

マスターズ大会には77か国・地域から7,512人の選手が参加した(ほか関係者は7,122人)。

大会参加登録は世界水泳選手権と同様にGMSを活用して行った。

<登録スケジュール>

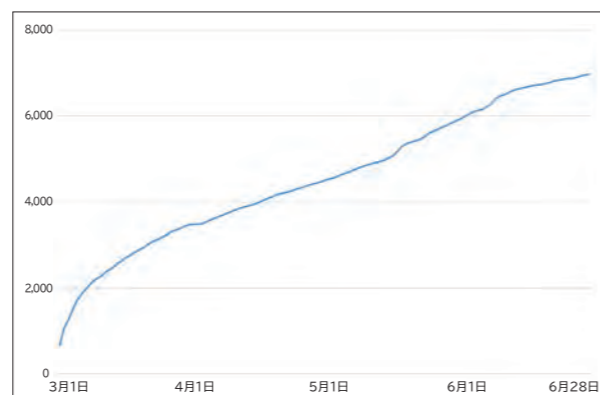
- ・登録開始 ……2023年3月1日
- ・エントリー締切 ……2023年6月28日

種別ごとのエントリー数

種別	参加人数/クラブ数	エントリー数
競泳	5,846人/1,902クラブ	14,444 うち 個人13,662 リレー 782
飛込	235人/94クラブ	687 うち ソロ556 シンクロ131
水球	416人/26クラブ	35チーム
アーティスティックスイミング	329人/68クラブ	151 うち ソロ63 デュエット・チーム88
オープンウォータースイミング	686人/441クラブ	718人



GMS エントリー数の推移



■ 最終エントリー

参加国・地域	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング	
1 ARG	Argentina	29	0	9	0	9
2 AUS	Australia	100	3	42	2	22
3 AUT	Austria	7	0	1	0	3
4 BEL	Belgium	15	4	0	1	4
5 BOL	Bolivia	2	0	0	0	1
6 BRA	Brazil	38	0	16	0	13
7 BUL	Bulgaria	6	0	0	0	0
8 CAN	Canada	72	16	30	51	18
9 CHI	Chile	13	0	0	0	3
10 CHN	People's Republic of China	48	0	0	3	4
11 COL	Colombia	12	0	0	1	6
12 CRO	Croatia	0	0	1	0	0
13 CZE	Czechia	45	0	2	0	1
14 DEN	Denmark	4	1	0	0	0
15 ECU	Ecuador	2	0	0	0	2
16 EGY	Egypt	10	0	0	0	2
17 ESP	Spain	100	1	12	18	32
18 EST	Estonia	4	0	0	0	0
19 FIN	Finland	4	5	2	0	0
20 FRA	France	100	10	0	17	15
21 GBR	Great Britain	96	6	2	1	27
22 GEO	Georgia	1	0	0	0	0
23 GER	Germany	128	19	7	2	33
24 GRE	Greece	4	2	0	0	1
25 HKG	Hong Kong, China	46	12	0	0	6
26 HUN	Hungary	34	1	1	1	2
27 INA	Indonesia	4	0	0	0	3
28 IND	India	28	0	0	0	2
29 IRI	Islamic Republic of Iran	0	1	0	0	0
30 IRL	Ireland	14	0	1	0	3
31 ISR	Israel	22	0	0	0	5
32 ITA	Italy	114	9	18	11	27
33 JAM	Jamaica	1	0	0	0	0
34 JOR	Jordan	1	0	0	0	0
35 JPN	Japan	4,026	44	66	183	308
36 KOR	Republic of Korea	119	41	12	0	13
37 KSA	Saudi Arabia	4	0	0	0	0
38 LAT	Latvia	4	0	0	0	0
39 LTU	Lithuania	8	3	0	0	0

参加国・地域	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング	
40 LUX	Luxembourg	8	0	0	0	3
41 MAC	Macau, China	1	0	0	0	0
42 MAS	Malaysia	15	0	0	0	2
43 MEX	Mexico	88	3	0	0	20
44 MGL	Mongolia	8	0	0	0	0
45 MKD	North Macedonia	1	0	0	0	0
46 MLT	Malta	1	0	0	0	0
47 NED	Netherlands	24	6	2	4	10
48 NOR	Norway	3	1	0	0	2
49 NZL	New Zealand	9	1	2	0	2
50 PAN	Panama	2	0	0	0	0
51 PAR	Paraguay	10	0	0	0	1
52 PER	Peru	11	1	0	0	4
53 PHI	Philippines	3	0	0	0	0
54 POL	Poland	15	0	0	0	1
55 POR	Portugal	9	0	1	0	3
56 ROU	Romania	14	0	0	0	3
57 RSA	South Africa	13	0	0	0	3
58 RUS	Russia	22	0	0	0	5
59 SGP	Singapore	11	0	0	0	2
60 SLO	Slovenia	2	0	0	0	1
61 SRB	Serbia	1	0	0	0	0
62 SUD	Sudan	0	0	0	0	1
63 SUI	Switzerland	14	0	0	21	3
64 SVK	Slovakia	20	0	5	0	1
65 SWE	Sweden	8	6	0	1	6
66 SYR	Syrian Arab Republic	1	0	0	0	0
67 THA	Thailand	41	0	0	0	7
68 TPE	Chinese Taipei	33	0	2	0	0
69 TTO	Trinidad and Tobago	7	0	0	0	4
70 TUR	Türkiye	11	0	0	0	3
71 UGA	Uganda	2	0	0	0	0
72 UKR	Ukraine	2	0	0	0	0
73 URU	Uruguay	0	0	1	0	0
74 USA	United States of America	166	39	179	12	33
75 UZB	Uzbekistan	1	0	0	0	0
76 VEN	Venezuela	4	0	1	0	1
77 VIE	Vietnam	0	0	1	0	0
合計		5,846	235	416	329	686

→→→ Section2 AD

1 概要

世界水泳選手権と同様に、マスターズ大会においてもGMSに登録された情報を利用してADカードを作成し、ADセンターで交付した。

最終的に、合計14,634枚のADカードを発行して交付した。また、事前登録者以外にはデパス等も発行した。

ADカード(表)



(裏)



2 ADカード発行数

カテゴリー	発行枚数(枚)
選手	7,512
選手関係者(コーチ等)	783
メディア	27
世界水泳連盟	50
Future OC	12
大会運営職員	6,250
合計	14,634



3 ADセンターの運営

マスターズ大会期間中に博多港国際ターミナル、熊本及び鹿児島県の競技会場内の計3箇所にADセンターを設置し、ADカード配付や紛失者への再発行対応などを行った。

博多港国際ターミナルには福岡市経済観光文化局と連携して、マスターズ大会の参加者向けに3都市周遊などの観光PRブースを設置した。

場所	開設期間	時間
① 博多港国際ターミナル	2023年7月30日 ～8月11日	8:00～20:00
② アクアドームくまもと	2023年8月3日 ～8月11日	8:00～19:00
③ 鴨池公園水泳プール	2023年8月3日 ～8月11日	8:00～19:00



→→→ Section3 宿泊・輸送

1 宿泊施設

<世界水泳連盟ホテル>

世界水泳選手権に引き続き、メインホテルは「グランドハイアット福岡」とし、福岡会場で従事する国際審判員は「ホテルJALシティ福岡天神」とした。

熊本会場は「ANAクラウンプラザ熊本ニュースカイ」、鹿児島会場は「鹿児島サンロイヤルホテル」とした。

<選手ホテル>

選手は宿泊ホテルを個人で手配してもらうよう案内した。組織委員会の指定旅行代理店が宿泊ホテルの販売を行い、3都市の計75ホテルで延べ1,897室を提供した。

2 関係者輸送

①大会輸送本部の設置

メイン会場であるマリンメッセ福岡A館内に輸送本部を設置し、輸送業務の統括管理を行った。

②輸送デスクの設置

各競技会場や世界水泳連盟ホテル、福岡空港(国内線・国際線)、博多駅に輸送デスクを設置し、利用者への案内や乗降サポート、車両の誘導や関連情報の案内を行った。

③会場輸送

福岡会場では、世界水泳連盟のスタッフやゲスト等については、専用自動車を手配し、各者のスケジュールに合わせて輸送した。

熊本会場や鹿児島会場では、タクシーを活用して輸送した。

④空港送迎および3都市間輸送

世界水泳連盟関係者の福岡空港到着・出発スケジュールに合わせて、随時、専用自動車・タクシー等により輸送した。

3都市間の輸送は九州新幹線とし、各駅に案内スタッフを配置し、乗車をサポートした。

3 参加者交通

選手は、公共交通機関での来場を基本とし、大会HPや大会SNSにて各会場へのアクセスを周知、会場付近には「交通案内サイン」を設置し、会場までスムーズに来場できるように案内した。

公共交通機関が不十分な会場では、参加者用にシャトルバス等を用意し、競技スケジュールに合わせて運行した。

<シャトルバス運行会場>

- ①橋本駅 ↔ 西市民プール(競泳)
- ②博多駅 ↔ 福岡県立プール(飛込)
- ③博多駅 ↔ シーサイドももち海浜公園(オープンウォータースイミング) ※往路のみ
- ④市民会館 ↔ 熊本駅 ↔ アクアドームくまもと(水球)

①福岡会場

ホテル地図

No	エリア	ホテル名称
1	中洲	グランドハイアット福岡
2	天神	ホテルJALシティ 福岡天神

②熊本会場

ホテル地図(熊本)

No	エリア	ホテル名称
1	熊本	ANAクラウンプラザホテル 熊本ニュースカイ

③鹿児島会場

ホテル地図(鹿児島)

No	エリア	ホテル名称
1	鴨池	鹿児島サンロイヤルホテル

→→→ Section4 開閉会式

1 開会式

各会場の競技開始日(競泳は競技開始日前日)において、オープニングセレモニーを行った。

<オープンウォータースイミング>

- ・日程：2023年8月2日(水) 8:00 ~
- ・会場：シーサイドももち海浜公園

<飛込>

- ・日程：2023年8月2日(水) 10:30 ~
- ・会場：福岡県立総合プール

<競泳>

- ・日程：2023年8月4日(金) 18:15 ~
- ・会場：マリンメッセ福岡A館

<アーティスティックスイミング>

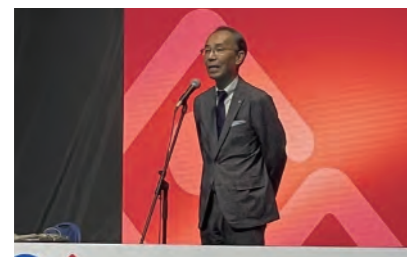
- ・日程：2023年8月5日(土) 9:30 ~
- ・会場：鹿児島市鴨池公園水泳プール

<水球>

- ・日程：2023年8月5日(土) 14:30 ~
- ・会場：熊本市総合屋内プール(アクアドームくまもと)

式次第

- 日本マスターズ水泳協会挨拶
- 開催都市挨拶
- 世界水泳連盟挨拶



福岡市副市長 中村 英一



熊本市長 大西 一史



鹿児島市長 下鶴 隆央

※開会式(オープニングセレモニー)は、世界水泳連盟との協議により各競技会場において小規模実施とした。
 ※閉会式は実施せず、世界水泳連盟代表によるクロージングスピーチにより大会を締めくくった。



世界水泳連盟副会長 アントニオ・シルバ



世界水泳連盟マスターズ競技委員長 ナディーン・デイ



日本マスターズ水泳協会会長 高橋 繁浩

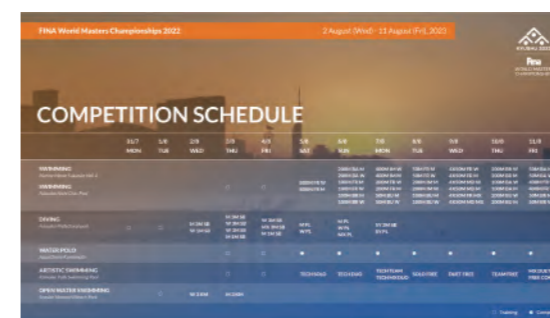
→→→ Section5 競技

世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会は 77 国から 7,512 人の選手が参加した。
 福岡市、熊本市、鹿児島市の3都市で開催され、全種目合計で33個の世界新記録が生まれた。

1 競技概要

①スケジュール

- ・過去の競技スケジュールを踏まえ、関係者との協議を行い、競技スケジュールが決定された。
- ・2022年2月7日に大会期間が2023年8月2日~8月11日の10日間で行う事が承認され、種目毎の詳細スケジュールを2022年10月14日に公開した。



〈付録：P208参照〉

②競技への参加登録

- ・2023年2月3日に大会参加要領を記載した「エントリーブックレット」を発行した。



・参加登録

- 開始：2023年3月1日
- 締切：2023年6月29日
- 内容：各国の参加予定人数を登録
 - ・77か国・地域から7,512人が登録

③競技手順の確立

- ・競技運営体制の確立のため、チャンピオンシップ大会と同様に水泳競技部長及び各種別の部長が任命された。種目ごとに定例部会を開催し、必要となる競技備品や競技手順について協議を重ねた。
- また、世界水泳連盟も定期的に協議を行い競技手順の確立に務めた。

④テクニカルミーティング

- ・参加者に競技手順やルール等を説明するテクニカルミーティングが種別ごとに開催された。
- ・競技開始前日に世界水泳連盟主催で実施され、各種別の部長も同席した。



⑤競技の運営体制

- ・ 競技運営体制の確立のため、水泳競技部長及び各種別の部長が任命された。
- ・ 競技役員（国際および国内）は世界水泳連盟により任命され、競技運営が実施された。
- ・ 競技の円滑な運営を促進するため、日本水泳連盟が種別経験を有する計 496 名の競技運営スタッフを集め、配置した。なお、競技役員（国内）及び競技運営スタッフの人件費・宿泊費は組織委員会が負担した。

競技役員

種目	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング
合計	326名	160名	98名	25名	23名
ITO (国際)	33名	2名	6名	9名	9名
NTO (国内)	293名	158名	92名	16名	14名

競技運営スタッフ

合計	競泳	飛込	水球	アーティスティックスイミング	オープンウォータースイミング
496名	165名	50名	158名	81名	42名

①競泳

- <概要>
- 期 間：2023年8月5日～8月11日(7日間)
 - 会 場：マリンメッセ福岡A館、総合西市民プール
 - 選手数：72か国5,846人
 - 種目数：38



②オープンウォータースイミング

- <概要>
- 期 間：2023年8月2日～8月3日(2日間)
 - 会 場：シーサイドももち海浜公園
 - 選手数：51か国686人
 - 種目数：2



③飛込

- <概要>
- 期 間：2023年8月2日～8月7日(6日間)
 - 会 場：福岡県立総合プール
 - 選手数：24か国235人
 - 種目数：12



④水球

- <概要>
- 期 間：2023年8月5日～8月11日(7日間)
 - 会 場：熊本市総合屋内プール (アクアドームくまもと)
 - 選手数：25か国416人
 - 種目数：2



2 競技種別

種目	世界マスターズ水泳選手権	世界水泳選手権
競泳	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてのレースは、タイムレース決勝 ・毎日9:30開始で運営される 	<ul style="list-style-type: none"> ・予選ラウンド：午前・決勝ラウンド：午後
オープンウォータースイミング	<ul style="list-style-type: none"> ・2種目(3km) ・1.5kmあたり45分のカットオフ時間が適用 	<ul style="list-style-type: none"> ・5種目(5km、10km、6Km混合リレー)
飛込	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢区分別には男性は3～7ダイブ、女性は3～6ダイブ ・個人種目は5人のジャッジ、シンクロ種目は9人のジャッジ ・50歳以上の選手が10メートルの高さから飛び込む時は、足から入水する。難易度は2.0を超えてはならない ・12種目(男性：5、女性：5、混合：2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性は6ダイブ、女性は5ダイブ ・個人およびチーム種目は7人のジャッジ、チーム種目は11人のジャッジ ・13種目(男性：5、女性：5、混合：2、チーム：1)
水球	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの最年少メンバーの年齢によってチームの年齢区分が決まり、競技時間は年齢区分によって異なる 30～49歳：7分で4ピリオド 50歳以上：6分で4ピリオド ・出場選手リストに15人(出場選手7人、補欠選手最大8人)まで入れることができる。ゴールキーパーの補欠選手を指定する必要はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・8分で4ピリオド ・各チーム最大13名構成とし、その内11名をフィールドプレイヤー、2名をゴールキーパーとする。フィールド内に7名以下で試合を開始し、その内1名はゴールキーパーとする
アーティスティックスイミング	<ul style="list-style-type: none"> ・5種目 ・テクニカルとソロの合計点数で順位が決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・11種目 ・テクニカルとフリーは別種目 ・男子ソロの種目がある

⑤アーティスティックスイミング

<概要>

期 間：2023年8月5日～8月11日(7日間)

会 場：鹿児島市鴨池公園水泳プール

選手数：16か国329人

種目数：5



3 競技備品

①競技備品の調達・管理

- ・世界水泳連盟と協議の上、大会運営に必要となる競技備品を調達した。

- ・チャンピオンシップから引き続き同じ備品を使用した。アクアドームくまもと、鴨池公園水泳プールについては福岡から備品を輸送し対応した。
- ・大会期間中は、競技備品の保守管理を行った。

調達備品（チャンピオンシップと同様）

種別	備品名称
競泳	レーンロープ、周回板、かご等
飛込	スプリングボード、審判台、ドライランド等
水球	フィールドロープ、ゴール、ボール等
アーティスティックスイミング	プラットフォーム、音響機材、iPad等
オープンウォータースイミング	ブイ、船舶、ゴールレーンロープ等
ハイダイビング	ドライランド等

→→→ Section6 その他競技関係

1 スポーツインフォメーションデスク

<概要>

- ・期間：2023年7月31日～8月11日
- ・会場：各競技会場

目的は、世界各国からの参加者、関係者に、迅速かつ正確に情報を提供することである。各競技のスタート時間や練習時間、リザルトリスト等、競技に関する情報を提供した。

<主な活動内容>

- ・スタートリスト、リザルトリスト等、競技に関する情報をリアルタイムで提供するインフォメーションデスクが運営された。
- ・4～10位の選手に対してディプロマ（賞状）の配布を行った。
- ・競泳については、リゾリューションデスクを併設し、リレーオーダーの受付を行った。

2 メダルセレモニー

<各種別で種目、年齢区分ごとに表彰式を実施した>

- ・611回の表彰式を開催
- ・1～3位入賞者にはメダル、ディプロマ（賞状）を贈呈。
- ・4～10位までの選手には、ディプロマ（賞状）をスポーツインフォメーションデスクで贈呈。

<プレゼンター>

世界水泳連盟13名、組織委員会12名
世界水泳連盟、日本マスターズ協会、熊本市、鹿児島市関係者がプレゼンターとなった。（巻末付録にプレゼンター一覧を掲載）



3 スポーツプレゼンテーション

<特徴>

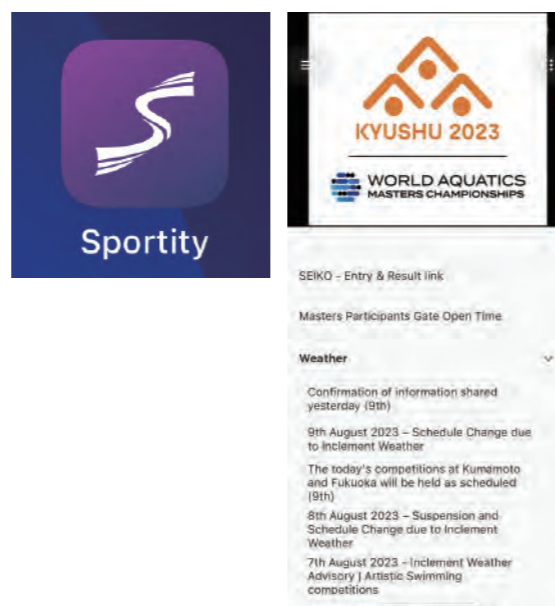
- ・マスターズ大会は選手数が非常に多いため、最も重要な点は競技が円滑に進むことである。そのため、華やかな演出はなく競技進行に重きを置いたスポーツプレゼンテーションを実施した。
- ・通告(進行アナウンサー)による、競技進行アナウンス及び大型ビジョンを利用した各種インフォメーション、会場盛り上げのためのBGMなど。



4 情報共有アプリ(Sportity)

<参加者及び関係者への情報発信について>

- ・チャンピオンシップに引き続き、大会参加者や関係者に向けた競技スケジュールやスタートリスト、会場図面などの必要情報の共有はアプリ(Sportity)を使用し、行った。
- ・アプリを使用することで、情報がアップデートされた際に、各自所有するスマートフォン等に通知される設定ができるため、情報共有の漏れが少なく大会期間中を通して、必要な情報を逐次アップデートすることによりスムーズな大会運営に大きく寄与した。
- ・台風による、競技延期の通知もアプリを通し行われ、大きな混乱がなく対応ができた。



→→→ Section7 医療サービス

1 概要

医療サービスの分野では、組織委員会は各競技会場内に医務室を設置し、選手等の大会関係者へ一次医療サービスを提供した。

また、福岡市内の医療機関と連携し、救急医療体制を構築するとともに、医務室での治療後、必要に応じて、さらなる検査や診断、治療ができる体制を確保した。

2 一次医療体制

各競技会場では、医務室とFOPに医療従事者及び支援スタッフを配置し、公式練習開始時刻から公式練習または競技終了30分後まで運営に従事した。

水球については、歯科医師を配置し、オープンウォータースイミングについては、熱中症対策として、アイスバスを2台準備した。

なお、医師については、2021年の東京オリンピックの医療業務に従事した経験豊富な医師を中心に配置し、万全を期した。

その他、全会場において、ライフガード・ライフセーバーと連携して負傷者の引き上げから搬送までの訓練を繰り返し実施するとともに、スムーズな救急搬送が可能となるよう救急隊等の関係者と搬送経路の事前確認や施設呼称の統一等を実施した。

3 二次医療体制

福岡市内8医療機関・熊本市内3医療機関・鹿児島市内1医療機関を指定医療機関とし、各医療機関の協力のもと、救急対応のほか、各競技会場医務室での治療後、さらなる検査や診断等を実施できる体制を確保した。

<指定医療機関>

(福岡市内)

- ・九州大学病院
- ・福岡大学病院
- ・国立病院機構九州医療センター
- ・済生会福岡総合病院
- ・福岡赤十字病院
- ・原三信病院
- ・福岡市民病院
- ・福岡歯科大学医科歯科総合病院

(熊本市内)

- ・国立病院機構熊本医療センター
- ・済生会熊本病院
- ・伊東歯科口腔病院

(鹿児島市内)

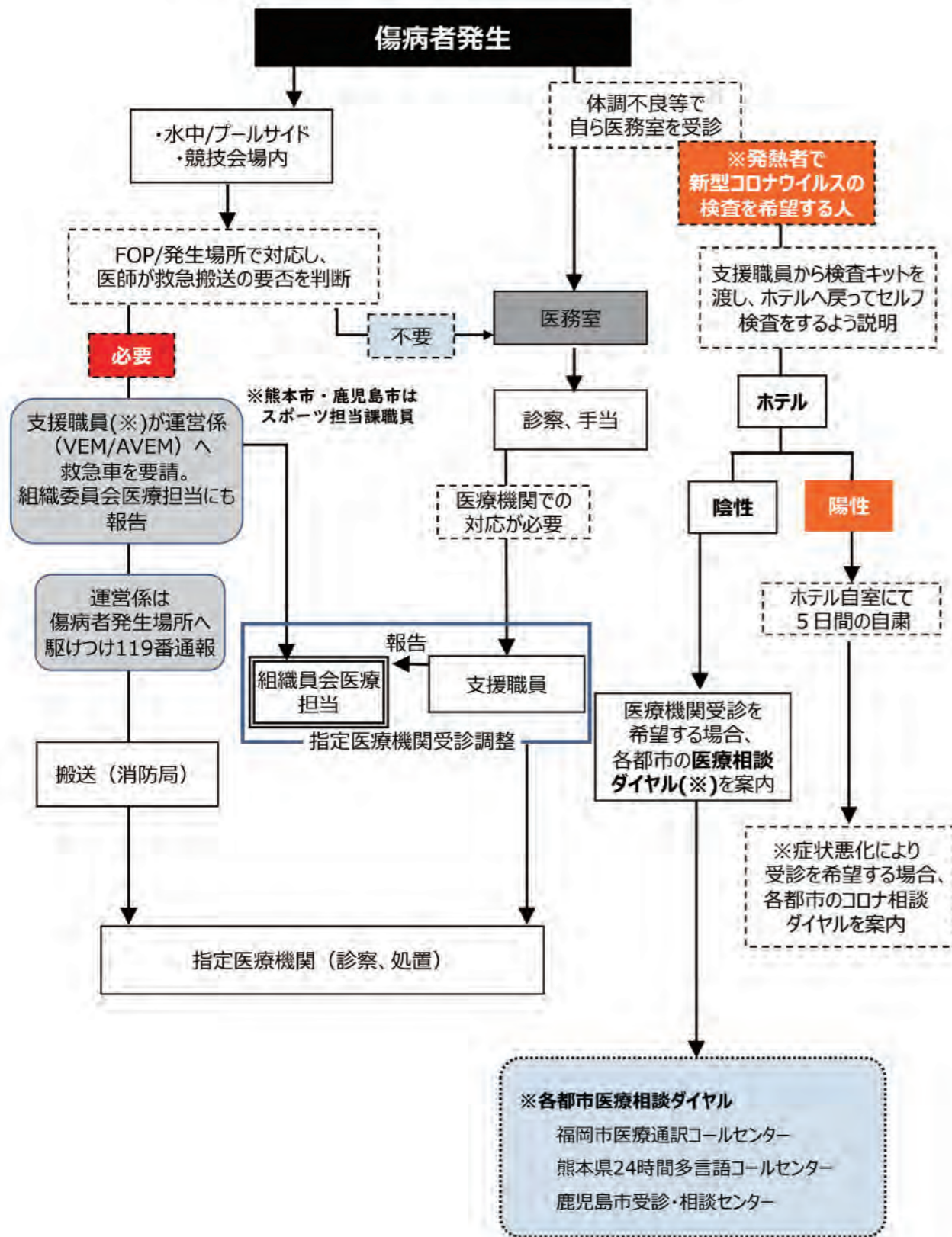
- ・鹿児島市立病院

4 新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、2023年5月8日から「5類」に引き下げされたことから、本大会では組織委員会による検査及び競技会場医務室での治療は行わないこととした。

発熱等の症状がある場合は、無料の検査キットを各競技会場医務室で配布し、自身で検査のうえ、陽性の場合、5日間の外出自粛と競技への参加自粛を要請した。

競技会場における医療救護の流れ (マスターズ大会)



各競技会場要員配置数

会場	開設期間	医師	歯科医師	看護師
マリンメッセ福岡A館	8月3～11日	3名	-	2名
西市民プール	8月3～11日	3名	-	2名
福岡県立総合プール	7月31日～8月7日	3名	-	2名
シーサイドももち海浜公園	8月1～3日	6名	-	5名
アクアドームくまもと	8月3～11日	3名	1名	2名
鴨池公園水泳プール	8月3～11日	3名	-	2名

全ての会場で組織委員会医療担当職員1名、語学ボランティア1名、さらに福岡の4会場では支援職員1名を配置した。

医療対応件数(競技・性別)

競技	女性	男性	計
競泳	82件	86件	168件
アーティスティックスイミング	26件	-	26件
水球	2件	102件	104件
飛込	24件	36件	60件
オープンウォータースイミング	11件	11件	22件
計	145件	235件	380件

重症のケース

日付	年齢	性別	会場	診断	詳細
8月1日	80歳	女	シーサイドももち	心肺停止	テクニカルミーティングの終了時に心肺停止、その場で心肺蘇生、意識は取り戻したものの、救急搬送を行った。
8月6日	84歳	男	マリンメッセ福岡A館	骨盤骨折	会場内のスロープで横転、救急搬送を行った。骨盤骨折の診断で入院となった。
8月8日	74歳	男	マリンメッセ福岡A館	心肺停止	個人メドレーの競技参加中に浮いているところを救助、その場で心肺蘇生を行いながら救急搬送を行った。その後、病院で意識を回復し、1週間後、脳に問題がないことからリハビリを開始した。

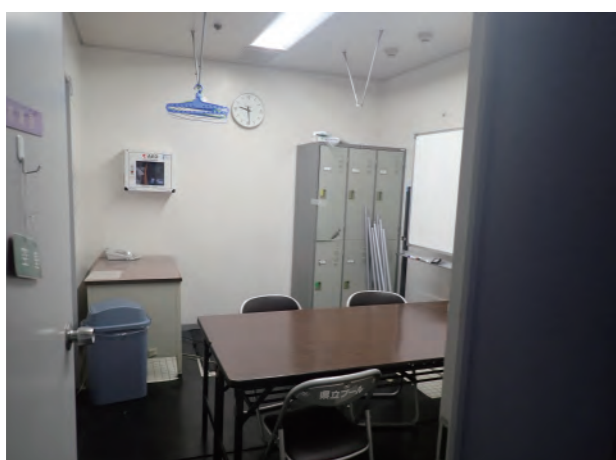
※マスターズ大会では、参加者に高齢者が多く、重症ケースが発生したことから、主なケースを掲載する。



医薬品と簡易ベッド(マリンメッセ福岡A館)



FOP※医務室(西市民プール)



感染症対策別室(県立総合プール)



FOP※医務室(シーサイドももち海浜公園)



治療のようす(アクアドームくまもと)



医務室(鴨池公園水泳プール)

※FOP(Field of Play)・・・競技エリア

→→→ Section8 セキュリティ

1 概要

世界各国からの参加者、大会関係者及び観客の安全と施設の維持並びに秩序を確保し、大会の円滑な運営を図るため、委託警備員、支援職員、ボランティアによる自主警備を行った。

2 大会警備の実施

- ・期 間：2023年7月31日～8月11日
- ・警備員数：延べ874人

競技会場の入場ゲートでは、参加者・関係者・観客を対象に手荷物検査を行い危険物の持ち込みを制限した。一部のゲートでは防犯カメラを設置し、不審者の侵入対策を行った。

参加者・大会関係者についてはADカードを確認することで、観客との区別や競技会場内の行動エリアの制限を行い、参加者の安全確保を図った。



→→→ Section9 放送(YouTube)

1 概況

各会場に撮影チームを配置し、全競技時間を通して撮影を行った(通算約177時間)。

全競技会場をカバーするために、1日最大4つの撮影チームが稼働した。

撮影した映像は、リアルタイムで世界水泳連盟のYouTubeチャンネルにて配信した。



→→→ Section10 報道

1 報道関係者への対応

マスターズ大会では、プレスセンターを設置せず、マリンメッセ福岡A館のみ、報道関係者専用のプレスワークルूमを設置し、ロッカー、インターネット有線、Wi-Fiを配備した。また、ワークルूमの一角に冷蔵庫や電子レンジ、湯沸かしポットを設置し、Nongfu Springから提供いただいた水(ペットボトル)、ヤクルトから提供いただいた飲料(ヤクルト及びその他ペットボトル飲料など)を、プレスワークルームを利用する方々に提供した。

全ての競技会場のスタンド席にメディアトリビューンを設置した。全会場ともミックスゾーン、プレスカンファレンスルーム、FOPのフォトポジションは設置せず、取材及び写真撮影はメディアトリビューンで行った。

2 報道関係者の登録について

GMSでの登録を2023年3月1日から開始し、6月28日まで申請を受け付けた。マスターズ大会においては放送関係者も「Media」での登録を行った。

海外の放送・報道関係者は世界水泳連盟が審査を行い、国内の放送・報道関係者は、組織委員会が審査を行った。

審査で承認された放送・報道関係者は、アクレディテーションセンター(博多港国際ターミナル・アクアドームくまもと・鴨池公園水泳プール)において、身分証明書(パスポートなど)との照合のうえ、アクレディテーションカードが交付された。

なお、マスターズ大会においては、フォトグラファービズの配布は行っていない。

→→→ Section11 公式写真販売サービス

競泳とオープンウォータースイミングの両競技において、プロカメラマンの撮影による競技写真を参加者向けに販売。

<対象競技>

- ・競泳(8月5～11日)
- ・オープンウォータースイミング(8月2日・3日)

<実施企業>

- ・フォトクリエイト
- ※スポンサーアクティビティとして実施

<運用方法>

- ・対象競技会場の出入口等にてチラシを配布
- ・後日、Webサイト(オールスポーツコミュニティ)にてHeat数やレーン番号を入力し購入



ALL SPORTS COMMUNITY 公式写真販売サービス オールスポーツコミュニティ

あなたの勇姿をインターネットで見られます。

【ナンバーカード(ゼッケン)の入力方法】

- 1. 最初の1桁に種別番号
- 2. 選手 000000 自由泳-1
- 3. 女子 000000 自由泳-2
- 4. 2桁目の1桁に出場したレーン番号
- 5. レーン-1
- 6. レーン-2
- 7. 最後の3桁に出場したHeat番号
- 8. 1番に出場した場合は001
- 9. 2番目に出場した場合は002

例) 男子 0000 自由泳の1レーンで1番目に出場した場合 →「1001」

世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会(8/5 競泳)

あなたの写真を見る方法!!

パソコンから
検索サイトなどでオールスポーツコミュニティを検索し、
「オールスポーツ」をクリックしてください。

スマートフォンから
写真公開QRコードを
読み込んでアクセス

イベントID E1404050 で検索します。

ナンバーカード(ゼッケン)番号 ●●●●●● を入力します。

写真を見ることができます。買に入った写真は、ご購入いただけます。

注文期限は 2023年10月25日(水)24:00 まで。

株式会社フォトクリエイト 090-1743-5272 090-3600-6607 support@photocreate.co.jp



→→→ Section12 ファンゾーン

1 福岡

- ・開催期間：2023年8月5～11日
- ・場 所：マリンメッセ駐車場
- ・内 容：キッチンカーや飲食ブースが16店、スポンサーブースが4店、オフィシャルショップが出展
この他チャンピオンシップに引き続き博多祇園山笠を設置



2 熊本

- ・開催期間：2023年8月3～11日
- ・場 所：熊本市総合屋内プール(アクアドームくまもと)敷地
- ・内 容：インフォメーション・観光案内、グッズ販売、フード・ドリンク販売



3 鹿児島

- ・開催期間：2023年8月5・11日
※6日からは台風の影響で会場外敷地での販売を中止
6・7・10・11日は会場内で飲料水販売、11日は会場敷地内で開催
- ・場 所：鴨池公園水泳プール敷地
- ・内 容：観光案内、グッズ販売、フード・ドリンク販売



→→→ Section13 台風6号(カーヌン)による大会の延期

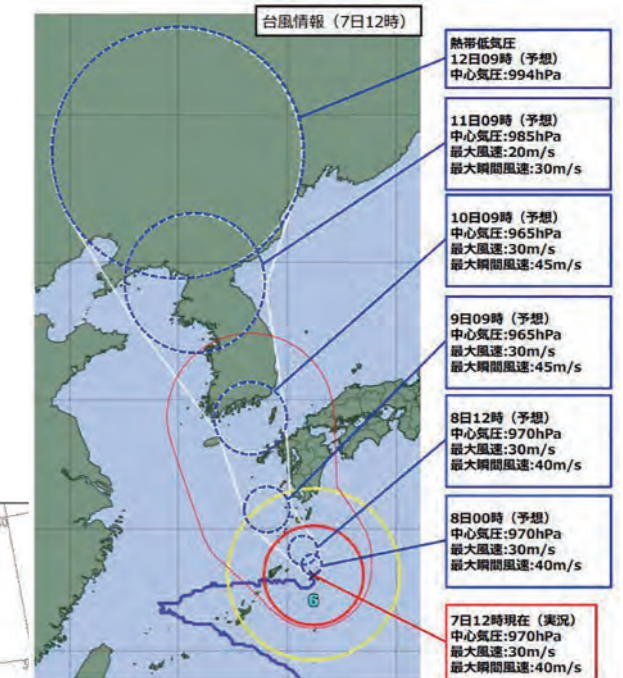
台風6号の影響により大会競技スケジュールの延期や変更が発生した。台風の進路や速度により各開催都市での影響が異なるため、各都市への影響を大会運営本部にてモニタリングを実施しながら、各開催都市や世界水泳連盟との協議を実施し、影響が最小化されるよう開催の当日の朝まで気象情報や公共交通の運行情報等を考慮したうえで、最終判断を行った。参加者には、大会の延期やスケジュールの変更に関する情報をアプリやホームページ、SNSにより情報発信を行い、全ての競技種目を実施した。

- ・8月8日【通知】
悪天候による競技延期及びスケジュールの変更について(9日実施分)
アーティスティックスイミング：延期
(競技スケジュールの変更を公表※10・11日分)
水球：スケジュールの一部変更
競泳：変更なし
- ・8月9日【通知】
悪天候による競技スケジュールの一部変更について(10日実施分)
アーティスティックスイミング・水球：変更なし
競泳：スケジュール変更

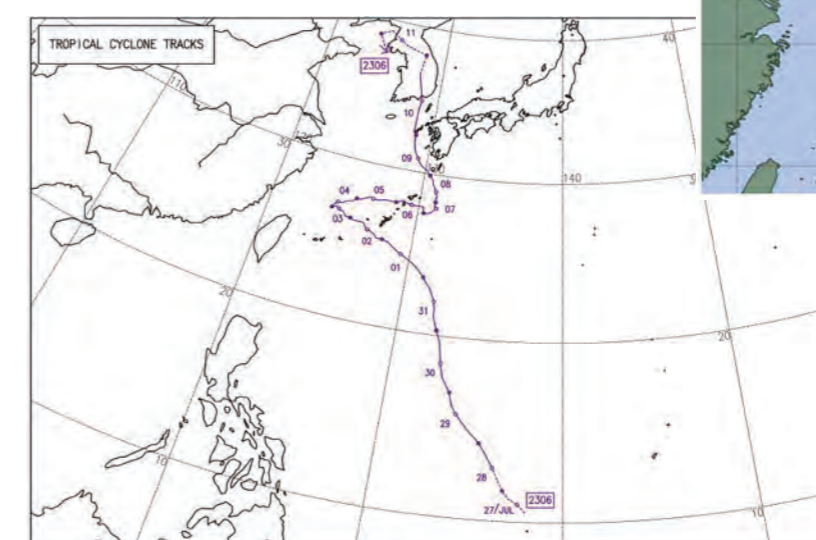
<台風対応>

- ・8月6日【通知】
台風接近に伴う競技日程変更の可能性について
- ・8月7日【通知】
台風情報更新
(7日は全競技を予定通り実施)
【通知】
悪天候によるアーティスティックスイミング競技延期について(8日実施分)
アーティスティックスイミング：延期
競泳・水球：予定通り実施

台風情報(8月7日12時時点)



台風6号経路図



(気象庁ホームページより引用)

→→→ Section14 マスターズの成果

1 国内の水泳愛好家にとって、国際大会を経験し、グローバルネットワークを構築する機会の提供

- ・このイベントは、九州で開催されたため、これまで国際大会に参加できなかった日本の水泳愛好家4,626人が登録した。その結果、彼らは、日本国内でありながら、世界で最も権威のある大会の一つとして認知されている世界マスターズ水泳選手権に参加することで、国際大会の経験を積むことができた。
- ・マスターズ水泳選手権の準備期間および大会期間中、日本選手は世界中のスイミングクラブのメンバーとグローバルなネットワークを形成した。

2 福岡市・熊本市・鹿児島市としての成果

- ・マスターズ水泳選手権を開催することで、福岡市はグローバルな能力をもつ人材や国際的なイベントの経験を有する人材を獲得することができた。その人材は、運営スタッフ、審判員、競技役員、ボランティアなど多岐にわたっている。
- ・ボランティア、市民サポーター、地域住民の積極的な参加とコミットメントにより、開催都市としての能力が強化された。
- ・YouTubeの世界水泳連盟公式チャンネルで全種目の競技をライブ中継した。累計約50万人が視聴し、開催都市としての認知度向上に貢献した。

3 福岡市・熊本市・鹿児島市における地域活性化

- ・マスターズ水泳選手権には国内外から7,512人が参加し、消費拡大による地域経済の活性化に貢献した。
- ・マスターズ参加選手は、自費で大会に参加し、宿泊や観光、街中での買い物など、地域で消費活動を行った。
- ・多くのマスターズ参加者が、市街地の宿泊施設に宿泊し、周辺地域の飲食店を利用した。参加者は、家族・友人等の同行者も多く連れてきており、開催都市だけでなく、九州内での経済活性化に貢献した。

4 運営からの収入

登録料および参加料収入により164,993千円の収益を計上

- ・登録料収入 102,157千円
- ・参加費収入 68,354千円
- ・事務手数料 △5,518千円

単位：千円

	金額
総計	164,993
登録料	102,157
参加料収入	68,354
競泳	54,958
飛込	2,931
アーティスティックスイミング	1,269
水球	2,723
オープンウォータースイミング	6,473
事務手数料	△ 5,518



Chapter 10



ボランティア

→→→ Section1 募集と管理

本大会の開催を成功に導いたのは、大会運営を支えてくれた多くのボランティアのおかげである。

新型コロナウイルス感染拡大による2度の延期にもかかわらず大会には延べ約12,500名と数多くのボランティアに参加いただいた。

ボランティアの業務は多岐にわたったが、参加者は明るく

積極的に業務に取り組み大会を裏側で支え続けてくれた。ボランティアの参加者全員がチームワークを発揮し、大会の顔として心のこもった素晴らしいおもてなしを行ってくれたおかげで、スタッフ同士の絆が深く、素晴らしい大会となった。

1 ボランティアについて

1 募集

・基本的な募集要項

1日最長8時間程度

活動期間中原則4日以上参加

応募時点で満15歳以上

日本語でのコミュニケーション(日常会話・読み書き)が可能な方

新型コロナウイルス感染拡大による延期に伴い、

募集は2度にわたって行われた。

【第1回募集】

・期 間：2021年8月30日～11月19日

・申 込：ボランティアサイトに応募ページを開設し、Web申込

・募集人数：約5,000～6,000名

【第2回追加募集】

・期 間：2022年8月29日～11月30日

・申 込：同上

・募集人数：約2,000名

<ボランティア参加人数>

総参加人数：3,228名(延べ12,323名)

一般ボランティア：2,113名

語学ボランティア：1,115名

一般応募とは別に各大学・専門学校、企業様など合計13団体からも計696名のボランティアにご協力いただいた。

2 語学チェック

語学ボランティア(英語)を希望の方には、今後の配置の参考のため、ネイティブスピーカーによるオンライン形式の会話式英語インタビューを行い、レベル分けを行った。

3 説明会動画視聴

参加者全員に大会概要やボランティアの活動内容などの説明動画を視聴いただき、大会や活動に対する気運醸成や世界水泳に関する知識向上を図った。

4 配置

参加者全員に参加希望日数、希望の活動内容のアンケートを実施し、できるだけ参加者の希望に沿った配置となるよう、マッチングを行った。



5 研修

研修はボランティア全員に共通する事項を説明する共通研修と、それぞれの活動内容によって異なる業務別研修の2回の研修を実施した。

共通研修は遠方のボランティア参加者も考慮し、オンライン形式で行った。研修では大会概要やボランティアの心構えなど世界水泳の基本事項を説明した。

業務別研修は活動内容の理解を深めるために、各開催都市で活動内容ごとに研修を行った。同時に参加者へ公式ユニフォームやADカードを配付した。



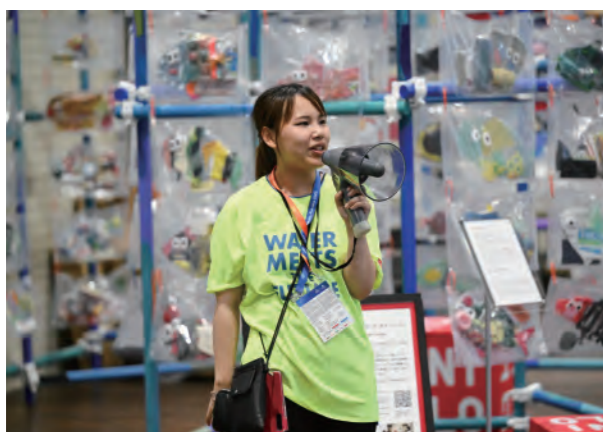
6 活動

期 間：2023年7月7日～8月11日

活動内容：案内・誘導、入場ゲート、輸送・交通サポート、メディア対応、ホテル、インフォメーション、ADセンター、ユニフォームセンター、式典サポートなど18種類の活動を行った。

活動場所：競技会場、練習会場、宿泊ホテル、IBC、各交通拠点など





2 サポートスタッフ

・サポートスタッフとして多くの開催市職員、福岡県職員にも選手権大会、マスターズ大会の運営に参加いただいた。

【動員人数】

福岡県職員：約660名(延べ約750名)

福岡市職員：約4,150名(延べ約6,600名)

熊本市職員：約380名(延べ約700名)

鹿児島市職員：約20名(延べ約40名)

3 人材管理

【ボランティアの管理・運営】

・ボランティアの募集から大会期間中の運営・管理についてはボランティア事務局が行った。

【ボランティアサイト及びマイページの制作】

・ボランティアの募集やお知らせは独自のボランティアサイトを制作し、参加者各個人にはマイページを作り、いつでもボランティアに関する情報が閲覧できるようにした。

【出退勤管理】

・ボランティアの出退勤管理はスマートフォンやタブレットなど電子機器で簡易的にできるように管理することで煩雑性の改善や正確性の向上につなげた。

▼ボランティアスケジュール



▼各活動内容別ボランティア参加人数

案内・誘導	インフォメーション	ユニフォームセンター	VIP	入場ゲート	ADセンター	メディア	輸送・交通
1,113名	84名	13名	14名	1,648名	297名	635名	1,488名
宿泊施設	式典	IBC	Fukuoka Ichiba (ファンゾーン)	スポーツインフォメーション	写真撮影	マスコット	
949名	85名	30名	136名	70名	27名	96名	

Section2 参加特典

1 提供品

- ・1回あたり500円分相当のイオン九州ギフトカードを支給
- ・ユニフォーム：Tシャツ(2枚)、ウインドブレーカー、ナップサック
- ・傷害保険一括加入

2 参加証明書の発行

- ・希望者へは選手権終了後に参加証明書を発行した。



Section3 ボランティアレガシー

本大会のコンセプト「WATER MEETS THE FUTURE」は見る人を感動させるだけでなく、大会に関わる全ての人に様々な形で何かに対して第一歩を踏み出すきっかけを提供する「人を動かす大会」へと進化し、「人々の明るく健康的な未来」を大会レガシーとして残すことを目指すという意味が込められていた。

このコンセプトを実現するため、年齢・性別・国籍・障がいの有無にかかわらず様々な方に世界水泳を通じて新たな未来に出会っていただきたいと考え、幅広くボランティアを募集することで垣根を超えた交流の場や世界水泳ボラン

ティアのチームワークの創出、新たな活躍の場を見出すことができ、今後のスポーツボランティアの普及に貢献した大会となった。

世界水泳で培ったボランティアのおもてなしの精神や、ノウハウを福岡市のスポーツ大会やイベント等で活かせるよう「福岡市スポーツボランティアバンク」を設置し、世界水泳ボランティアを継承していくこととした。

世界水泳選手権
2023福岡大会
運営スタッフ



ハイダイビング



オープンウォータースイミング(福岡)

世界マスターズ
水泳選手権
2023九州大会
運営スタッフ



オープンウォータースイミング



水球



水球(熊本)



アーティスティックスイミング



飛込



アーティスティックスイミング(鹿児島)



競泳



♥ Fukuoka Family - Friends Forever ♥



【選手権中の記録】

	Event	Athlete(Country)	Record	Date
World Records	Women 50m Freestyle	Sarah SJOESTROEM(SWE)	23.61	29 July-Semifinal2
	Women 200m Freestyle	Mollie O'CALLAGHAN(AUS)	1:52.85	26 July-Final
	Women 400m Freestyle	Ariarne TITMUS(AUS)	3:55.38	23 July-Final
	Women 50m Breaststroke	Ruta MEILUTYTE(LTU)	29.30	29 July-Semifinal2
	Women 50m Breaststroke	Ruta MEILUTYTE(LTU)	29.16	30 July-Final
	Women 4x100m Freestyle Relay	Team AUS	3:27.96	23 July-Final
	Women 4x200m Freestyle Relay	Team AUS	7:37.50	27 July-Final
	Men 200m Breaststroke	Haiyang QIN(CHN)	2:05.48	28 July-Final
	Men 400m Medley	Leon MARCHAND(FRA)	4:02.50	23 July-Final
	Mixed 4x100m Freestyle Relay	Team AUS	3:18.83	29 July-Final
Championship Records	Women 50m Freestyle	Sarah SJOESTROEM(SWE)	23.61	29 July-Semifinal2
	Women 200m Freestyle	Mollie O'CALLAGHAN(AUS)	1:52.85	26 July-Final
	Women 400m Freestyle	Ariarne TITMUS(AUS)	3:55.38	23 July-Final
	Women 100m Backstroke	Kaylee MCKEOWN(AUS)	57.53	25 July-Final
	Women 50m Breaststroke	Ruta MEILUTYTE(LTU)	29.30	29 July-Semifinal2
	Women 50m Breaststroke	Ruta MEILUTYTE(LTU)	29.16	30 July-Final
	Women 400m Medley	Summer MCINTOSH(CAN)	4:27.11	30 July-Final
	Women 4x100m Freestyle Relay	Team AUS	3:27.96	23 July-Final
	Women 4x200m Freestyle Relay	Team AUS	7:37.50	27 July-Final
	Men 1500m Freestyle	Ahmed HAFNAOUI(TUN)	14:31.54	30 July-Final
	Men 200m Breaststroke	Haiyang QIN(CHN)	2:05.48	28 July-Final
	Men 400m Medley	Leon MARCHAND(FRA)	4:02.50	23 July-Final
	Men 4x100m Medley Relay	Team USA	3:27.20	30 July-Final
	Mixed 4x100m Freestyle Relay	Team AUS	3:18.83	29 July-Final



SWIMMING 【競技結果 競泳】

Event	Medal	Country	Athlete	Time
Women 50m Freestyle	Gold	SWE	Sarah SJOESTROEM	23.62
	Silver	AUS	Shayna JACK	24.10
	Bronze	CHN	Yufei ZHANG	24.15
Women 100m Freestyle	Gold	AUS	Mollie O'CALLAGHAN	52.16
	Silver	HKG	Siobhan Bernadette HAUGHEY	52.49
	Bronze	NED	Marrit STEENBERGEN	52.71
Women 200m Freestyle	Gold	AUS	Mollie O'CALLAGHAN	1:52.85(WR)
	Silver	AUS	Ariarne TITMUS	1:53.01
	Bronze	CAN	Summer MCINTOSH	1:53.65
Women 400m Freestyle	Gold	AUS	Ariarne TITMUS	3:55.38(WR)
	Silver	USA	Katie LEDECKY	3:58.73
	Bronze	NZL	Erika FAIRWEATHER	3:59.59
Women 800m Freestyle	Gold	USA	Katie LEDECKY	8:08.87
	Silver	CHN	Bingjie LI	8:13.31
	Bronze	AUS	Ariarne TITMUS	8:13.59
Women 1500m Freestyle	Gold	USA	Katie LEDECKY	15:26.27
	Silver	ITA	Simona QUADARELLA	15:43.31
	Bronze	CHN	Bingjie LI	15:45.71

Event	Medal	Country	Athlete	Time
Women 50m Backstroke	Gold	AUS	Kaylee MCKEOWN	27.08
	Silver	USA	Regan SMITH	27.11
	Bronze	GBR	Lauren COX	27.20
Women 100m Backstroke	Gold	AUS	Kaylee MCKEOWN	57.53(CR)
	Silver	USA	Regan SMITH	57.78
	Bronze	USA	Katharine BERKOFF	58.25
Women 200m Backstroke	Gold	AUS	Kaylee MCKEOWN	2:03.85
	Silver	USA	Regan SMITH	2:04.94
	Bronze	CHN	Xuwei PENG	2:06.74
Women 50m Breaststroke	Gold	LTU	Ruta MEILUTYTE	29.16(WR)
	Silver	USA	Lilly KING	29.94
	Bronze	ITA	Benedetta PILATO	30.04
Women 100m Breaststroke	Gold	LTU	Ruta MEILUTYTE	1:04.62
	Silver	RSA	Tatjana SCHOENMAKER	1:05.84
	Bronze	USA	Lydia JACOBY	1:05.94
Women 200m Breaststroke	Gold	RSA	Tatjana SCHOENMAKER	2:20.80
	Silver	USA	Kate DOUGLASS	2:21.23
	Bronze	NED	Tes SCHOUTEN	2:21.63
Women 50m Butterfly	Gold	SWE	Sarah SJOESTROEM	24.77
	Silver	CHN	Yufei ZHANG	25.05
	Bronze	USA	Gretchen WALSH	25.46
Women 100m Butterfly	Gold	CHN	Yufei ZHANG	56.12
	Silver	CAN	Margaret MACNEIL	56.45
	Bronze	USA	Torri HUSKE	56.61
Women 200m Butterfly	Gold	CAN	Summer MCINTOSH	2:04.06
	Silver	AUS	Elizabeth DEKKERS	2:05.46
	Bronze	USA	Regan SMITH	2:06.58
Women 200m Medley	Gold	USA	Kate DOUGLASS	2:07.17
	Silver	USA	Alex WALSH	2:07.97
	Bronze	CHN	Yiting YU	2:08.74

Event	Medal	Country	Athlete	Time
Women 400m Medley	Gold	CAN	Summer MCINTOSH	4:27.11(CR)
	Silver	USA	Katie GRIMES	4:31.41
	Bronze	AUS	Jenna FORRESTER	4:32.30
Women 4x100m Freestyle Relay	Gold	AUS	Mollie O'CALLAGHAN Shayna JACK Meg HARRIS Emma MCKEON	3:27.96(WR)
	Silver	USA	Gretchen WALSH Abbey WEITZEI Olivia SMOLIGA Kate DOUGLASS	3:31.93
	Bronze	CHN	Yujie CHENG Junxuan YANG Qingfeng WU Yufei ZHANG	3:32.40
Women 4x200m Freestyle Relay	Gold	AUS	Mollie O'CALLAGHAN Shayna JACK Brianna THROSSELL Ariarne TITMUS	7:37.50(WR)
	Silver	USA	Erin GEMMELL Katie LEDECKY Bella SIMS Alex SHACKELL	7:41.38
	Bronze	CHN	Bingjie LI Jiaping LI Yanhan AI Yaxin LIU	7:44.40
Women 4x100m Medley Relay	Gold	USA	Regan SMITH Lilly KING Gretchen WALSH Kate DOUGLASS	3:52.08
	Silver	AUS	Kaylee MCKEOWN Abbey HARKIN Emma MCKEON Mollie O'CALLAGHAN	3:53.37
	Bronze	CAN	Kylie MASSE Sophie ANGUS Margaret MACNEIL Summer MCINTOSH	3:54.12

Event	Medal	Country	Athlete	Time
Men 50m Freestyle	Gold	AUS	Cameron MCEVOY	21.06
	Silver	USA	Jack ALEXY	21.57
	Bronze	GBR	Benjamin PROUD	21.58
Men 100m Freestyle	Gold	AUS	Kyle CHALMERS	47.15
	Silver	USA	Jack ALEXY	47.31
	Bronze	FRA	Maxime GROUSSET	47.42
Men 200m Freestyle	Gold	GBR	Matthew RICHARDS	1:44.30
	Silver	GBR	Tom DEAN	1:44.32
	Bronze	KOR	Sunwoo HWANG	1:44.42
Men 400m Freestyle	Gold	AUS	Samuel SHORT	3:40.68
	Silver	TUN	Ahmed HAFNAOUI	3:40.70
	Bronze	GER	Lukas MARTENS	3:42.20
Men 800m Freestyle	Gold	TUN	Ahmed HAFNAOUI	7:37.00
	Silver	AUS	Samuel SHORT	7:37.76
	Bronze	USA	Bobby FINKE	7:38.67
Men 1500m Freestyle	Gold	TUN	Ahmed HAFNAOUI	14:31.54(CR)
	Silver	USA	Bobby FINKE	14:31.59
	Bronze	AUS	Samuel SHORT	14:37.28
Men 50m Backstroke	Gold	USA	Hunter ARMSTRONG	24.05
	Silver	USA	Justin RESS	24.24
	Bronze	CHN	Jiayu XU	24.50
Men 100m Backstroke	Gold	USA	Ryan MURPHY	52.22
	Silver	ITA	Thomas CECCON	52.27
	Bronze	USA	Hunter ARMSTRONG	52.58
Men 200m Backstroke	Gold	HUN	Hubert KOS	1:54.14
	Silver	USA	Ryan MURPHY	1:54.83
	Bronze	SUI	Roman MITYUKOV	1:55.34
Men 50m Breaststroke	Gold	CHN	Haiyang QIN	26.29
	Silver	USA	Nic FINK	26.59
	Bronze	CHN	Jiajun SUN	26.79

Event	Medal	Country	Athlete	Time
Men 100m Breaststroke	Gold	CHN	Haiyang QIN	57.69
	Silver	ITA	Nicolo MARTINENGI	58.72
	Silver	NED	Arno KAMMINGA	58.72
	Silver	USA	Nic FINK	58.72
Men 200m Breaststroke	Gold	CHN	Haiyang QIN	2:05.48(WR)
	Silver	AUS	Zac STUBBLETY-COOK	2:06.40
	Bronze	USA	Matt FALLON	2:07.74
Men 50m Butterfly	Gold	ITA	Thomas CECCON	22.68
	Silver	POR	Diogo MATOS RIBEIRO	22.80
	Bronze	FRA	Maxime GROUSSET	22.82
Men 100m Butterfly	Gold	FRA	Maxime GROUSSET	50.14
	Silver	CAN	Josh LIENDO	50.34
	Bronze	USA	Dare ROSE	50.46
Men 200m Butterfly	Gold	FRA	Leon MARCHAND	1:52.43
	Silver	POL	Krzysztof CHMIELEWSKI	1:53.62
	Bronze	JPN	Tomoru HONDA	1:53.66
Men 200m Medley	Gold	FRA	Leon MARCHAND	1:54.82
	Silver	GBR	Duncan SCOTT	1:55.95
	Bronze	GBR	Tom DEAN	1:56.07
Men 400m Medley	Gold	FRA	Leon MARCHAND	4:02.50(WR)
	Silver	USA	Carson FOSTER	4:06.56
	Bronze	JPN	Daiya SETO	4:09.41
Men 4x100m Freestyle Relay	Gold	AUS	Jack CARTWRIGHT Flynn SOUTHAM Kai James TAYLOR Kyle CHALMERS	3:10.16
	Silver	ITA	Alessandro MIRESSI Manuel FRIGO Lorenzo ZAZZERI Thomas CECCON	3:10.49
	Bronze	USA	Ryan HELD Jack ALEXY Chris GUILIANO Matt KING	3:10.81

Event	Medal	Country	Athlete	Time
Men 4x200m Freestyle Relay	Gold	GBR	Duncan SCOTT Matthew RICHARDS James GUY Tom DEAN	6:59.08
	Silver	USA	Luke HOBSON Carson FOSTER Jake MITCHELL Kieran SMITH	7:00.02
	Bronze	AUS	Kai James TAYLOR Kyle CHALMERS Alexander GRAHAM Thomas NEILL	7:02.13
Men 4x100m Medley Relay	Gold	USA	Ryan MURPHY Nic FINK Dare ROSE Jack ALEXY	3:27.20(CR)
	Silver	CHN	Jiayu XU Haiyang QIN Changhao WANG Zhanle PAN	3:29.00
	Bronze	AUS	Bradley WOODWARD Zac STUBBLETY-COOK Matthew TEMPLE Kyle CHALMERS	3:29.62
Mixed 4x100m Freestyle Relay	Gold	AUS	Jack CARTWRIGHT Kyle CHALMERS Shayna JACK Mollie O'CALLAGHAN	3:18.83(WR)
	Silver	USA	Jack ALEXY Matt KING Abbey WEITZEIL Kate DOUGLASS	3:20.82
	Bronze	GBR	Matthew RICHARDS Duncan SCOTT Anna HOPKIN Freya ANDERSON	3:21.68
Mixed 4x100m Medley Relay	Gold	CHN	Jiayu XU Haiyang QIN Yufei ZHANG Yujie CHENG	3:38.57
	Silver	AUS	Kaylee MCKEOWN Zac STUBBLETY-COOK Matthew TEMPLE Shayna JACK	3:39.03
	Bronze	USA	Ryan MURPHY Nic FINK Torri HUSKE Kate DOUGLASS	3:40.19



DIVING 【競技結果 飛込】

Event	Medal	Country	Athlete
Women 1m Springboard	Gold	CHN	Shan LIN
	Silver	CHN	Yajie LI
	Bronze	MEX	Aranza VAZQUEZ MONTANO
Women 3m Springboard	Gold	CHN	Yiwen CHEN
	Silver	CHN	Yani CHANG
	Bronze	CAN	Pamela WARE
Women 3m Synchronised	Gold	CHN	Yani CHANG Yiwen CHEN
	Silver	GBR	Scarlett MEW JENSEN Yasmin HARPER
	Bronze	ITA	Chiara PELLACANI Elena BERTOCCHI
Women 10m Synchronised	Gold	CHN	Yuxi CHEN Hongchan QUAN
	Silver	GBR	Andrea SPENDOLINI SIRIEIX Lois TOULSON
	Bronze	USA	Delaney SCHNELL Jessica PARRATTO
Women 10m Platform	Gold	CHN	Yuxi CHEN
	Silver	CHN	Hongchan QUAN
	Bronze	CAN	Caeli MCKAY
Men 1m Springboard	Gold	CHN	Jianfeng PENG
	Silver	MEX	Osmar OLVERA IBARRA
	Bronze	CHN	Jiuyuan ZHENG

Event	Medal	Country	Athlete
Men 3m Springboard	Gold	CHN	Zongyuan WANG
	Silver	MEX	Osmar OLVERA IBARRA
	Bronze	CHN	Daoyi LONG
Men 3m Synchronised	Gold	CHN	Zongyuan WANG Daoyi LONG
	Silver	GBR	Jack LAUGHER Anthony HARDING
	Bronze	FRA	Jules BOUYER Alexis JANDARD
Men 10m Synchronised	Gold	CHN	Junjie LIAN Hao YANG
	Silver	UKR	Oleksii SEREDA Kirill BOLIUKH
	Bronze	MEX	Kevin BERLIN REYES Randal WILLARS VALDEZ
Men 10m Platform	Gold	AUS	Cassiel ROUSSEAU
	Silver	CHN	Junjie LIAN
	Bronze	CHN	Hao YANG
Mixed 3m Synchronised	Gold	CHN	Shan LIN Zifeng ZHU
	Silver	AUS	Maddison KEENEY Domonic BEDGGOOD
	Bronze	ITA	Chiara PELLACANI Matteo SANTORO
Mixed 10m Synchronised	Gold	CHN	Jiaqi ZHANG Feilong WANG
	Silver	MEX	Viviana DEL ANGEL PENICHE Jose BALLEZA ISAIAS
	Bronze	JPN	Minami ITAHASHI Hiroki ITO
	Gold	CHN	Yuming BAI Minjie ZHANG Jiuyuan ZHENG Yajie SI
Mixed 3m & 10m Team	Silver	MEX	Gabriela AGUNDEZ GARCIA Jahir OCAMPO MARROQUIN Randal WILLARS VALDEZ Aranza VAZQUEZ MONTANO
	Bronze	GER	Christina WASEN Moritz WESEMANN Lena HENTSCHE Timo BARTHEL



HIGH DIVING 【競技結果 ハイダイビング】

Event	Medal	Country	Athlete
Women 20m	Gold	AUS	Rhiannan IFFLAND
	Silver	CAN	Molly CARLSON
	Bronze	CAN	Jessica MACAULAY
Men 27m	Gold	ROU	Constantin POPOVICI
	Silver	ROU	Catalin-Petru PREDA
	Bronze	FRA	Gary HUNT



WATER POLO 【競技結果 水球】

Rank	Women	Country	Men	Country
1	Gold	NED	Gold	HUN
2	Silver	ESP	Silver	GRE
3	Bronze	ITA	Bronze	ESP
4		AUS		SRB
5		USA		ITA
6		HUN		FRA
7		CAN		USA
8		GRE		MNE
9		FRA		CRO
10		ISR		AUS
11		NZL		JPN
12		RSA		CAN
13		CHN		ARG
14		JPN		KAZ
15		KAZ		CHN
16		ARG		RSA



ARTISTIC SWIMMING 【競技結果 アーティスティックスイミング】

Event	Medal	Country	Athlete
Women Solo Technical	Gold	JPN	Yukiko INUI
	Silver	AUT	Vasiliki ALEXANDRI
	Bronze	ESP	Iris TIO CASAS
Women Solo Free	Gold	JPN	Yukiko INUI
	Silver	AUT	Vasiliki ALEXANDRI
	Bronze	GBR	Kate SHORTMAN
Women Duet Technical	Gold	JPN	Moe HIGA Mashiro YASUNAGA
	Silver	ITA	Linda CERRUTI Lucrezia RUGGIERO
	Bronze	ESP	Alisa OZHOGINA OZHOGIN Iris TIO CASAS
Women Duet Free	Gold	AUT	Anna-Maria ALEXANDRI Eirini-Marina ALEXANDRI
	Silver	CHN	Liuyi WANG Qianyi WANG
	Bronze	JPN	Moe HIGA Mashiro YASUNAGA

Event	Medal	Country	Athlete
Men Solo Technical	Gold	ESP	Fernando DIAZ DEL RIO SOTO
	Silver	USA	Kenneth GAUDET
	Bronze	KAZ	Eduard KIM
Men Solo Free	Gold	ESP	Dennis GONZALEZ BONEU
	Silver	COL	Gustavo SANCHEZ
	Bronze	USA	Kenneth GAUDET
Mixed Duet Technical	Gold	JPN	Tomoka SATO Yotaro SATO
	Silver	ESP	Emma GARCIA Dennis GONZALEZ BONEU
	Bronze	CHN	Wentao CHENG Haoyu SHI
Mixed Duet Free	Gold	CHN	Wentao CHENG Haoyu SHI
	Silver	MEX	Itzamary GONZALEZ CUELLAR Diego VILLALOBOS CARRILLO
	Bronze	ESP	Dennis GONZALEZ BONEU Mireia HERNANDEZ LUNA
Acrobatic Routine	Gold	CHN	Hao CHANG Wentao CHENG Yu FENG Haoyu SHI Ciyue WANG Binxuan XIANG Yanning XIAO Yayi ZHANG
	Silver	USA	Anita ALVAREZ Jaime CZARKOWSKI Nicole Malina DZURKO Keana HUNTER Audrey KWON Calista LIU Bill MAY Daniella RAMIREZ
	Bronze	JPN	Moka FUJII Ikoi HIROTA Moeka KIJJIMA Tomoka SATO Yotaro SATO Hikari SUZUKI Akane YANAGISAWA Megumu YOSHIDA

Event	Medal	Country	Athlete
Team Technical	Gold	ESP	Cristina ARAMBULA CASARES Marina GARCIA POLO Meritxell MAS PUJADAS Alisa OZHOGINA OZHOGIN Paula RAMIREZ IBANEZ Sara SALDANA LOPEZ Iris TIO CASAS Blanca TOLEDANO LAUT
	Silver	ITA	Linda CERRUTI Marta IACOACCI Sofia MASTROIANNI Enrica PICCOLI Lucrezia RUGGIERO Isotta SPORTELLI Giulia VERNICE Francesca ZUNINO
	Bronze	USA	Anita ALVAREZ Jaime CZARKOWSKI Megumi FIELD Audrey KWON Jacklyn LUU Daniella RAMIREZ Ruby REMATI Natalia VEGA
Team Free	Gold	CHN	Hao CHANG Yu FENG Ciyue WANG Liuyi WANG Qianyi WANG Binxuan XIANG Yanning XIAO Yayi ZHANG
	Silver	JPN	Moe HIGA Moeka KIJJIMA Uta KOBAYASHI Ayano SHIMADA Ami WADA Akane YANAGISAWA Mashiro YASUNAGA Megumu YOSHIDA
	Bronze	UKR	Maryna ALEKSIIVA Vladyslava ALEKSIIVA Marta FIEDINA Veronika HRYSHKO Daria MOSHYNSKA Anhelina OVCHYNNIKOVA Anastasiia SHMONINA Valeriya TYSHCHENKO



OPEN WATER SWIMMING 【競技結果 オープンウォータースイミング】

Event	Medal	Country	Athlete
Women 5km	Gold	GER	Leonie BECK
	Silver	NED	Sharon VAN ROUWENDAAL
	Bronze	BRA	Ana Marcela CUNHA
Women 10km	Gold	GER	Leonie BECK
	Silver	AUS	Chelsea GUBECKA
	Bronze	USA	Katie GRIMES
Men 5km	Gold	GER	Florian WELLBROCK
	Silver	ITA	Gregorio PALTRINIERI
	Bronze	ITA	Domenico ACERENZA
Men 10km	Gold	GER	Florian WELLBROCK
	Silver	HUN	Kristof RASOVSKY
	Bronze	GER	Oliver KLEMET
Mixed 4x1500m	Gold	ITA	Barbara POZZOBON Ginevra TADDEUCCI Domenico ACERENZA Gregorio PALTRINIERI
	Silver	HUN	Bettina FABIAN Anna OLASZ Kristof RASOVSKY David BETLEHEM
	Bronze	AUS	Chelsea GUBECKA Moesha JOHNSON Nicholas SLOMAN Kyle LEE

3 プレゼンターリスト

【チャンピオンシップ】

DATE	SPORT	EVENT	RANK	NAME	TITLE
7/15	OWS	W 10km	–	Mr. Brent J. Nowicki	World Aquatics Executive Director
			GOLD	Mr. Toshikazu Umatate	Nikon President
	DV	X 10m Synchro	SILVER	Mr. Antonio Silva	World Aquatics Vice President
			BRONZE	Ms. Ayako Kobayashi	Director General, Fukuoka Prefectural Government
	DV	W 1m	–	Mr. Dale Neuburger	World Aquatics Treasurer
			GOLD	Ms. Jihong Zhou	World Aquatics Vice President
DV	M 3m Synchro	SILVER	Mr. Matt Dunn	World Aquatics Second Vice President	
		BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor	
AS	W Solo Technical	–	Mr. Soichiro Takashima	Fukuoka City Mayor	
7/16	OWS	M 10km	–	Mr. Zouheir El Moufti	World Aquatics Bureau Member
	DV	M 1m	–	Mr. Mohamed Diop	World Aquatics Bureau Member
			GOLD	Ms. Veronica Stanham	World Aquatics Bureau Member
	AS	X Duet Technical	SILVER	Mr. Shigehide MATSUYAMA	Kagoshima City Deputy Mayor
			BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
	DV	W 10m Synchro	GOLD	Mr. Bashar Alsaffar	World Aquatics Technical Diving Committee Chairperson
			SILVER	Mr. Suzuki Daichi	Fukuoka OC President
	DV	W 10m Synchro	BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
			GOLD	Ms. Cheryl Gibson	World Aquatics Bureau Member
	AS	Duet Technical	SILVER	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
BRONZE			Mr. Koji MIYAKE	Fukuoka OC Executive Director	
7/17	AS	M Solo Technical	–	Ms. Maureen Croes	World Aquatics Bureau Member

DATE	SPORT	EVENT	RANK	NAME	TITLE
7/17	DV	W 3m Synchro	GOLD	Mr. Algernon Cargill	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
			BRONZE	Mr. Koji MIYAKE	Fukuoka OC Executive Director
	DV	M 10m Synchro	GOLD	Mr. Donald Rukare	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Ms. Doreen Tiborcz	World Aquatics Bureau Member
			BRONZE	Mr. Luiz Fernando Oliveira	World Aquatics Bureau Member
	AS	Acrobatic Routine	GOLD	Mr. Kozo Tashima	Japan Football Association, President & FIFA Council Member
			SILVER	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
			BRONZE	Mr. Toru Yazu	Yazuya Co.,Ltd. President and Managing Director
OWS	W 5km	–	Mr. Khaleel Al Jabir	World Aquatics Bureau Member	
OWS	M 5km	–	Mr. Romani Katoa	World Aquatics Bureau Member	
7/18	DV	Team Event	GOLD	Ms. Joo Hee Park	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Ms. Farida Idriss	World Aquatics Bureau Member
			BRONZE	Mr. Koji Miyake	Fukuoka OC Executive Director
	AS	Team Technical	GOLD	Ms. Ana Fortin	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Mr. Motoyasu Uchikoshi	Fukuoka City Council Chairperson
			BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
AS	M Solo Free	–	Mr. Fernando Carpena	World Aquatics Bureau Member	
7/19	DV	W 10m	–	Ms. WANG Yan	Media Director, NONGFU SPRING
	AS	W Solo Free	–	Mr. Soichiro Takashima	Fukuoka City Mayor
7/20	OWS	6km Team Relay	GOLD	Mr. Kyriakos Giannopoulos	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Mr. Mark Chay	World Aquatics Bureau Member
			BRONZE	Mr. Shoji Shimokawa	Fukuoka City Government Chief Executive
	DV	M 3m	–	Mr. Greg Louganis	5 Time World Aquatics Diving Champion

DATE	SPORT	EVENT	RANK	NAME	TITLE
7/20	AS	Duet Free	GOLD	Ms. Alia Atkinson	World Aquatics Bureau Member & Athletes' Committee Chair
			SILVER	Mr. Yasuyuki Minami	Kinki Nippon Tourist Co.,Ltd
			BRONZE	Mr. Koji Miyake	Fukuoka OC Executive Director
7/21	DV	W 3m	–	Ms. Takane Ishikawa	Nishi-Nippon Railroad Co., Ltd Executive
			GOLD	Mr. Hiroshi Ohba	TV Asahi, Member of the Board
	AS	Team Free	SILVER	Mr. Shinichi Funakoshi	Fukuoka City Chief Executive
			BRONZE	Ms. Ayaka Taguchi	BeBridge, inc. Executive Officer
7/22	AS	X Duet Free	GOLD	Mr. Hiroshi Narita	President of Yakult Honsha
			SILVER	Mr. Daichi Suzuki	World Aquatics Bureau Member
			BRONZE	Mr. Yoji Furumiya	Kyushu Railway Company President and CEO
	DV	X 3m Synchro	GOLD	Ms. Jihong Zhou	World Aquatics Vice President
			SILVER	Ms. Mae Chen	World Aquatics Bureau Member
			BRONZE	Mr. Koji Miyake	Fukuoka OC Executive Director
DV	M 10m	–	Ms. Akie Omagari	Fukuoka Prefectural Government Vice Governor	
7/23	SW	M 400m Freestyle	–	Mr. Sam Ramsamy	World Aquatics First Vice-President
			–	Mr. Ng Ser Miang	IOC Member
			–	Mr. Michael Phelps	23 time Olympic Champion
	SW	W 4x100m Freestyle Relay	GOLD	Ms. Ranomi Kromowidjojo	World Aquatics Athletes' Committee Member
			SILVER	Mr. Errol Clarke	Mr. Errol Clarke
			BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
SW	M 4x100m Freestyle Relay	GOLD	Ms. Ranomi Kromowidjojo	World Aquatics Athletes' Committee Member	
		SILVER	Mr. Errol Clarke	Mr. Errol Clarke	
		BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor	
7/24	SW	M 100m Breaststroke	–	Ms. Khunying Patama Leeswadtrakul	IOC Member

DATE	SPORT	EVENT	RANK	NAME	TITLE
7/24	SW	W 100m Butterfly	–	Ms. Otylia Jedrzejczak	World Aquatics Bureau Member
	SW	M 50m Butterfly	–	Mr. Antonio Silva	World Aquatics Vice President
	SW	W 200m IM	–	Mr. Soichiro Takashima	Fukuoka City Mayor
7/25	SW	M 200m Freestyle	–	H.E. Péter Szijjártó	Minister of Foreign Affairs and Trade of Hungary
	SW	W 1500m Freestyle	–	Mr. Roberto Colletto	CEO, Myrtha Pools
	SW	W 100m Backstroke	–	Mr. Daichi Suzuki	World Aquatics Bureau Member
	SW	M 100m Backstroke	–	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
	SW	W 100m Breaststroke	–	Mr. Satoshi Ashidate	Japan Sport Council President
	HD	Women's High Diving	–	Dr. Donald Rukare	World Aquatics Bureau Member
7/26	SW	M 800m Freestyle	–	Dr. Somsak Leeswadtrakul	Member of the President's Advisory Board
	SW	W 200m Freestyle	–	Dr. Josip Varvodic	World Aquatics Bureau Member
	SW	M 200m Butterfly	–	Mr. Michael Phelps	23 time Olympic Champion
	SW	M 50m Breaststroke	–	Mr. Anant Singh	IOC Member
	SW	X 4x100m Medley Relay	GOLD	Mr. Virendra Nanavati	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Ms. Sarah Keane	World Aquatics Bureau Member
BRONZE			Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor	
HD	Men's High Diving	–	Ms. Jihong Zhou	World Aquatics Vice President	
7/27	SW	W 200m Butterfly	–	Mr. Chris Brearton	Member of the President's Advisory Board
	SW	M 100m Freestyle	–	Mr. Anthony Ervin	World Aquatics Athletes' Committee Member
	SW	W 50m Backstroke	–	Mr. Kazuhiro Matsumoto	General Manager, Grand Hyatt Fukuoka
	SW	M 200m IM	–	Mr. Dale Neuburger	World Aquatics Treasurer
	SW	W 4x200m Freestyle Relay	GOLD	Mr. Matthew Dunn	World Aquatics Second Vice President
			SILVER	Mr. Hidesumi Kaneko	Japan Swimming Federation Vice President
BRONZE			Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor	

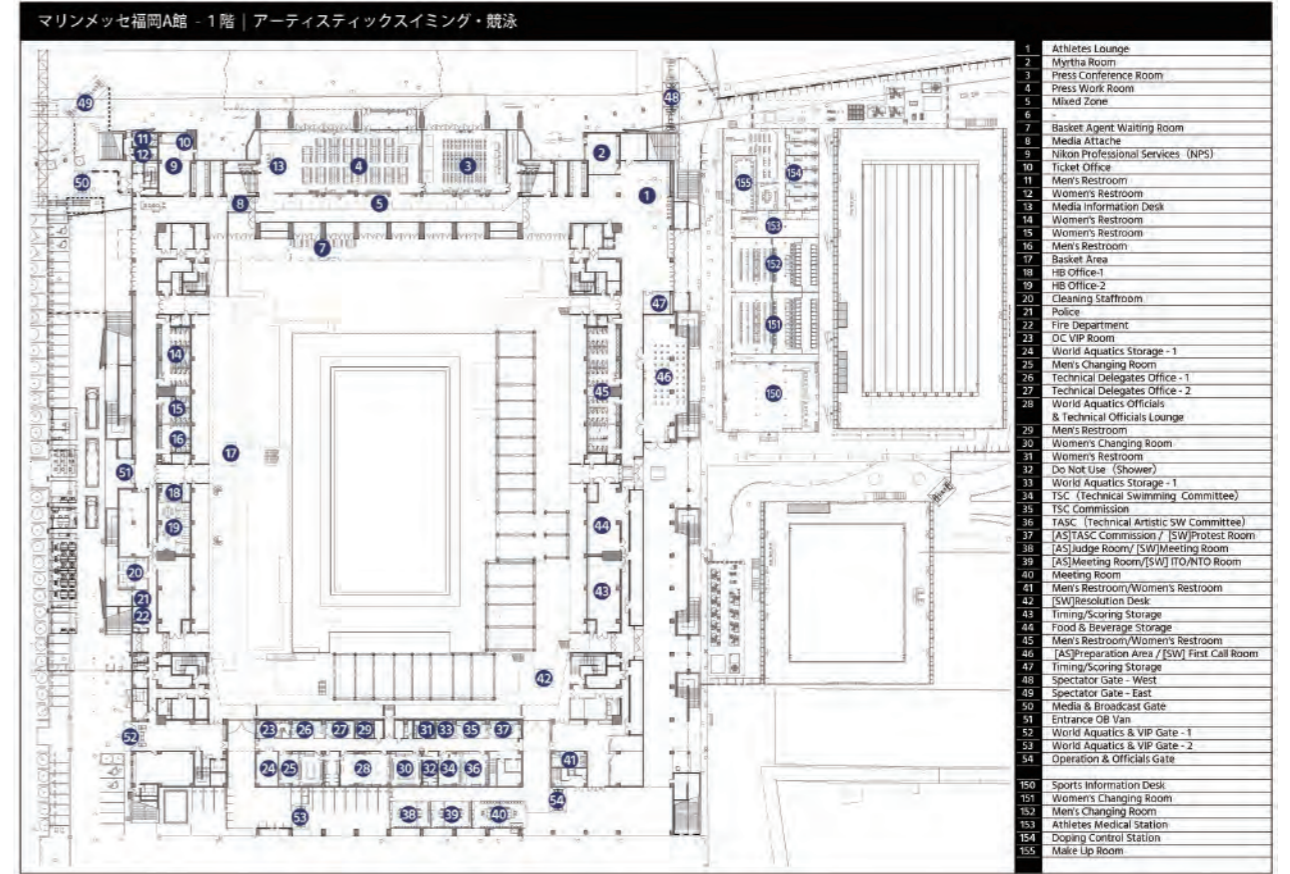
DATE	SPORT	EVENT	RANK	NAME	TITLE
7/28	WP	Women	GOLD	Mr. Josip Varvodić	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Mr. Takuji Kumamoto	Fukuoka Financial Group / Executive Officer
			BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
7/28	SW	W 100m Freestyle	–	Ms. Ranomi Kromowidjojo	World Aquatics Athletes' Committee Member
	SW	W 200m Breaststroke	–	Mr. Sam Ramsamy	World Aquatics First Vice President
	SW	M 200m Backstroke	–	Mr. Sandor Wladar	World Aquatics Bureau Member
	SW	M 200m Breaststroke	–	Mr. Kosuke Kitajima	4 Time Olympic Champion
	SW	M 4x200m Freestyle Relay	GOLD	Mr. Tetsuo Yamazumi	Fukuoka Swimming Federation Chairman
			SILVER	Ms. Monica Changanamuno	World Aquatics Bureau Member
7/29	WP	Men	BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
			GOLD	Mr. Vanja UDOVIČIĆ	World Aquatics Bureau Member
			SILVER	Mr. Kyriakos Giannopoulos	World Aquatics Bureau Member
7/29	SW	W 50m Butterfly	–	Mr. Soichiro Takashima	Fukuoka City Mayor
	SW	M 50m Freestyle	–	Mr. Anthony Ervin	World Aquatics Athletes' Committee Member
	SW	M 100m Butterfly	–	Mr. Sami Wahlman	World Aquatics Bureau Member
	SW	W 200m Backstroke	–	Mr. Seitaro Hattori	Fukuoka Prefectural Governor
	SW	W 800m Freestyle	–	Ms. Begonia Goce	Omega, Sports Marketing Project Manager
	SW	X 4x100m Freestyle Relay	GOLD	Mr. António Silva	World Aquatics Vice President
SILVER			Mr. Sumio Kuratomi	Kyushu Economic Federation Chairman	
BRONZE			Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor	
7/30	SW	M 50m Backstroke	–	Ms. Farida Idriss	World Aquatics Bureau Member
	SW	W 50m Breaststroke	–	Mr. Soichiro Takashima	Fukuoka City Mayor
	SW	M 1500m Freestyle	–	Mr. Kyu Saito	Hisamitsu Pharmaceutical Senior Exec. Officer

DATE	SPORT	EVENT	RANK	NAME	TITLE
7/30	SW	W 50m Freestyle	–	Mr. Daichi Suzuki	World Aquatics Bureau Member
	SW	W 400m IM	–	Mr. Soichiro Takashima	Fukuoka City Mayor
	SW	M 4x100m Medley Relay	GOLD	Mr. Brent J. Nowicki	World Aquatics Executive Director
			SILVER	Mr. Hiromichi Tanigawa	Chamber of Commerce and Industry Chairman
			BRONZE	Mr. Eiichi Nakamura	Fukuoka City Deputy Mayor
	SW	W 4x100m Medley Relay	GOLD	Mr. Shinji Heima	Sports Bureau Fukuoka Prefectural Gov.ED
			SILVER	Ms. Jessica Hansen	World Aquatics Athletes' Committee Member
			BRONZE	Mr. Morito Takeshita	Sekisui House Ltd.

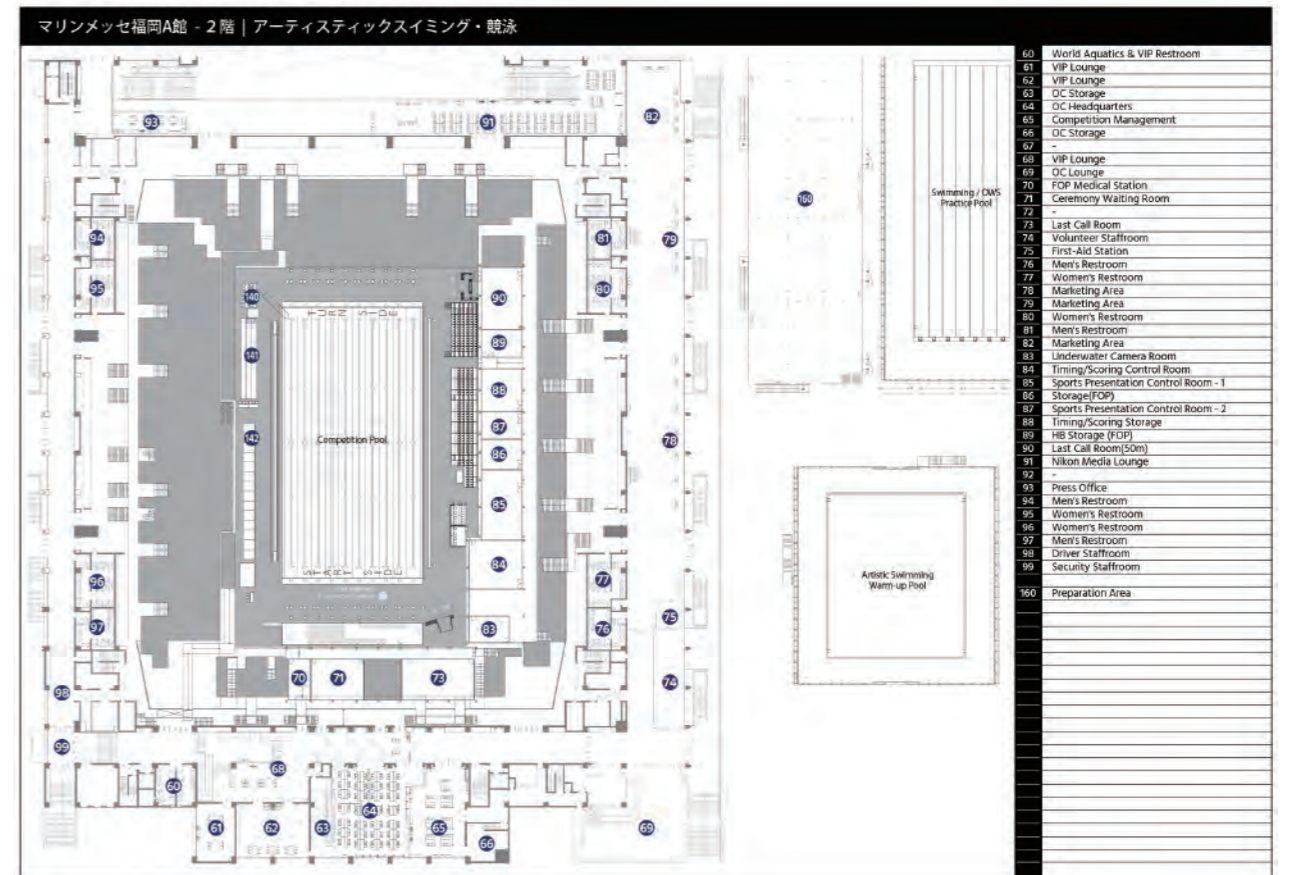
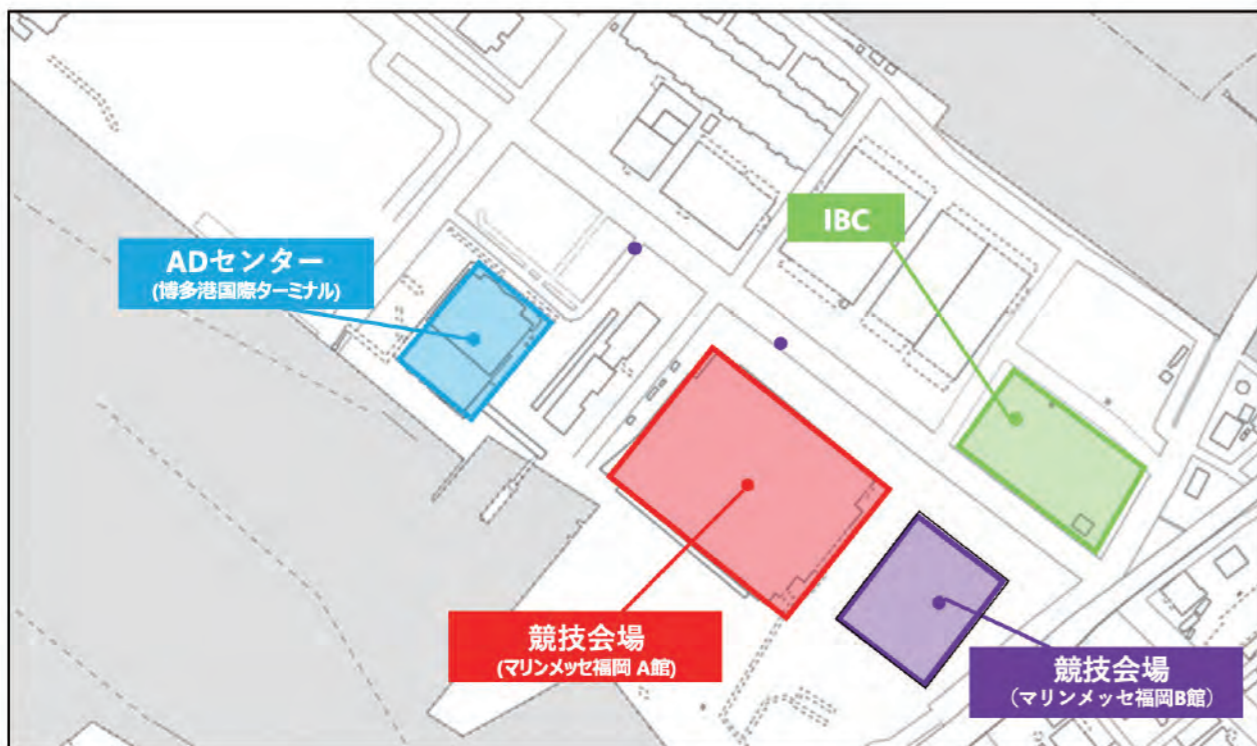
【マスターズ】

NAME	TITLE
Mr. António Silva	World Aquatics Vice President
Ms. Nadine Day	World Aquatics Masters Technical Committee Chairperson
Mr. Ioannis Montesantos	World Aquatics Masters Technical Committee Vice Chairperson
Mr. Hordur J. Oddfridarson	World Aquatics Masters Technical Committee Member
Ms. Ulrike Urbaniak	World Aquatics Masters Technical Committee Member
Ms. Edith Clashing	World Aquatics Masters Technical Committee Events Sub-Committee Member
Mr. Roger Eagles	World Aquatics Masters Technical Committee Events Sub-Committee Member
Mr. Padhanaseth Changkasiri	World Aquatics Masters Technical Committee Member
Mr. Boris Drobac	World Aquatics Masters Technical Committee Member
Ms. Michelle Maree Gallen	World Aquatics Masters Technical Committee Member
Ms. Alia Atkinson	World Aquatics Bureau Member & Athletes' Committee Chairperson
Mr. Daniel Kowalski	World Aquatics Athletes' Committee Member
Mr. Anthony Ervin	World Aquatics Athletes' Committee Member
Mr. Koji Suzuki	Fukuoka 2023 Organising Committee Sports Department Director
Mr. Shigehiro Takahashi	Japan Masters Swimming Association President
Mr. Yoichi Nakamura	Japan Masters Swimming Association Vice President
Mr. Tatsuo Jihira	Japan Masters Swimming Association Executive Director
Mr. Toshio Tokura	Japan Masters Swimming Association Executive Director
Mr. Koichiro Marusasa	Japan Masters Swimming Association Director and Japan Swimming Federation Senior Executive Director
Mr. Akinori Yatsuzuka	Japan Masters Swimming Association Director and Japan Swimming Federation Senior Executive Director
Ms. Mai Nakamura	2000 Olympic 100m Backstroke silver medalist and Japan Masters Swimming Association Director
Ms. Reiko Nakamura	2004 & 2008 Olympic 200m Backstroke bronze medalist and Japan Masters Swimming Association Promotion Committee Member
Mr. Tasahisa Nakagaito	Kumamoto City Deputy Mayor
Mr. Takao Shimozuru	Kagoshima City Mayor and Fukuoka 2023 Organising Committee Member
Mr. Iwane Matsueda	Kagoshima City Deputy Mayor

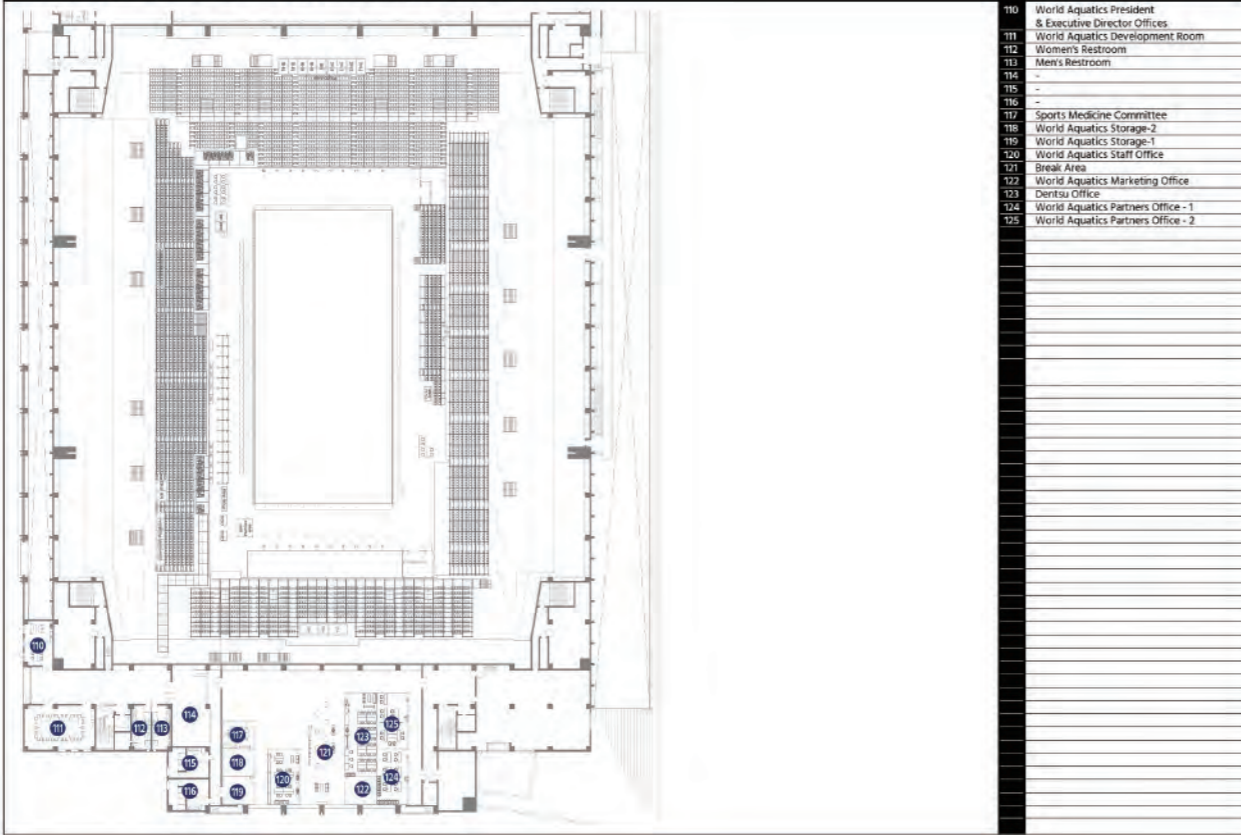
4 競技会場図



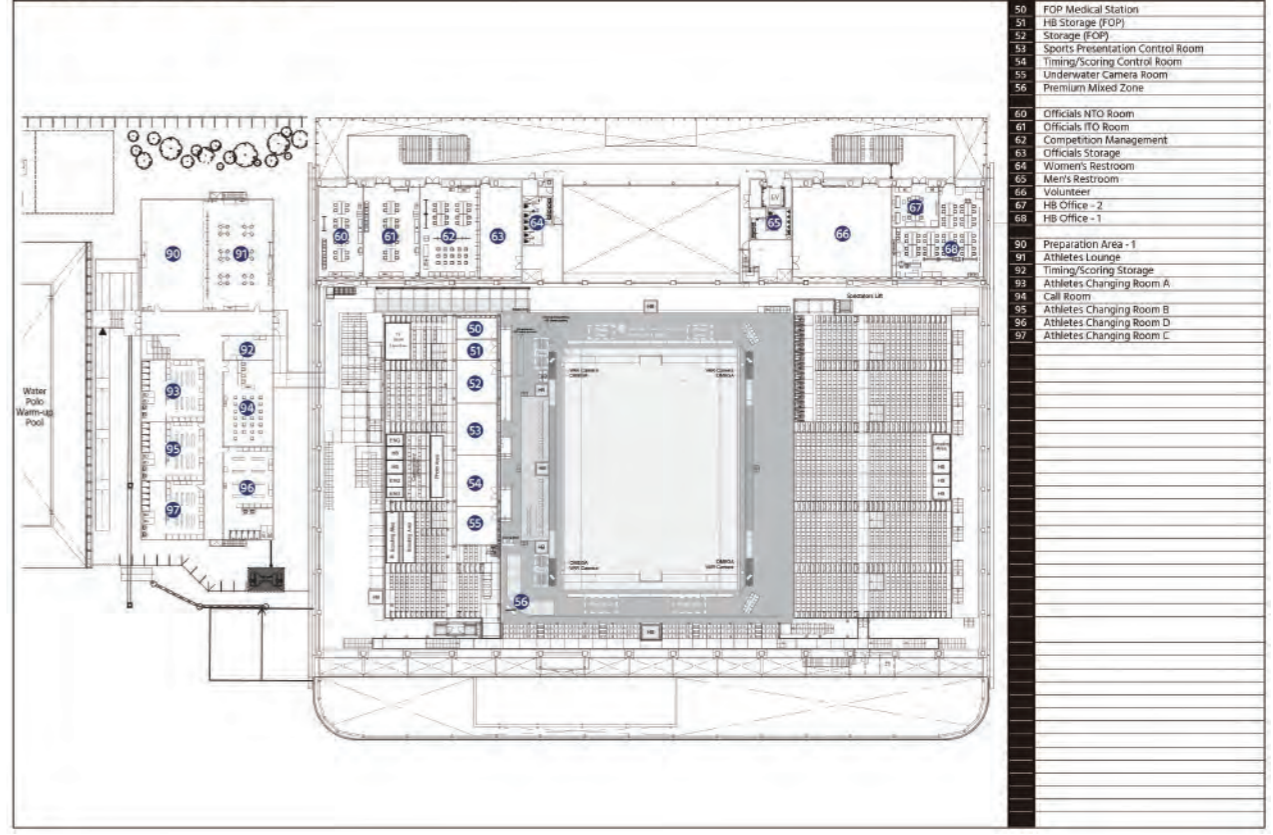
マリメッセA・B館、ADセンター、IBCの位置関係について



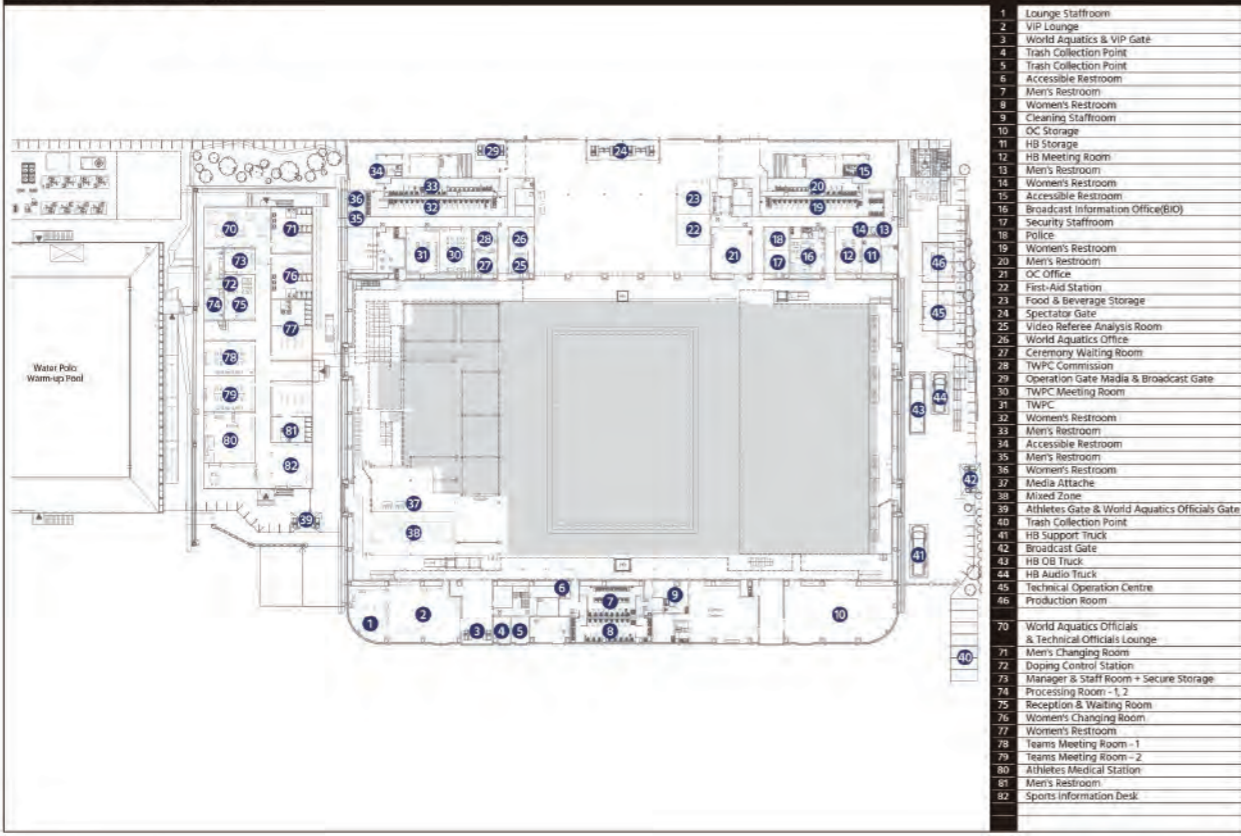
マリンメッセ福岡A館 - 3階 | アーティスティックスイミング・競泳



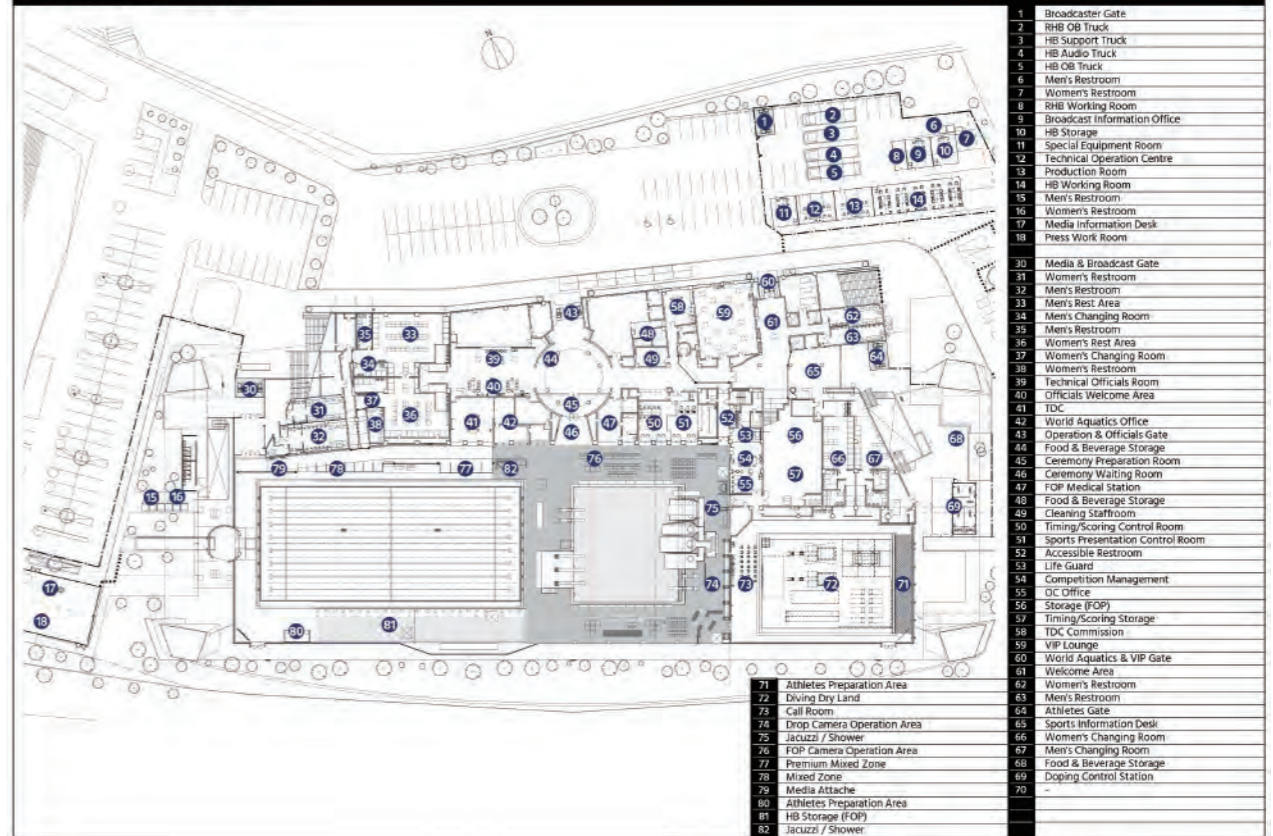
マリンメッセ福岡B館 - 2階・FOP | 水球



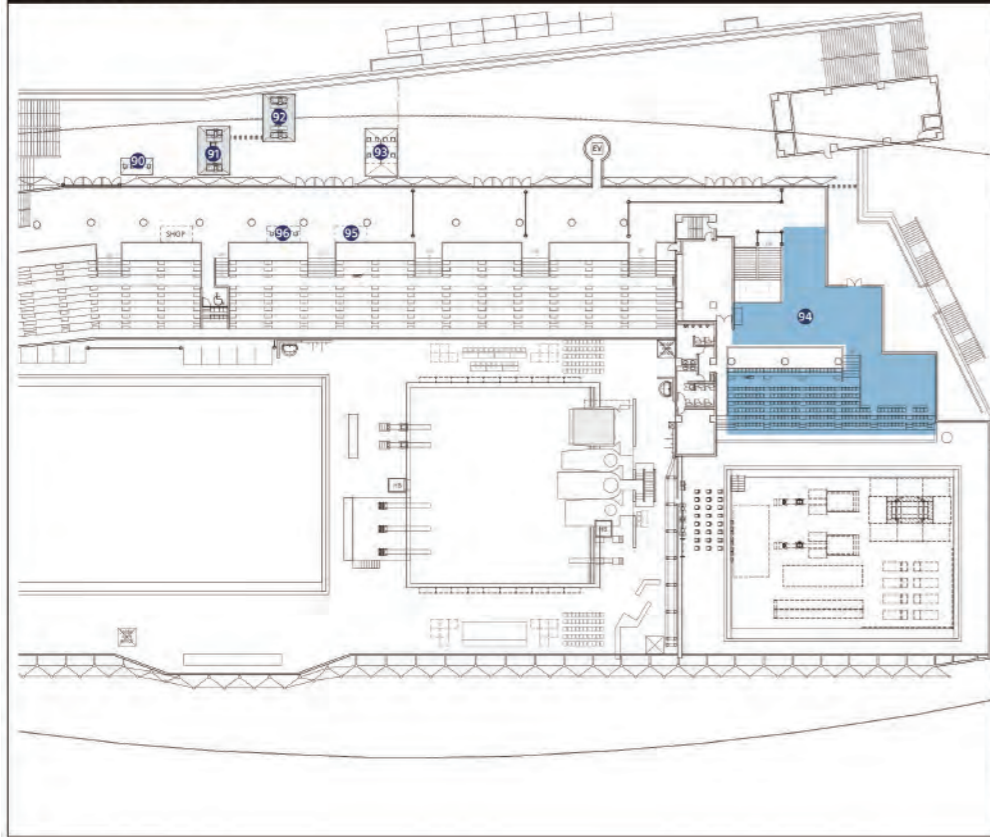
マリンメッセ福岡B館 - 1階 | 水球



福岡県立総合プール - 1階 | 飛込

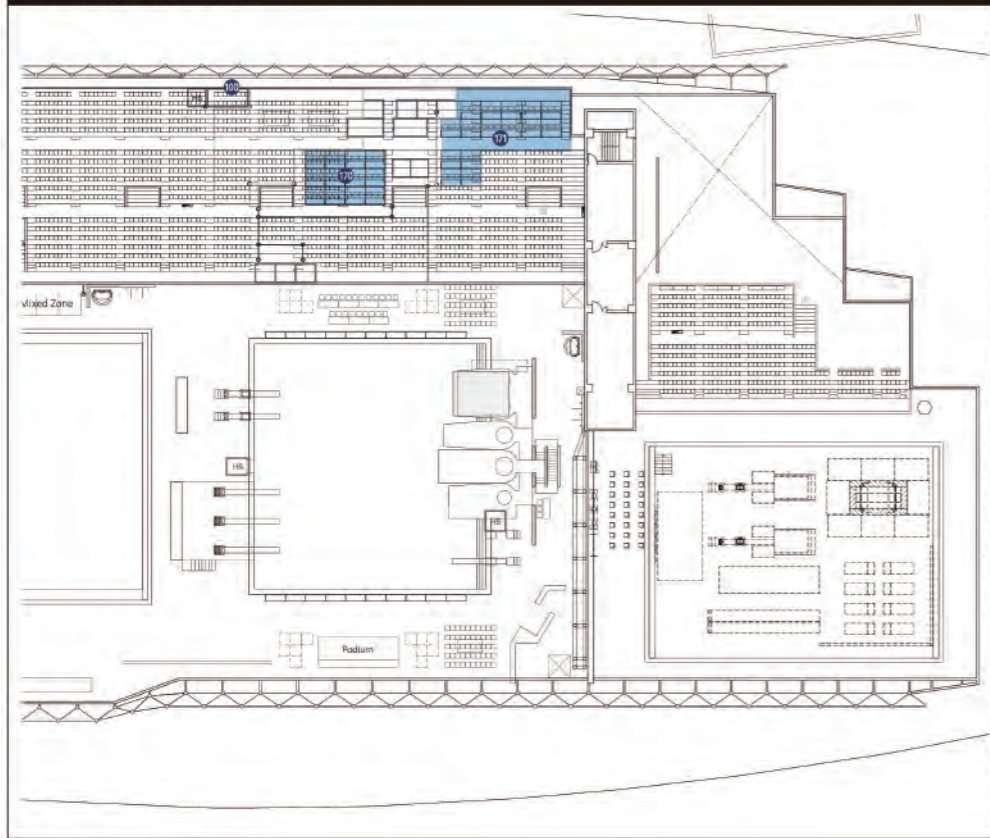


福岡県立総合プール - 2階 | 飛込



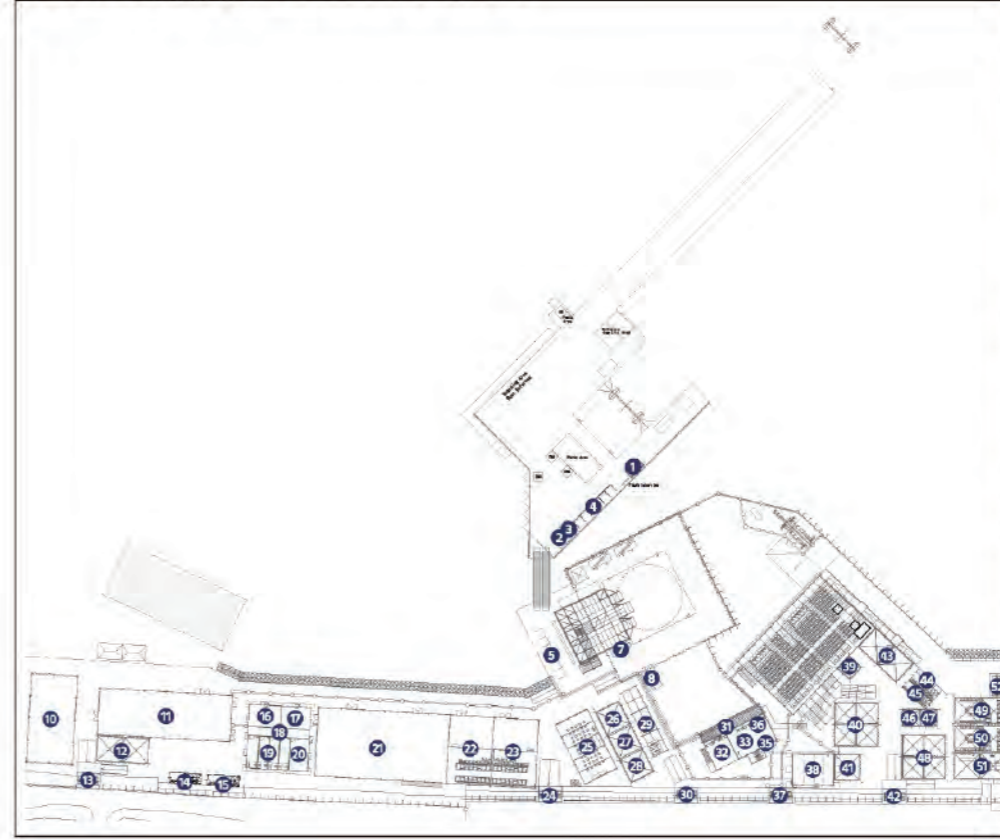
- 90 Ticket Office
- 91 Spectator Gate - 1
- 92 Spectator Gate - 2
- 93 First-Aid Station
- 94 Athletes Lounge
- 95 Information Desk
- 96 Official Store

福岡県立総合プール - 3階 | 飛込



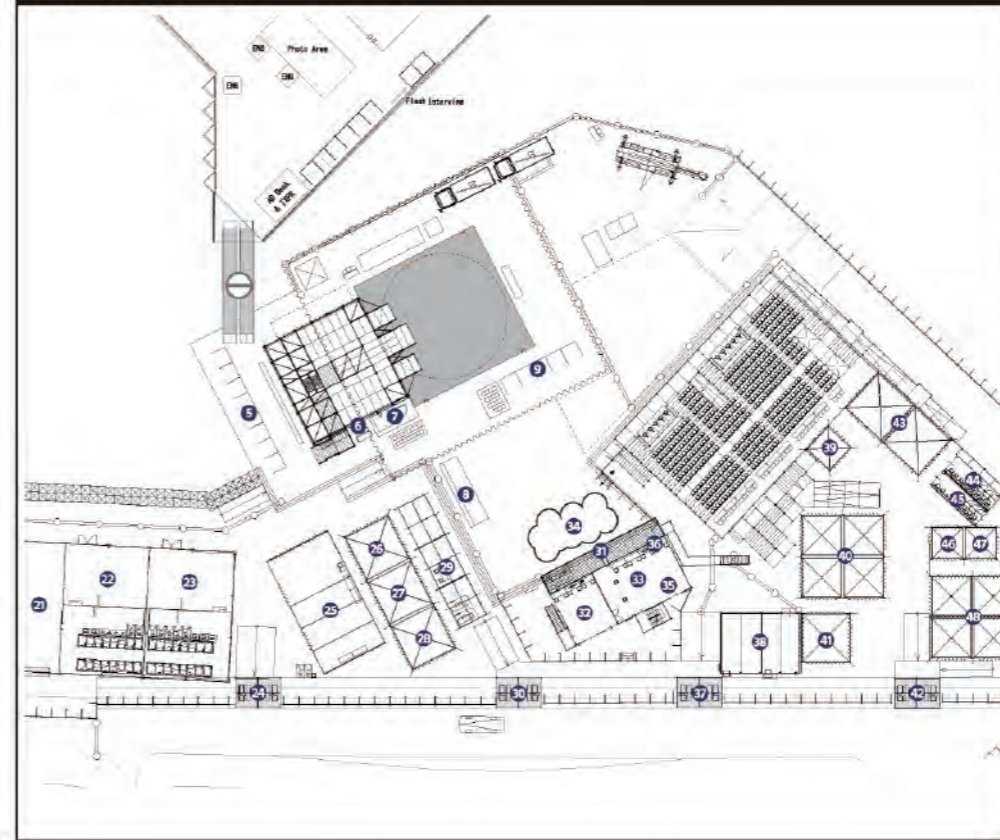
- 90 Ticket Office
- 91 Spectator Gate - 1
- 92 Spectator Gate - 2
- 93 First-Aid Station
- 94 Athletes Lounge
- 95 Information Desk
- 96 Official Store

シーサイドももち海浜公園 FOP | オープンウォータースイミング

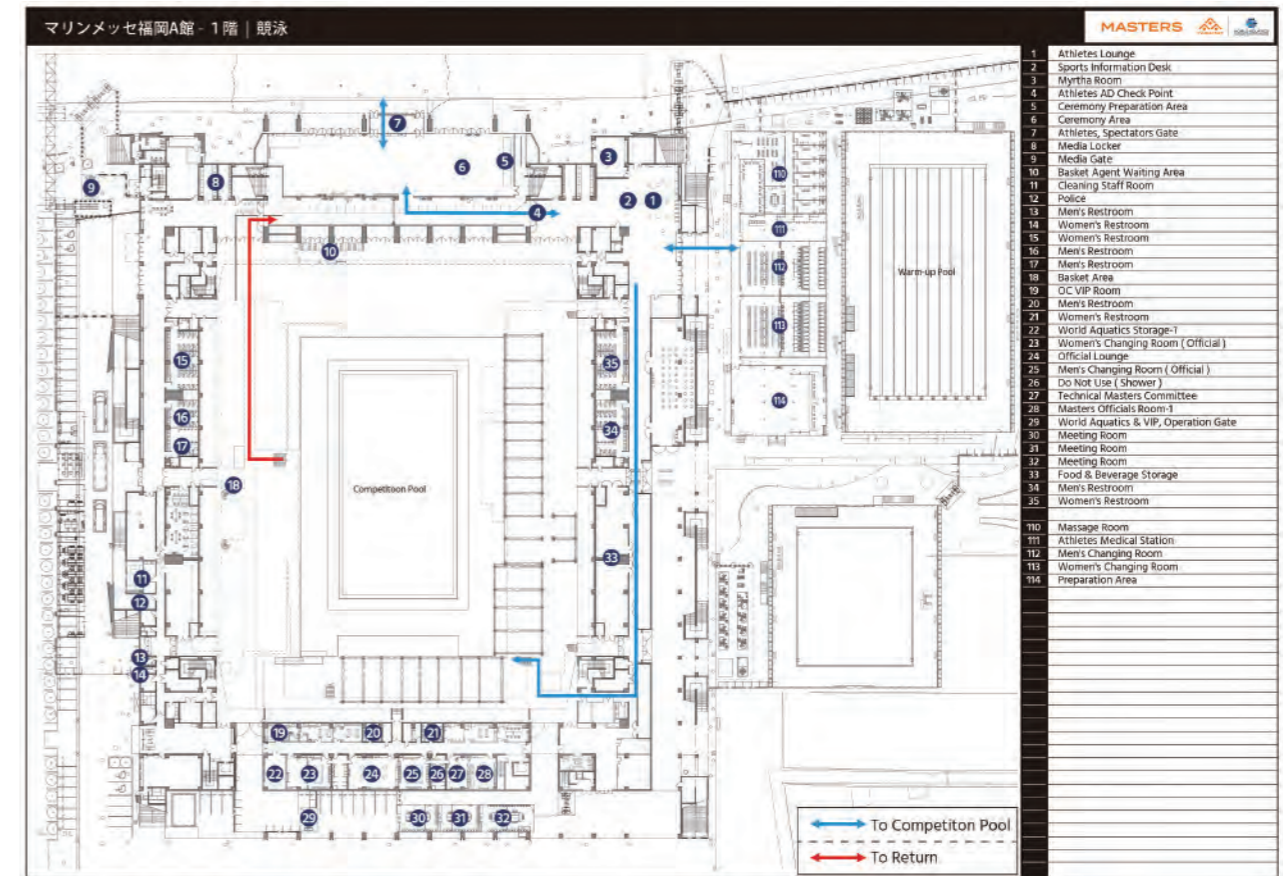
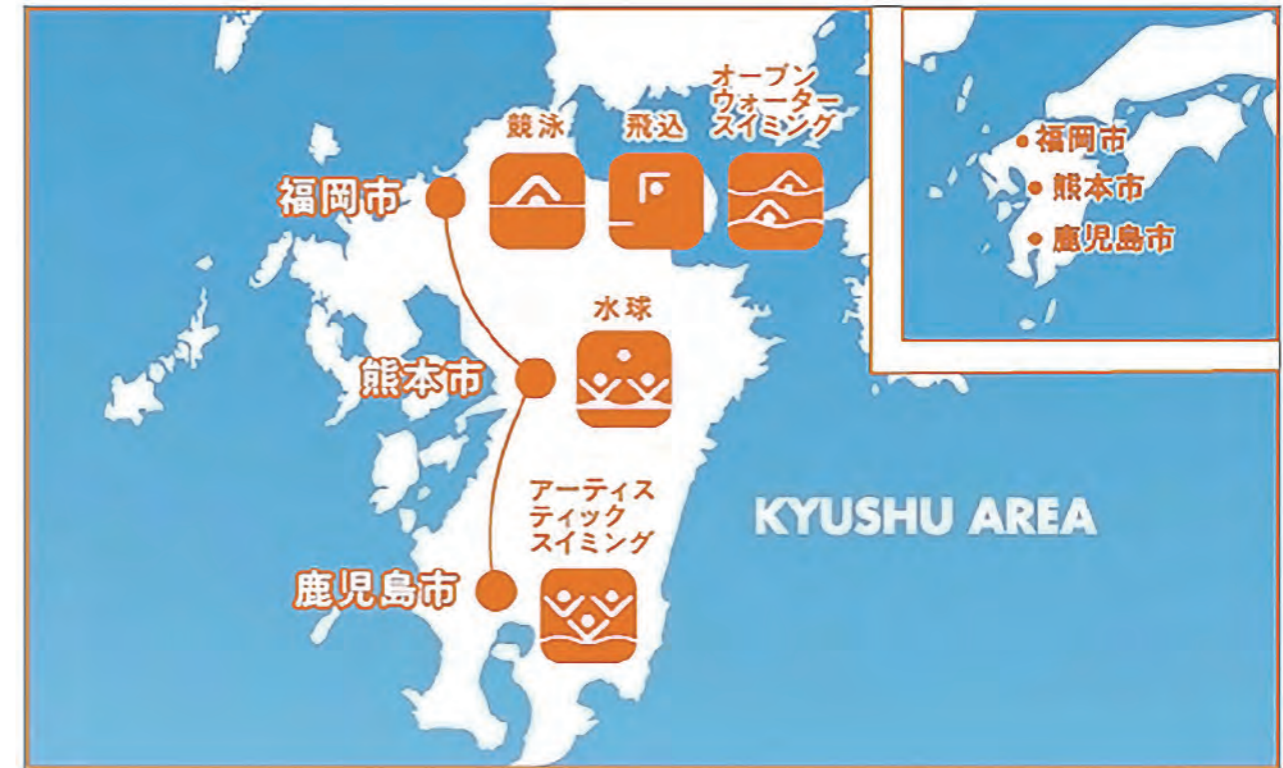
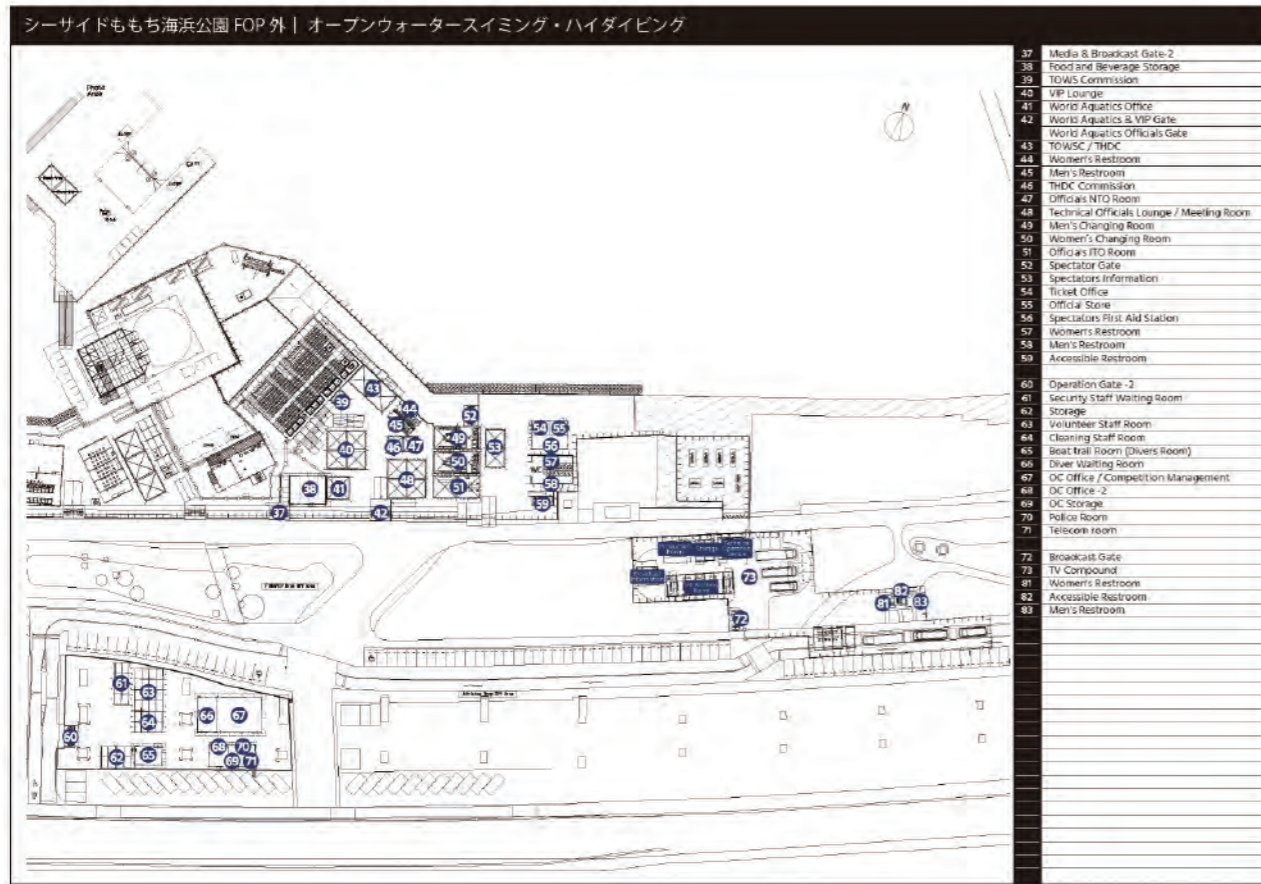


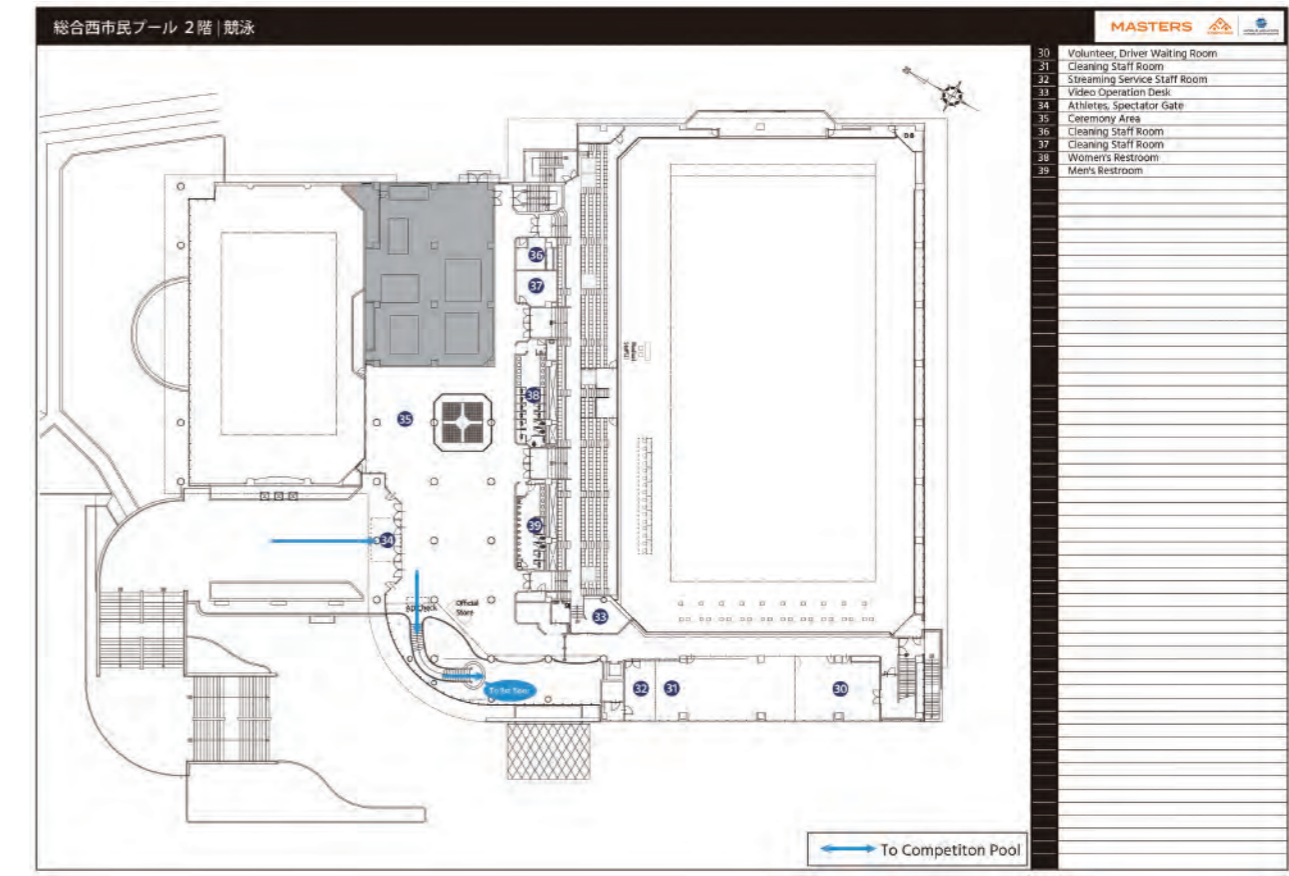
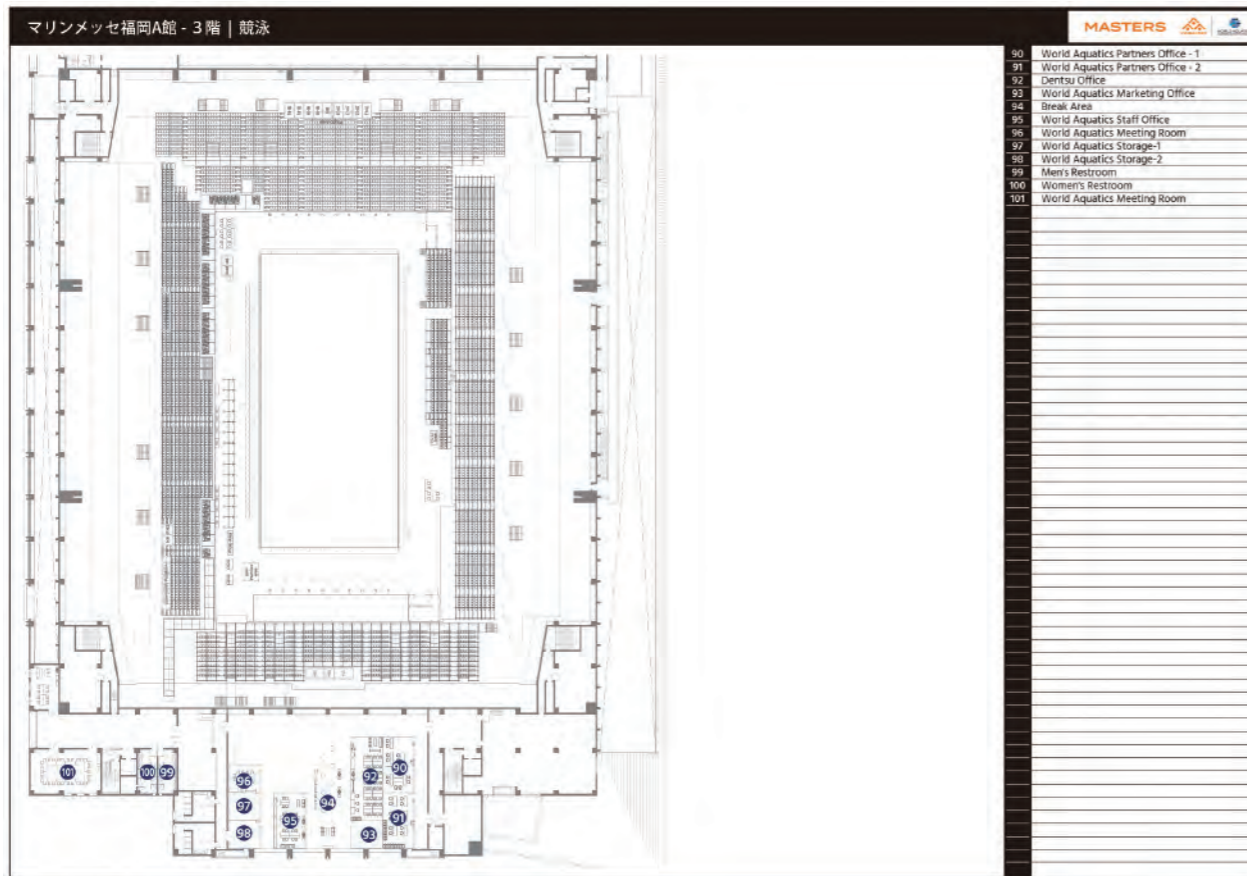
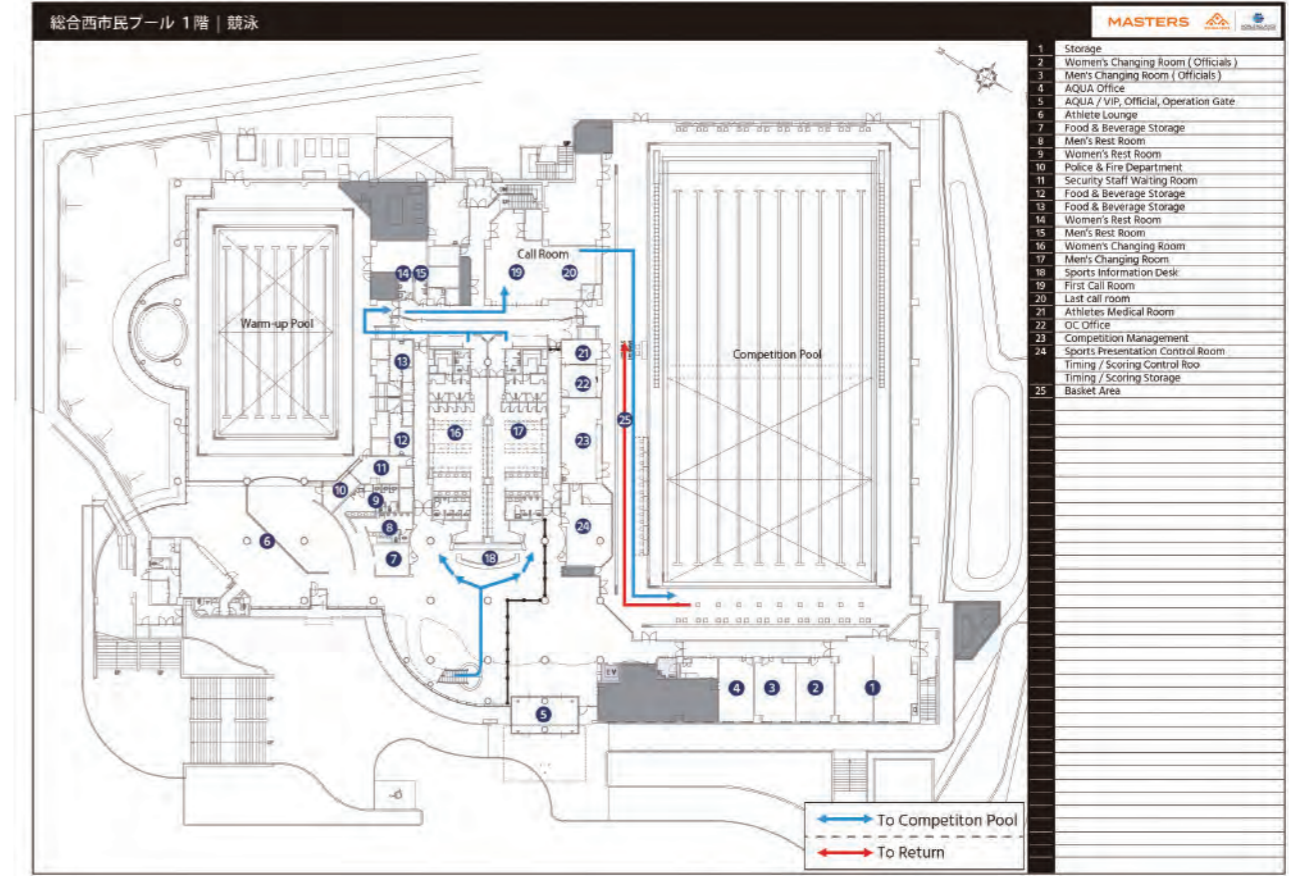
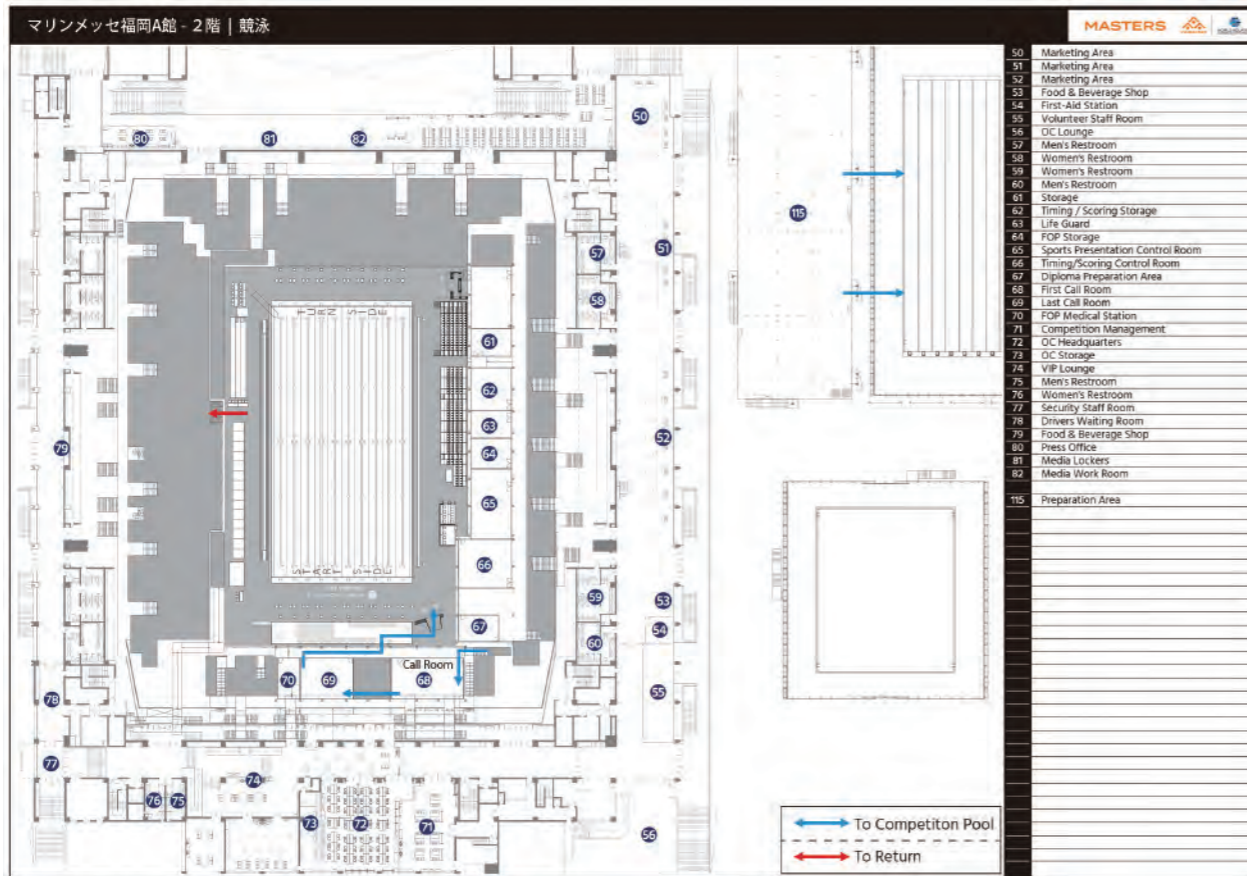
- 1 First Aid
- 2 Doping Desk
- 3 AD Desk
- 4 OVS Premium Mixed Zone
- 5 Mixed Zone
- 6
- 7 Jacuzzi / Shower
- 8 Podium
- 9
- 10 Timing / Scoring Storage-1
- 11 Media Information Desk
- 12 Press Lounge
- 13 Press Work Room
- 14 Press Conference Room
- 15 Press Office
- 16 Media & Broadcast Gate-1
- 17 Men's Restroom
- 18 Women's Restroom
- 19 Manager & Staff Room
- 20 Reception & Waiting Room
- 21 Doping Control Station
- 22 Processing Room
- 23 Secure Storage
- 24 Massage Area
- 25 Sports Information
- 26 Athletes Lounge
- 27 Men's Changing Room
- 28 Women's Changing Room
- 29 Athletes Gate
- 30 Lact Call Room
- 31 First Call Room / Ceremonies waiting Area(Ath)
- 32 First Call Room / Ceremonies waiting Area(VIP)
- 33 Ceremonies Prep Area
- 34 Athlete Medical Station
- 35 Operation Gate - 1
- 36 Judges seating [2F]
- 37 Sports Presentation Control Room [2F]
- 38 Timing / Scoring Control Room [2F]
- 39
- 40 Timing / Scoring Storage - 2 [1F]
- 41 FOI Meeting Room [1F]
- 42 Media & Broadcast Gate-2
- 43 Athletes Gate-2
- 44 Food and Beverage Storage
- 45 TOVS Commission
- 46 VIP Lounge
- 47 World Aquatics Office
- 48 World Aquatics & VIP Gate
- 49 World Aquatics Officials Gate
- 50 TOVSC / THDC
- 51 Women's Restroom
- 52 Men's Restroom
- 53 THDC Commission
- 54 MTO Room
- 55 Technical Officials Lounge / Meeting Room
- 56 Men's Changing Room
- 57 ITO Room
- 58 Spectator Gate

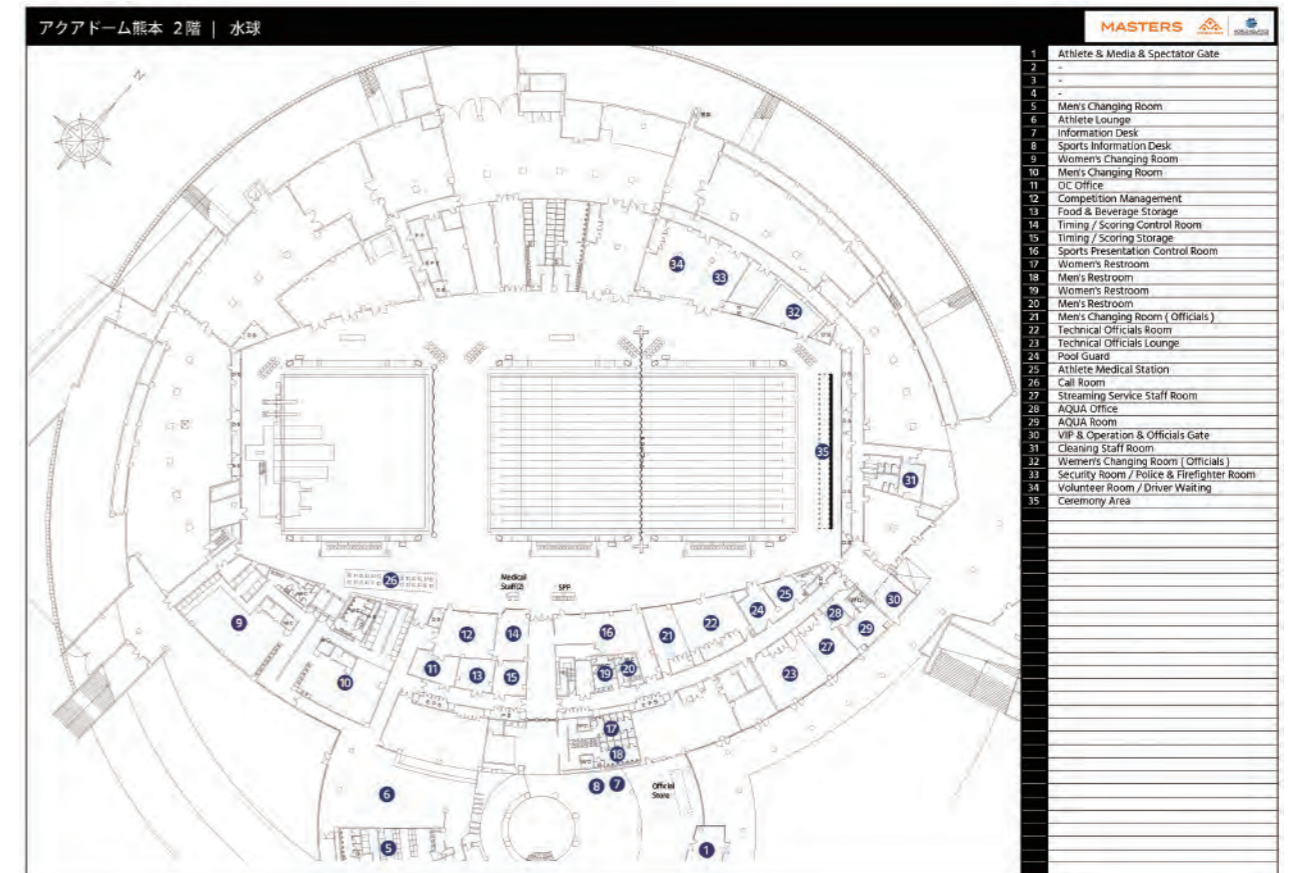
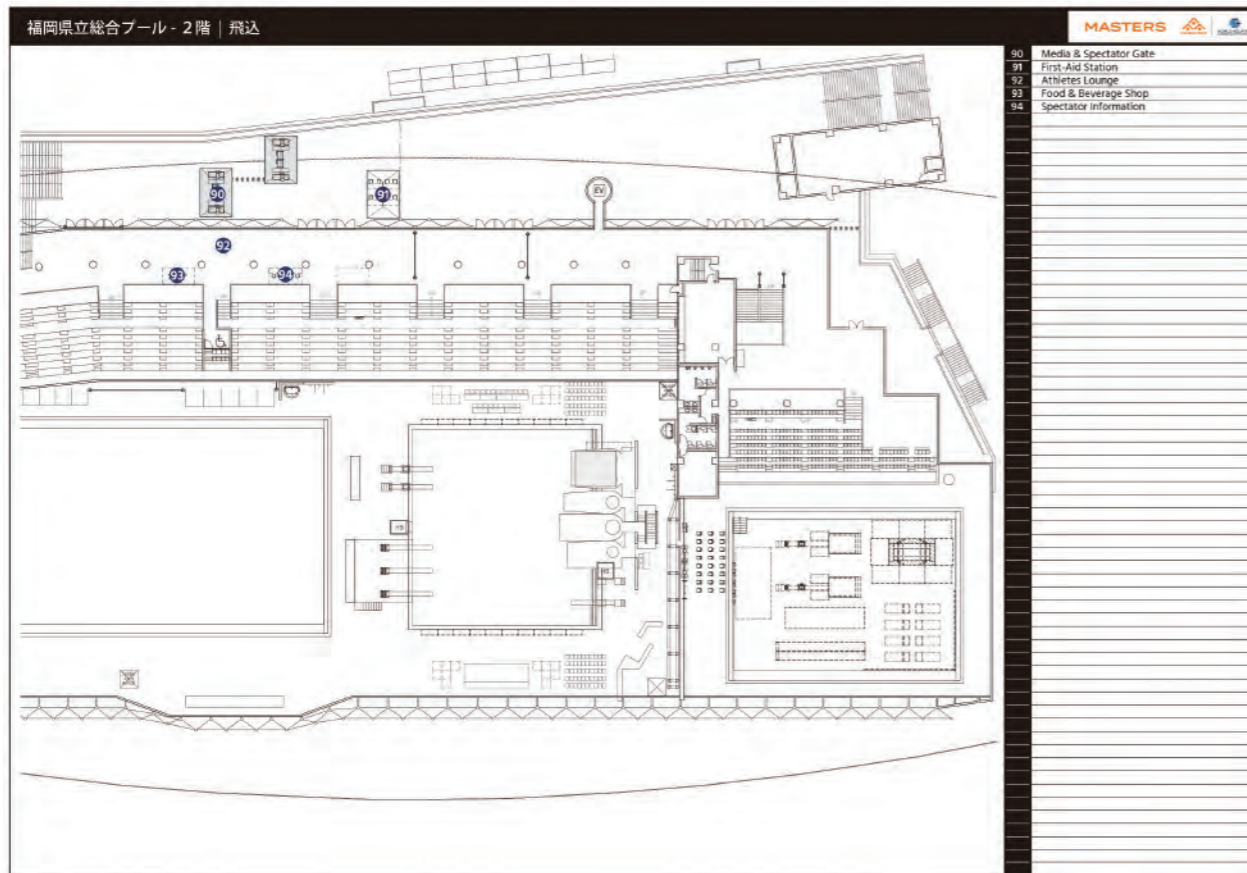
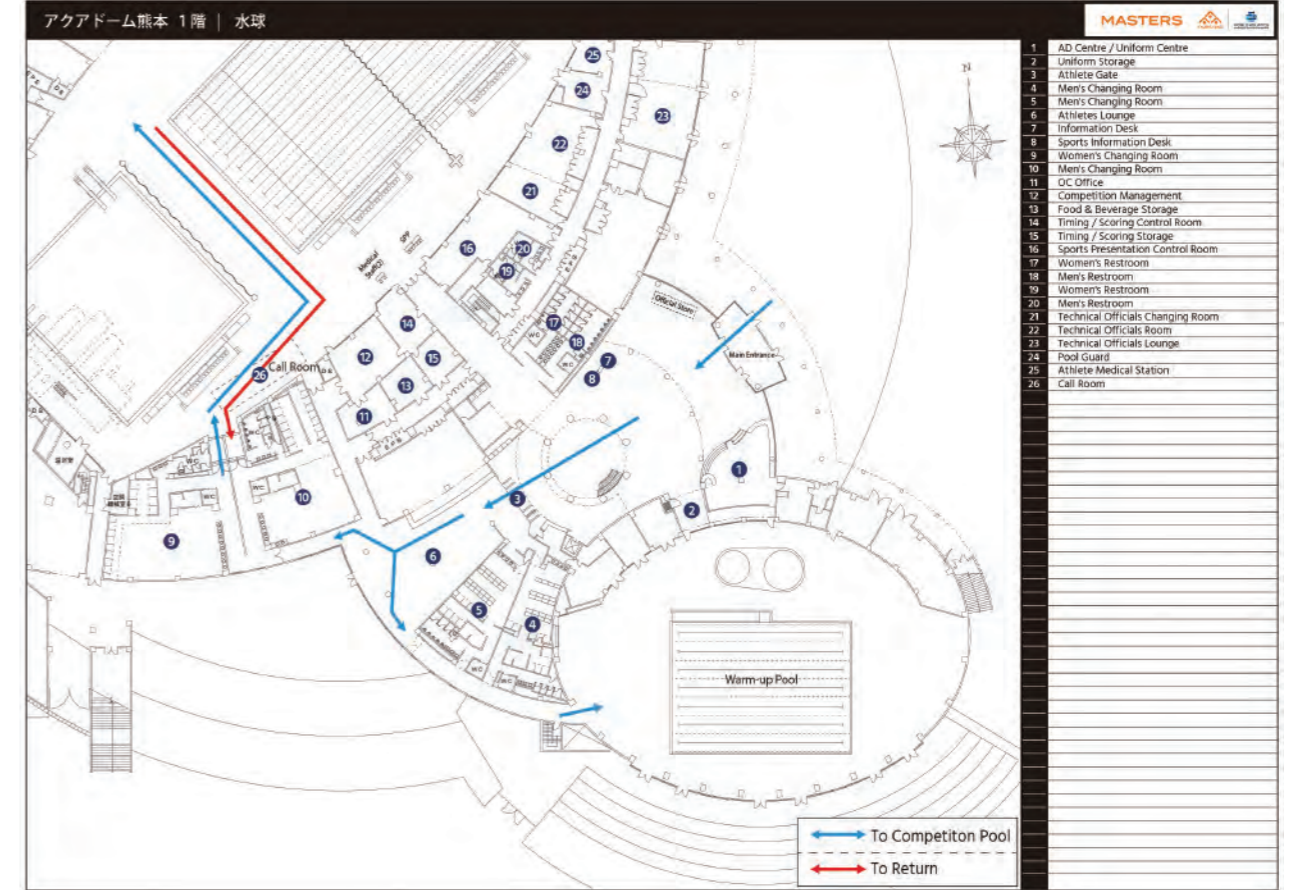
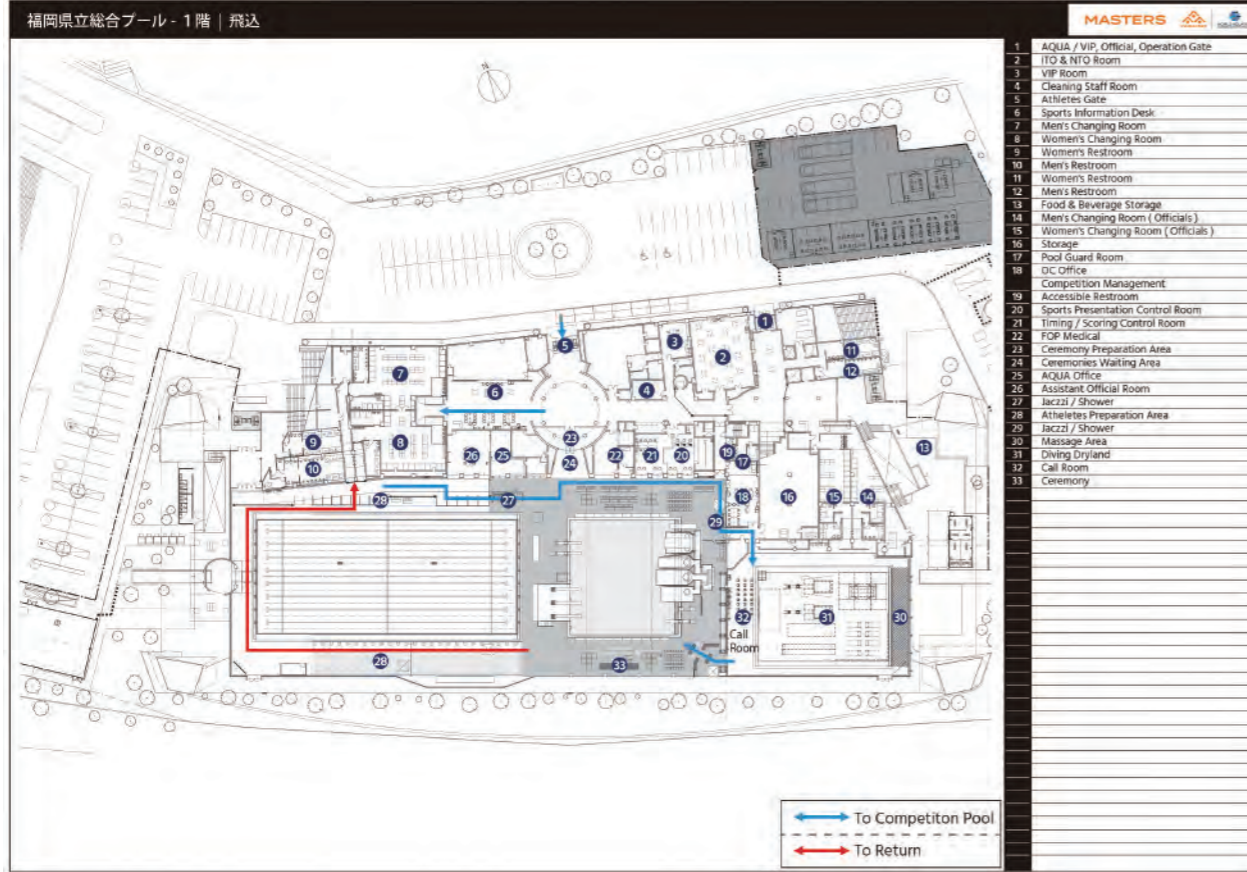
シーサイドももち海浜公園 FOP | ハイダイビング



- 1
- 2
- 3
- 4 Mixed Zone
- 5 AD Desk / Doping Desk
- 6 Jacuzzi / Shower
- 7 Kiss and Smile / Podium
- 8 Premium Mixed Zone
- 9 Premium Mixed Zone
- 10 Timing / Scoring Storage-1
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21 Massage Area
- 22 Sports Information
- 23 Athlete Lounge
- 24 Men's Changing Room
- 25 Women's Changing Room
- 26 Athletes Gate
- 27 Call Room
- 28 Ceremonies Waiting Area(Ath)
- 29 Ceremonies Waiting Area(VIP)
- 30 Ceremonies Prep Area
- 31 Athlete Medical Station
- 32 Operation Gate - 1
- 33 Judges Seating [2F]
- 34 Sports Presentation Control Room [2F]
- 35 Timing / Scoring Control Room [2F]
- 36 Athlete Rest Area
- 37 Timing / Scoring Storage - 2 [1F]
- 38 FOI Meeting Room [1F]
- 39 Media & Broadcast Gate-2
- 40 Food and Beverage Storage
- 41 TOVS Commission
- 42 VIP Lounge
- 43 World Aquatics Office
- 44 World Aquatics & VIP Gate
- 45 World Aquatics Officials Gate
- 46 TOVSC / THDC
- 47 Women's Restroom
- 48 Men's Restroom
- 49 THDC Commission
- 50 Officials MTO Room
- 51 World Aquatics Officials & Technical Officials Lounge Meeting Room







世界水泳選手権2023福岡大会
世界マスターズ水泳選手権2023九州大会

2024年3月発行

■編集・発行：世界水泳選手権2023福岡大会組織委員会

■印刷・製本：株式会社西日本新聞プロダクツ

[写真提供]

世界水泳連盟公式フォトグラファー：岸本 勉 Aniko Kovacs
中村 博之 Istvan Derencsenyi
二宮 涉 Mike Lewis
大会組織委員会公式フォトグラファー：筒井 剛史
九州産業大学 写真・映像メディア学科
オールスポーツコミュニティ